



Japanese Association of Certified Orthoptists

視能訓練士実態調査報告書

2020年

目 次

はじめに

2020年度調査結果

2020年度調査の概要	1
1. 本調査の目的	
2. 調査対象	
3. 調査方法	
4. 調査実施の手続き	
5. 調査期間	
6. 回収率	
7. 回答の偏り	
I 一般事項	3
1. 男女比	
2. 年齢構成	
3. 勤務年数	
4. 勤務している地域	
5. 視能訓練士養成所に入学前の学歴	
6. 資格の取得課程	
7. 免許取得後の進学	
8. 視能訓練士以外の所持資格	
II 勤務体制	8
1. 勤務形態	
2. 非正規職員の勤務形態	
3. 年間所得	
4. 時間給	
5. 施設の運営主体	
6. 採用形態	
7. 施設内の視能訓練士の人数	
8. 1診療（医師1名）に対する視能訓練士の人数	
9. 視能訓練士の増員や常勤化についての相談	
10. 勤務日数と有給休暇	
11. 育児休業および介護休業制度	
12. 離職・休職	
13. 転職	

Ⅲ 勤務状況	27
1. 業務概要	
2. 業務内容	
3. 医療事故	
4. 他の医療関連職種とのトラブル	
5. ハラスメント	
Ⅳ 視能訓練士の養成	32
1. 修業機関	
2. 修業年数	
3. 修業内容の評価	
4. 充実を必要とする科目	
5. 教育への関与	
6. 臨床（臨地）実習の期間	
7. 臨床（臨地）実習の受け入れ経験	
8. 今後の臨床（臨地）実習の受け入れ	
9. 臨床（臨地）実習の方法	
Ⅴ 卒後教育	44
1. 業務上の疑問点の解決方法	
2. 相談先	
3. 利用する雑誌	
4. 職場内の勉強会	
5. 職場外の勉強会	
6. 卒後教育で希望する項目	
Ⅵ 将来展望	52
1. 職場現状の評価	
2. 仕事のやりがい	
3. 現状に対する満足度	
4. 現在の職場の継続	
5. 視能訓練士の将来性	
6. 視能訓練士としての継続	
Ⅶ その他	60
会員の皆さまの声	61
資料1. アンケート調査票	63
資料2. アンケート集計結果	70

2020年度調査の概要

1. 本調査の目的

視能訓練士の実態を把握し、視能訓練士がおかれている現況や将来のあり方の指針とすることを目的とする。

2. 調査対象

(公社) 日本視能訓練士協会の正会員 (2019年3月末現在)

3. 調査方法

郵送によるアンケート調査

4. 調査実施の手続き

- ・(公社) 日本視能訓練士協会、白書委員会にて設問の作成
- ・(株) リューブに調査票の印刷、発送を委託
- ・(公社) 日本視能訓練士協会 事務局が調査票を回収
- ・(株) 横浜クレセールにデータの入力、集計を委託

5. 調査期間

2019年8月1日～2019年9月30日

6. 回収率

発送数：6,383通

回答数：2,604通 (回収率40.8%)

7. 回答の偏り

会員名簿と回答者について年齢、性別を比較したところ、概ね同様の傾向を示し、特定の年齢層や性別による偏りはみられなかった (図1, 2)。

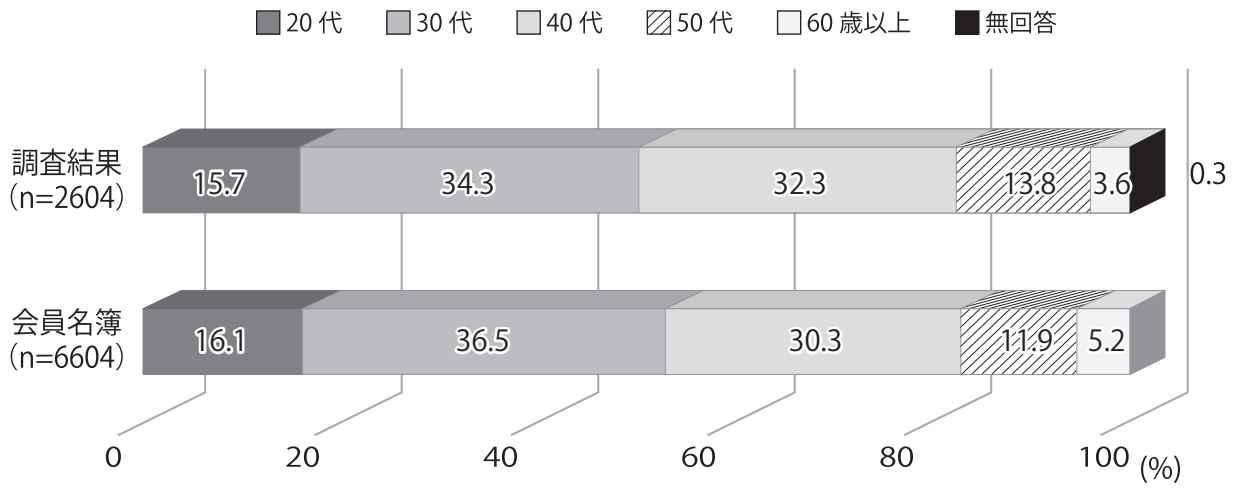


図1 年齢

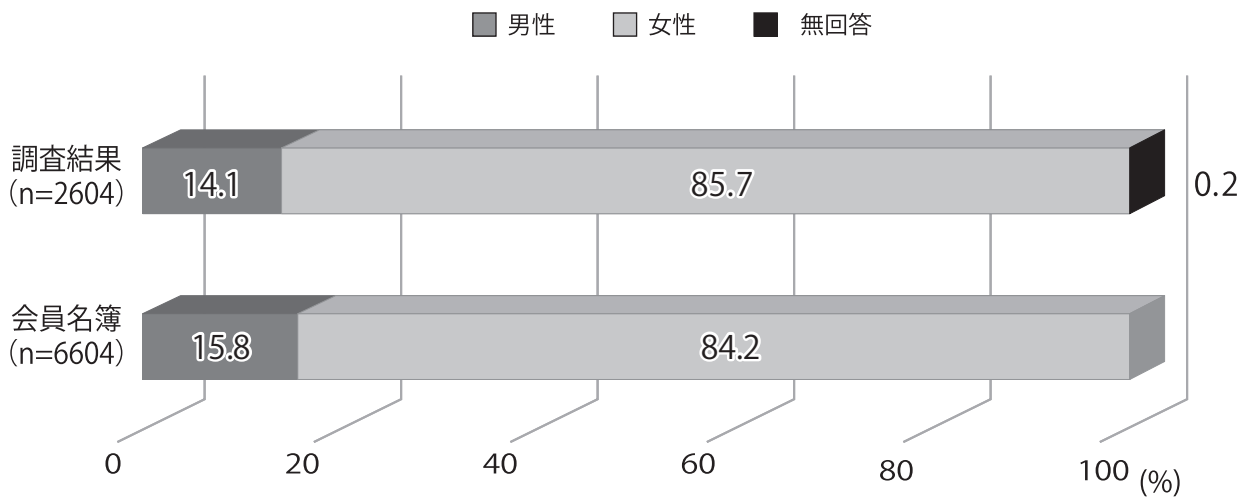
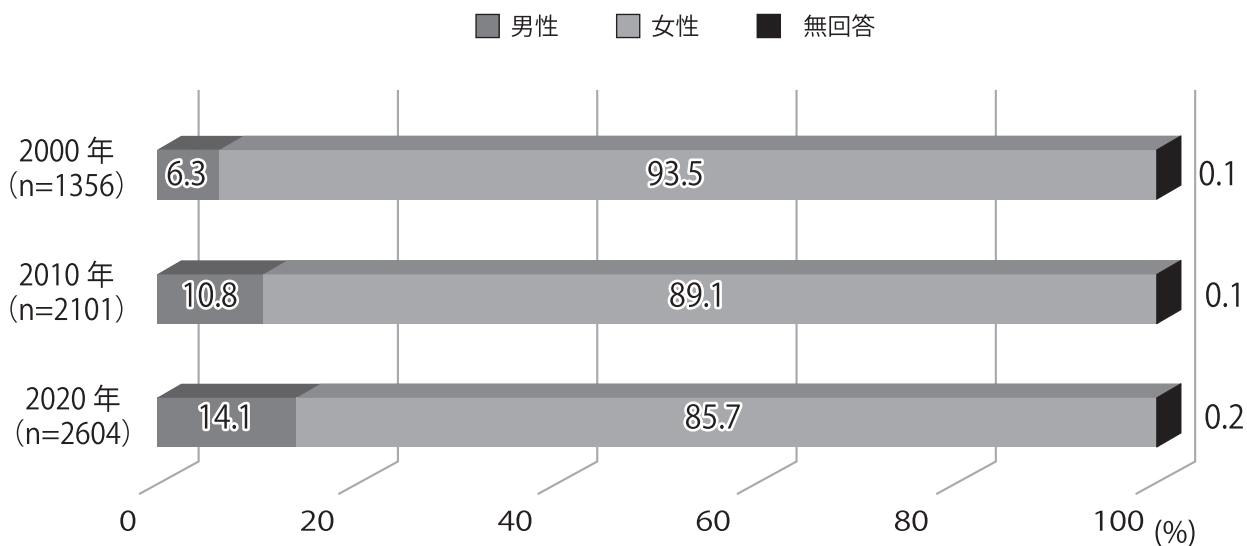


図2 性別

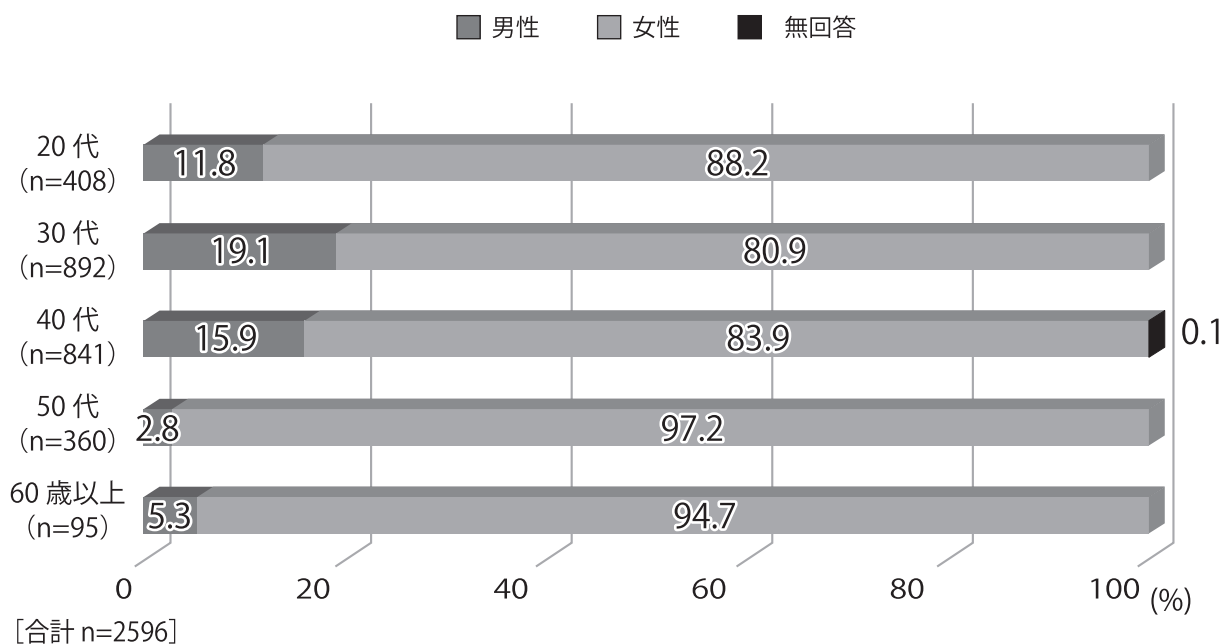
I 一般事項

1. 男女比

男性が14.1%，女性が85.7%であった。男性の割合は10年ごとに約4ポイントの増加を示しており，特に40代からの急激な増加は90年代の養成校の増加との関連が示唆される（図I-1-1，2）。



図I-1-1 男女比



図I-1-2 年齢別の男女比

2. 年齢構成

2000年では「20代」が約半数を占めていたが、10年ごとに約16ポイントずつ減少し、2020年では15.7%であった。「30代」の割合は不変で、40～50代は増加していた。60歳以上も増加しており、「65歳以上」は1.5%であった（図I-2）。

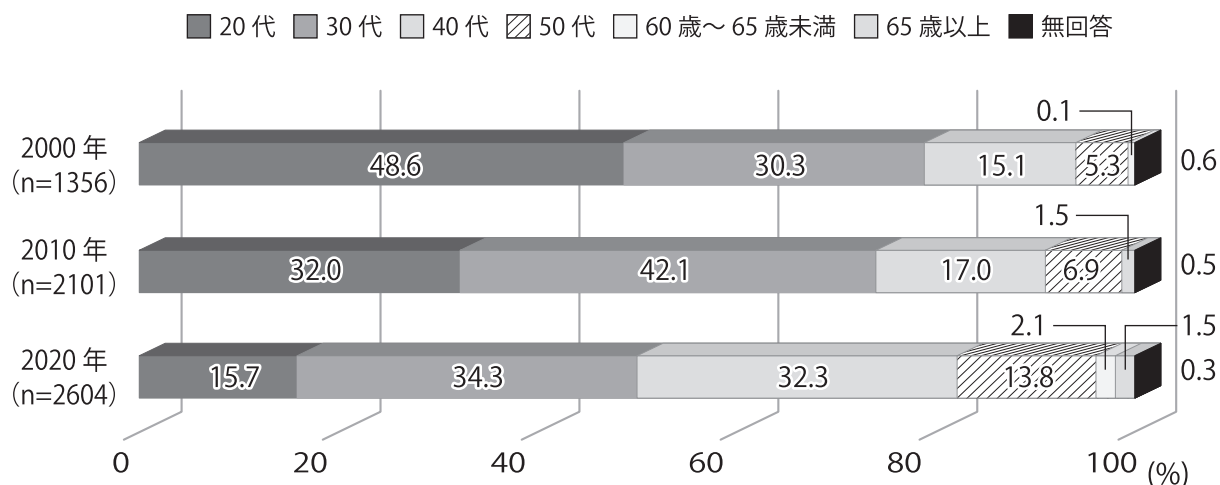


図 I-2 年齢構成

3. 勤務年数

通算の勤務年数は、2010年までは「5年未満」の割合が約30%と最も多かったが、2020年では「5年未満」は12.8%と、年齢構成と同様な減少傾向を示した。「10年未満」「15年未満」「20年未満」の割合は不変であった（図I-3）。

養成校の増加に伴い国家試験の合格者は年々増加しているが、年齢構成の「20代」も勤務年数の「5年未満」もこの10年で著しく減少しているのは、新入会員（入会率）が減少しているためと考えられる。

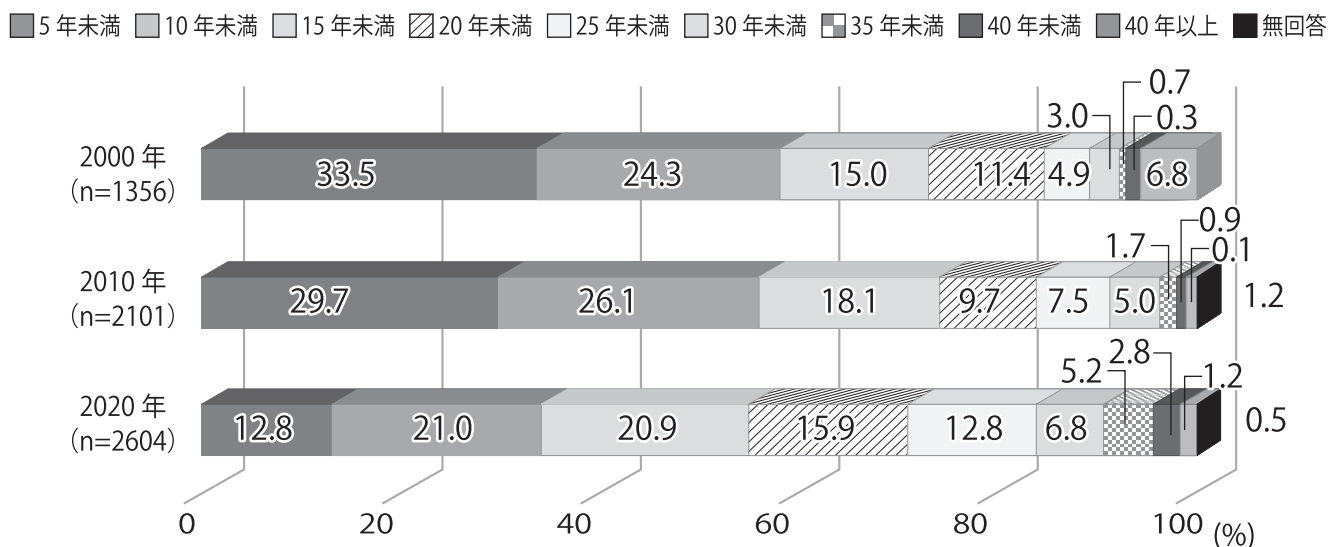


図 I-3 勤務年数

4. 勤務している地域

「東京」は調査年によって増減がみられる。他の地域では大きな変化はみられなかった（図 I-4）。

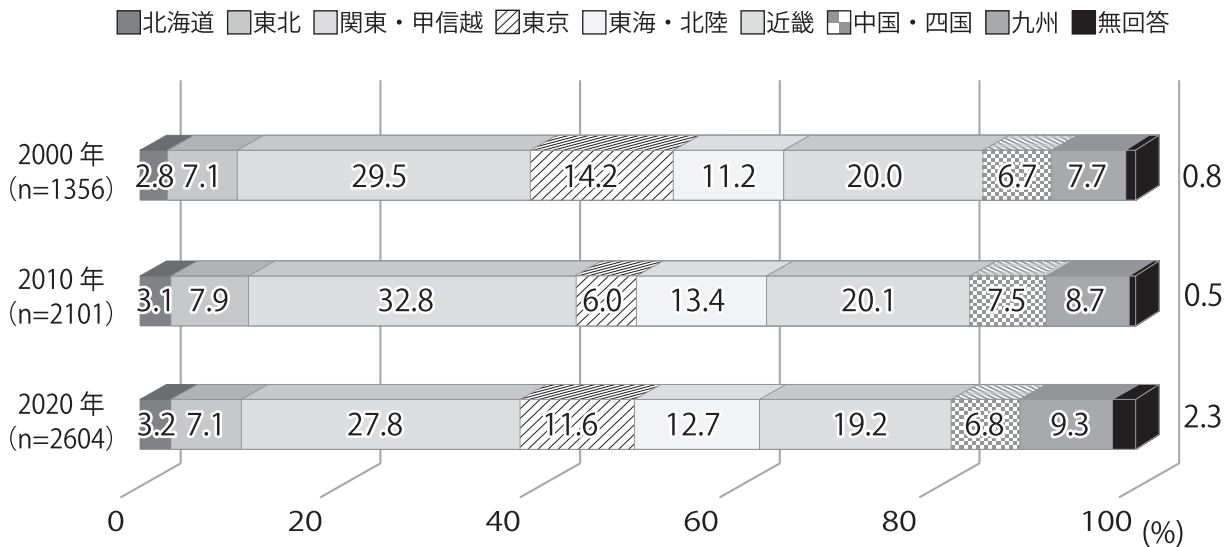


図 I-4 勤務している地域

5. 視能訓練士養成所に入学前の学歴

「高等学校」の割合が52.5%と最も高く、次いで「大学」25.7%、「短期大学」12.3%の順であり、約半数の人が視能訓練士という進路選択を高等学校の卒業時に決めていたという結果となった（図 I-5）。

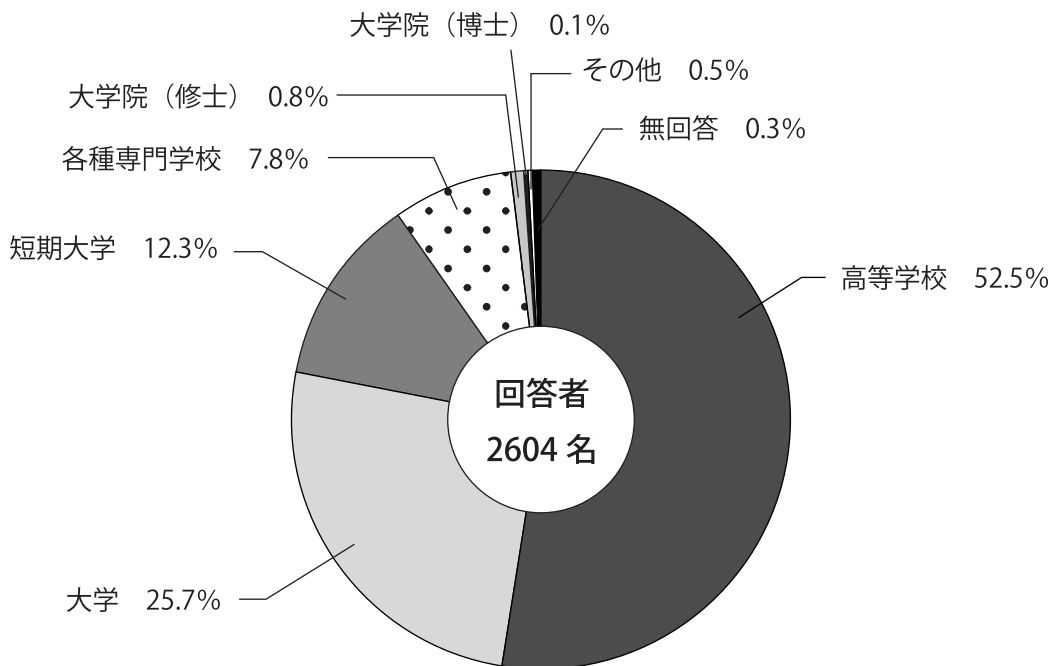
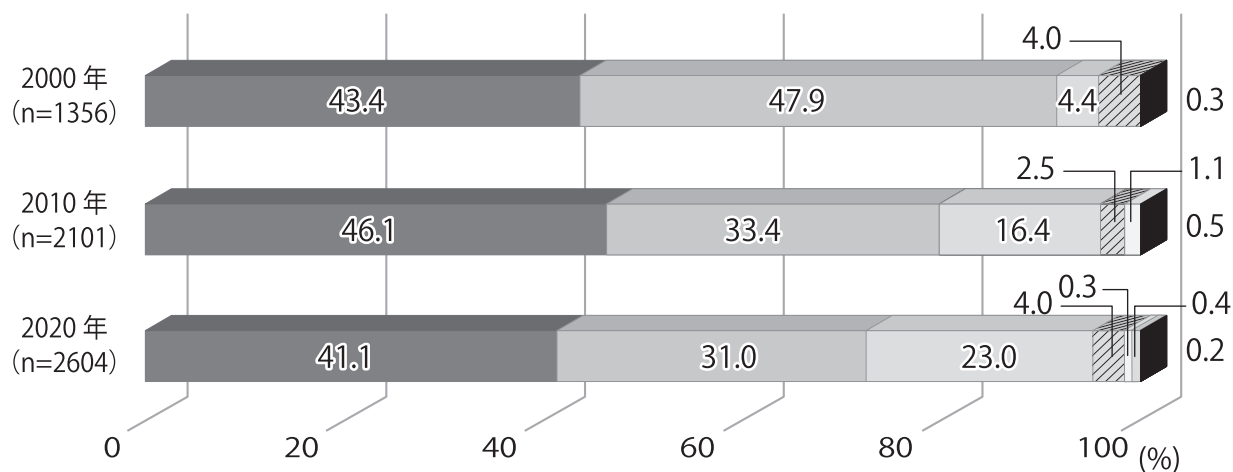


図 I-5 視能訓練士養成所に入学前の学歴

6. 資格の取得課程

視能訓練士免許の取得課程は、2000年では約半数が「1年課程の専門学校」であったが、その後養成校の減少に伴い徐々に減少しており、2020年では31.0%であった。一方「大学」は増加傾向にあり、2020年は23.0%であった（図I-6）。

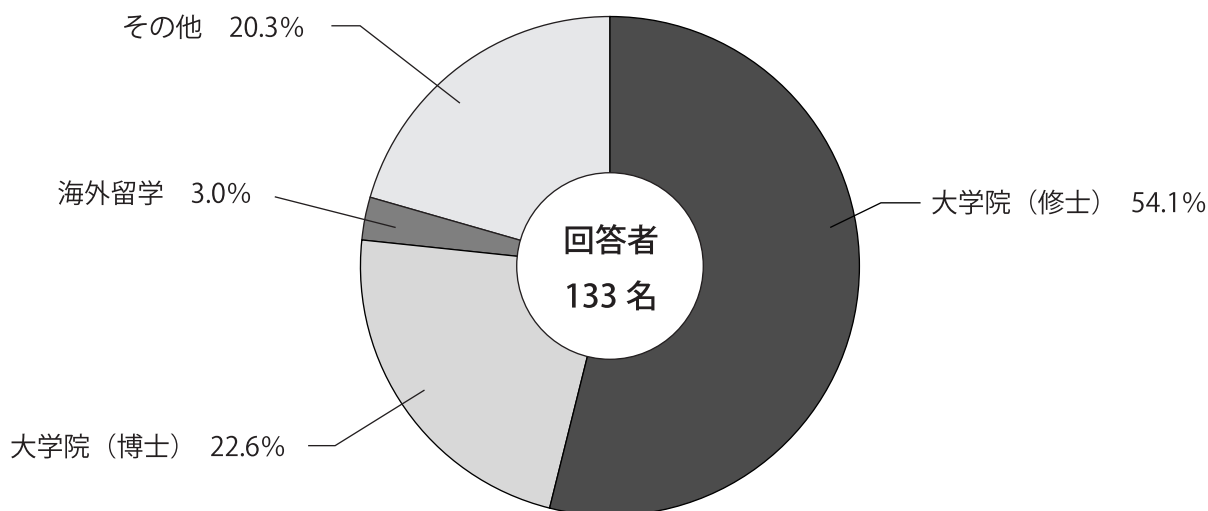
■ 3年課程の専門学校 ■ 1年課程の専門学校 ■ 大学 ▨ 4年課程の専門学校 □ 特別経過措置 ■ その他 ■ 無回答



図I-6 資格の取得課程

7. 免許取得後の進学

「大学院（修士）」が54.1%と最も多く、次いで「大学院（博士）」の22.6%であった。「その他」の意見の大半は「大学」であった（図I-7）。



図I-7 免許取得後の進学

8. 視能訓練士以外の所持資格

視能訓練士以外の資格を所持している人は22.8%であった（図 I-8-1）。その内訳は、「教員」が最も多く、次いで「介護支援専門員（ケアマネージャー等）」「幼稚園教諭」「保育士」の順であった。また、「その他」で多かったのは「同行援護従事者」「医療事務」「栄養士」であった（図 I-8-2）。

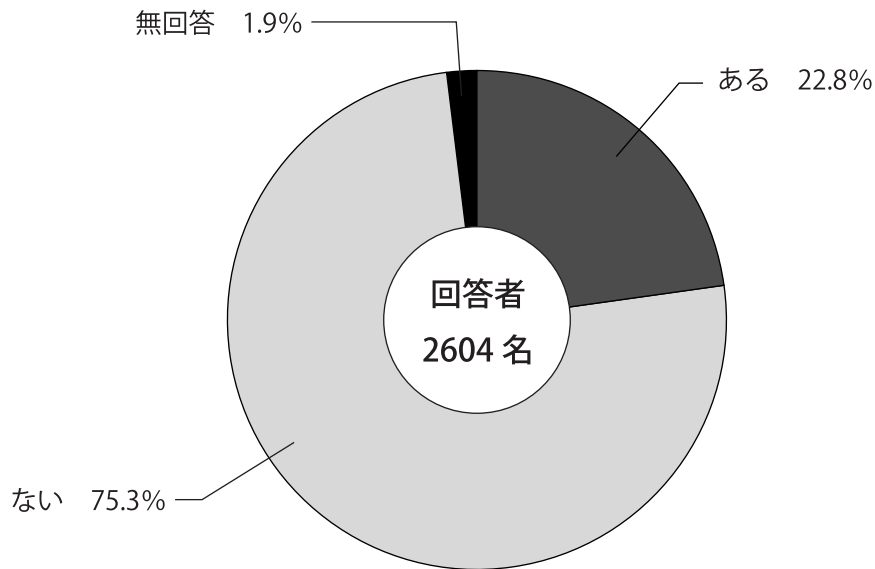
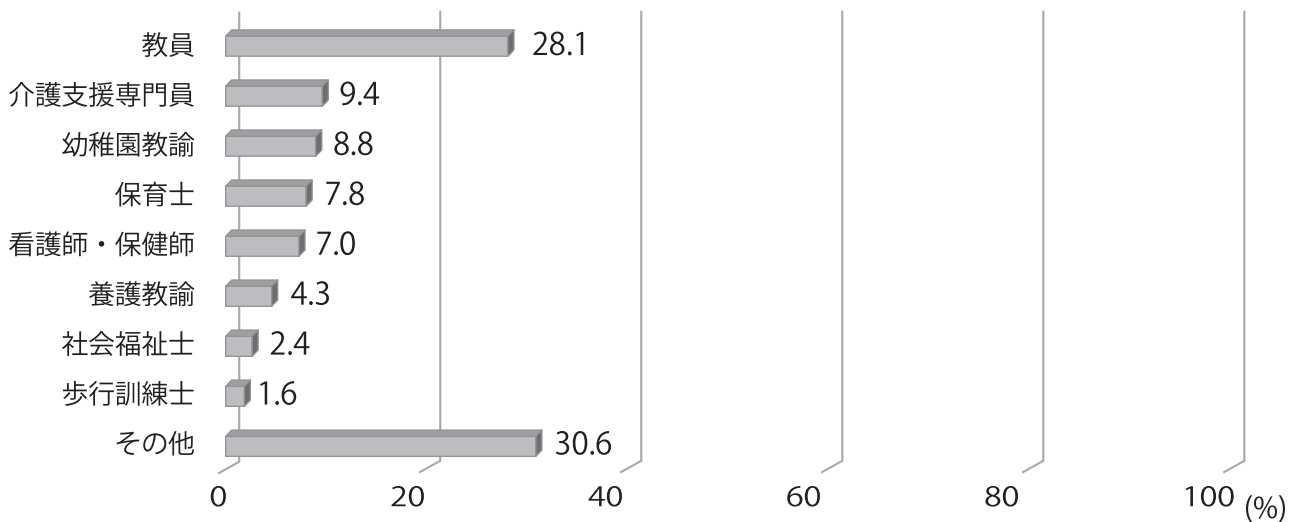


図 I-8-1 視能訓練士以外の資格



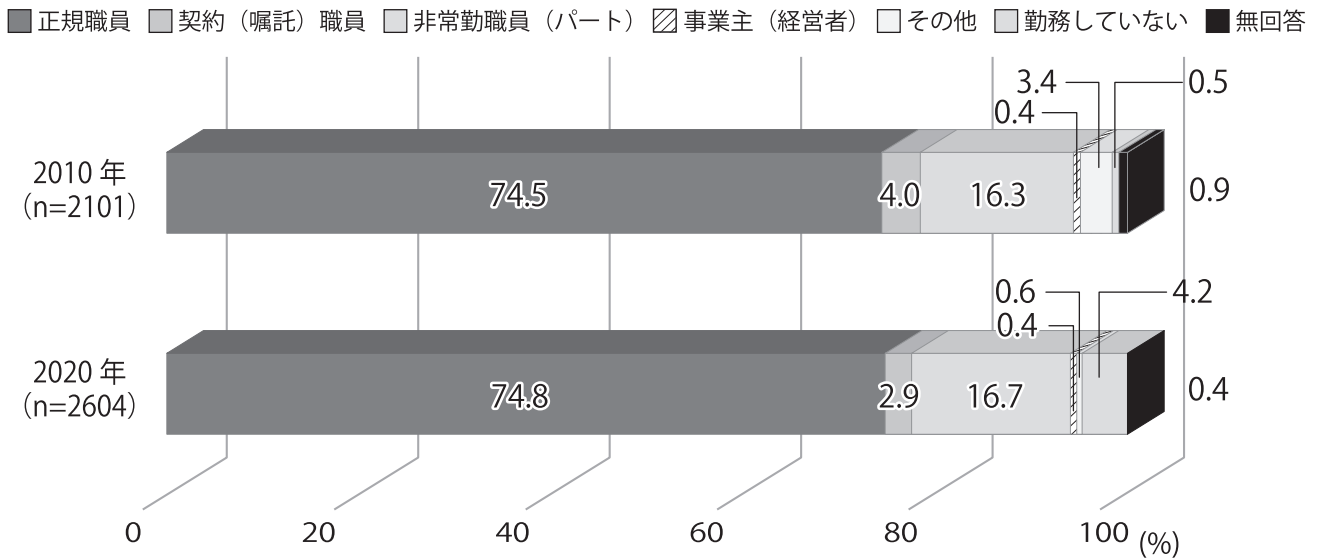
※「視能訓練士以外の資格を所持している」と回答した 594 名の全 670 回答での比率を示す

図 I-8-2 所持資格（複数回答）

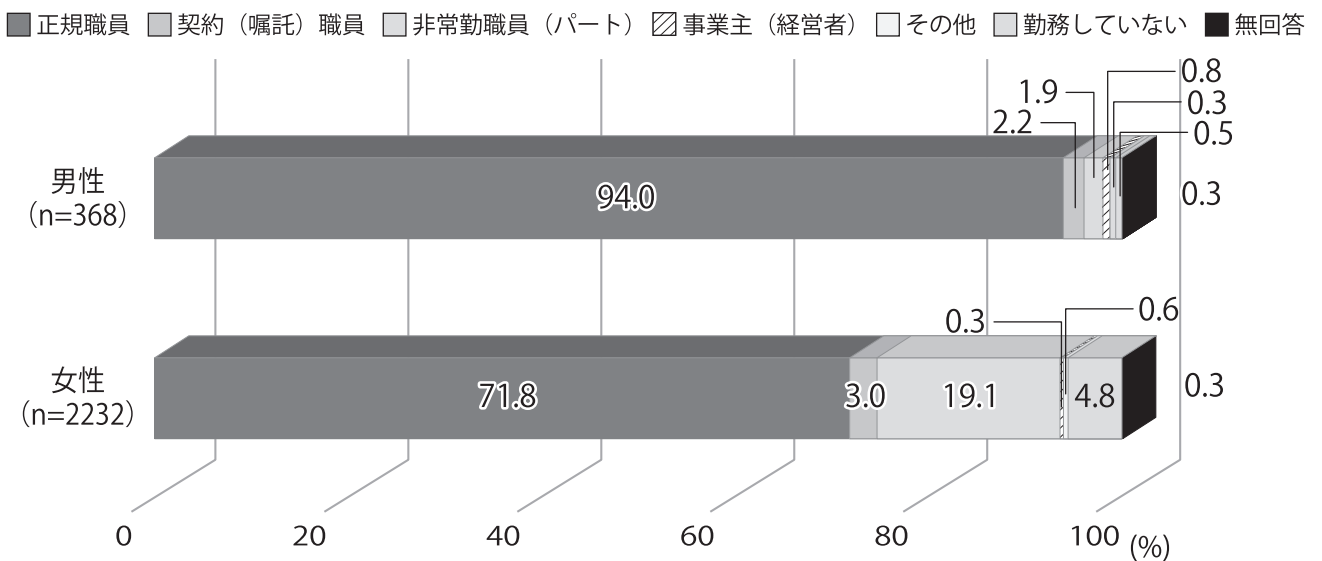
Ⅱ 勤務体制

1. 勤務形態

「正規職員」は約75%、「非常勤職員（パート）」は約16%で2010年からほとんど変化がみられなかった（図Ⅱ-1-1）。男女別にみると「正規職員」は男性が94.0%、女性が71.8%、「非常勤職員（パート）」は男性が1.9%、女性が19.1%であった（図Ⅱ-1-2）。



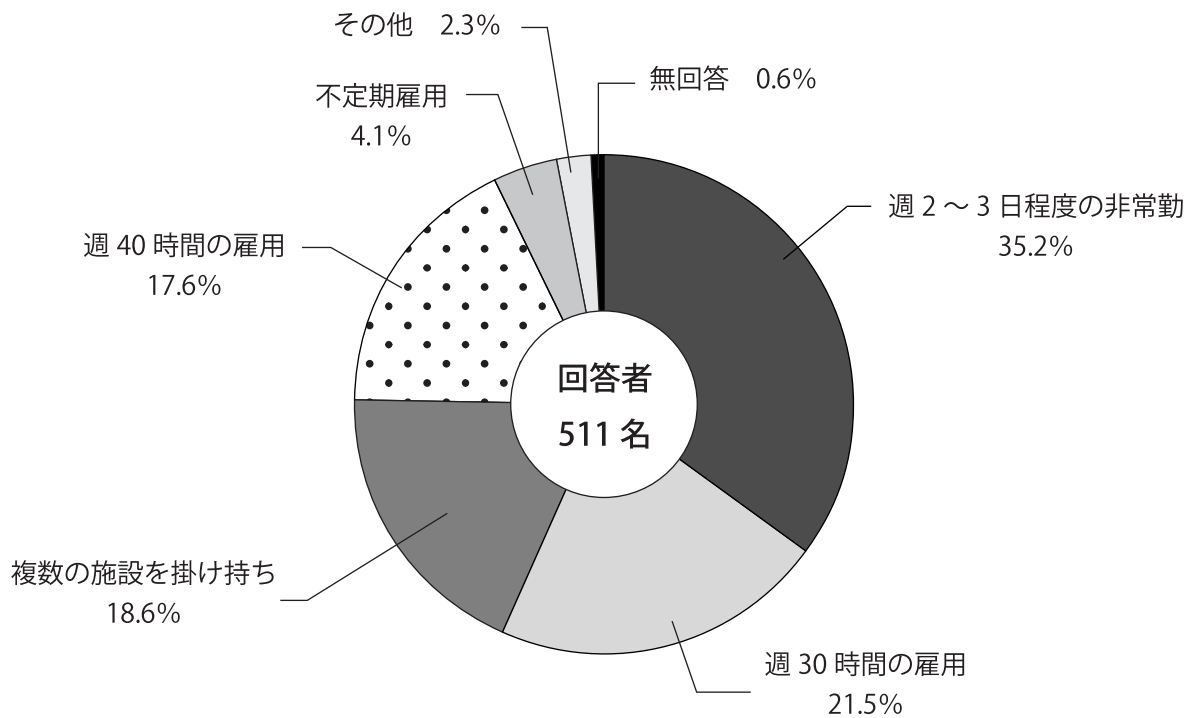
図Ⅱ-1-1 勤務形態



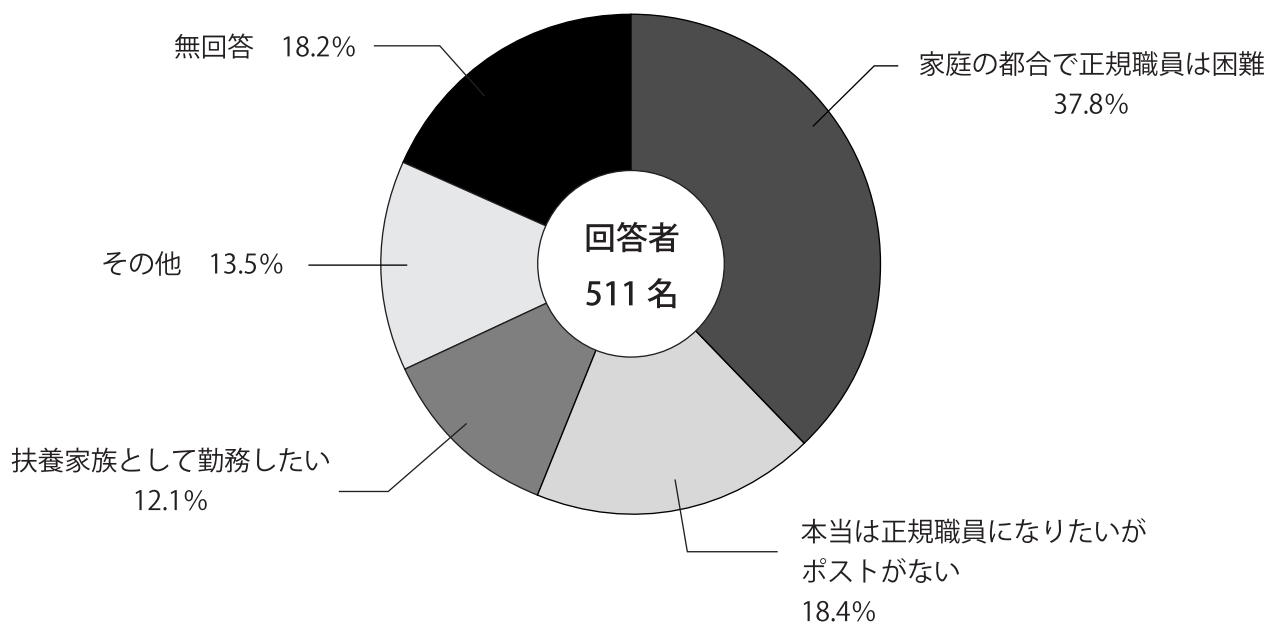
図Ⅱ-1-2 男女別の勤務形態

2. 非正規職員の勤務形態

「週2～3日程度の非常勤」が35.2%と最も多く、次いで「週30時間の雇用」21.5%、「複数の施設を掛け持ち」18.6%、「週40時間の雇用」17.6%であった（図Ⅱ-2-1）。また非正規職員を選ぶ理由は「家庭の都合で正規職員は困難」が37.8%、「本当は常勤になりたいがポストがない」が18.4%、「扶養家族として勤務したい」が12.1%であった（図Ⅱ-2-2）。



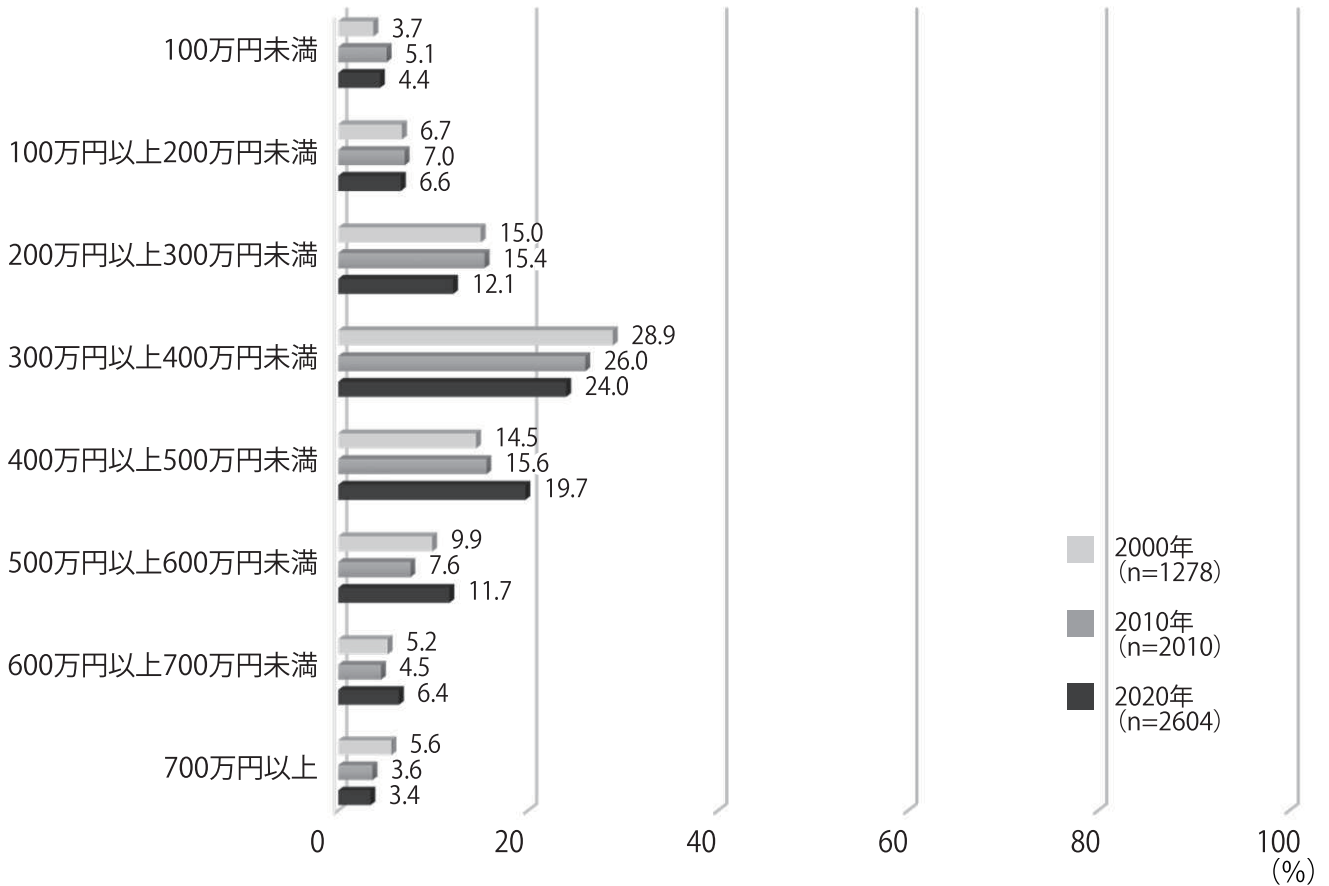
図Ⅱ-2-1 非正規職員の勤務形態



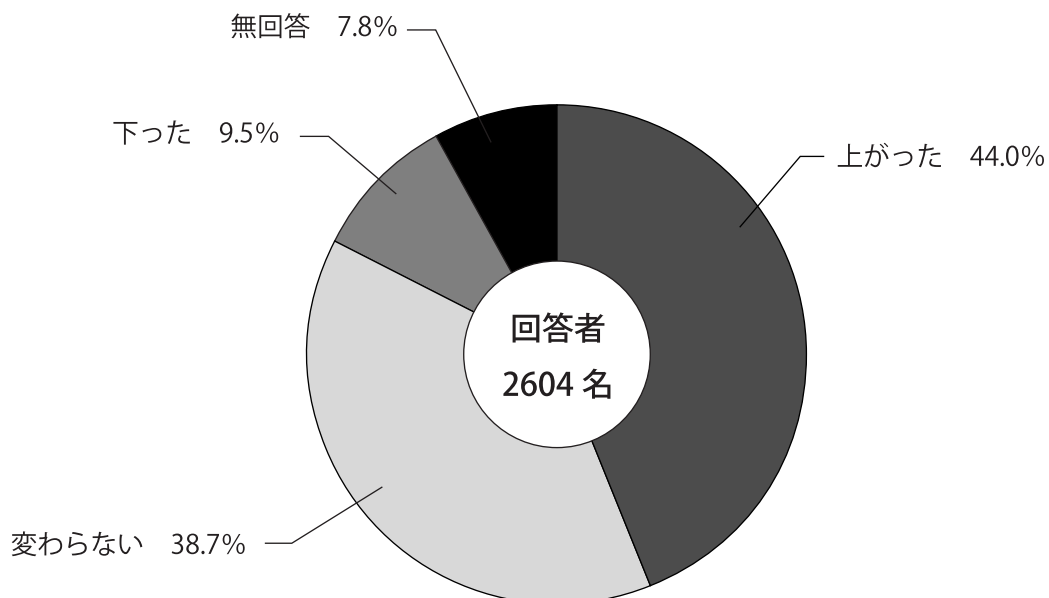
図Ⅱ-2-2 非正規職員となる理由

3. 年間所得

年間所得帯は「300万円以上400万円未満」が24.0%と最も多かった。平均年間所得は調査年ごとに増加しており、2010年は352.9万円、2020年は378.5万円であった（図Ⅱ-3-1）。一昨年度との比較では、年間所得は約4割が上がり、約4割が変わらなかった（図Ⅱ-3-2）。

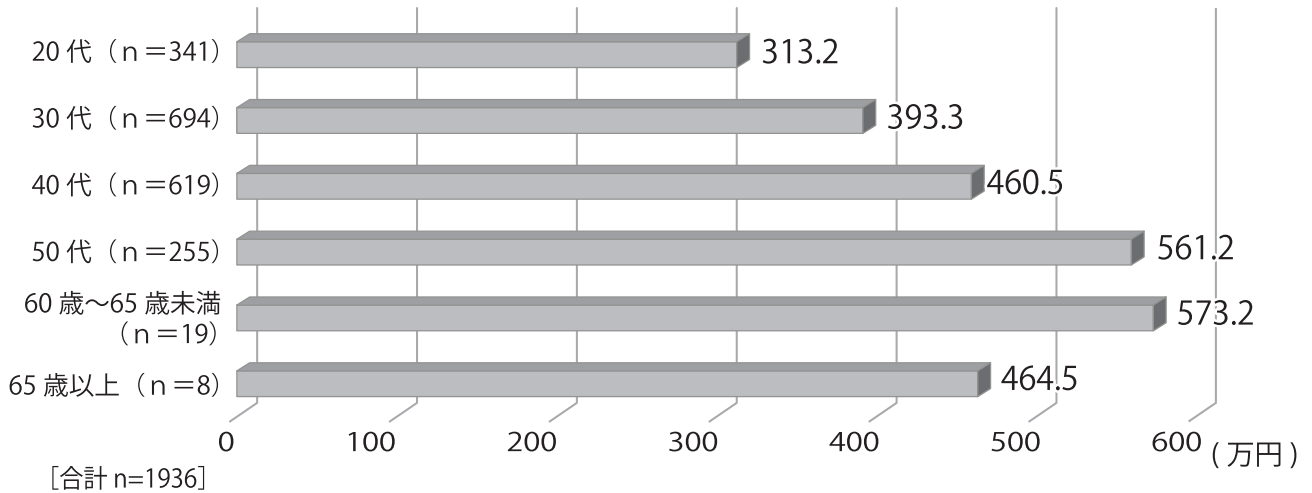


図Ⅱ-3-1 年間所得

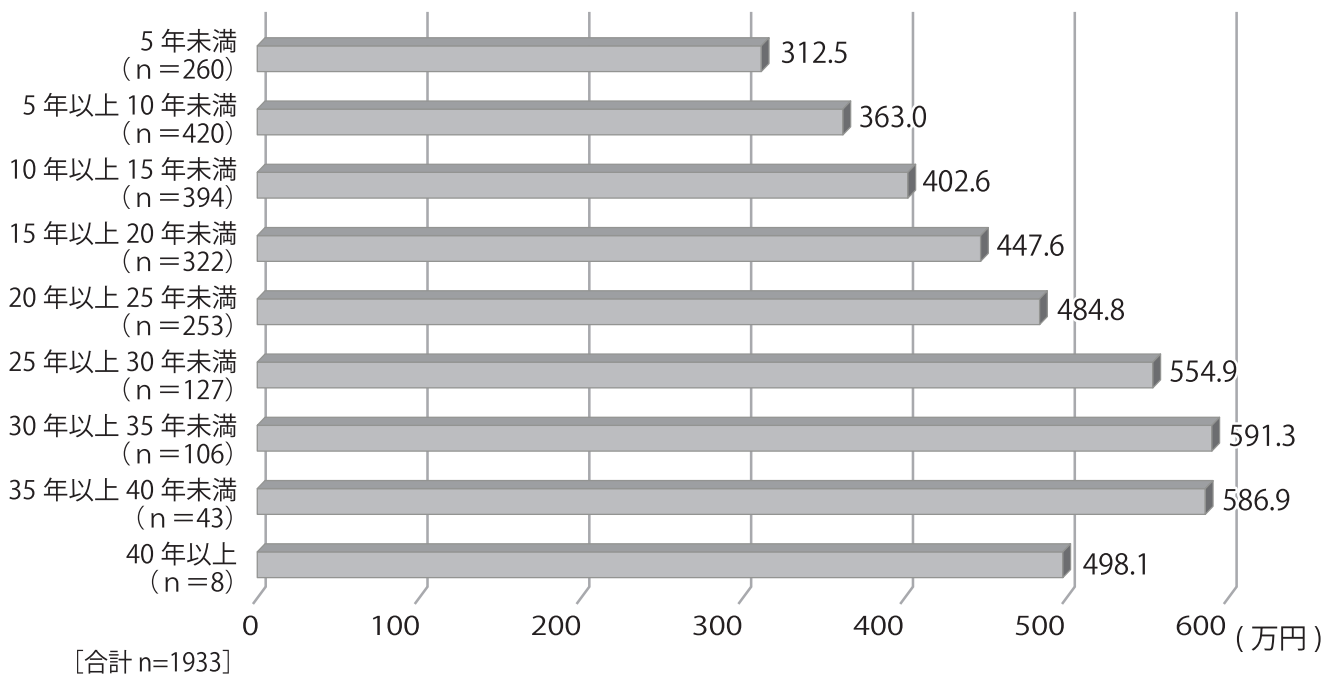


図Ⅱ-3-2 年間所得の一昨年との比較

「正規職員」に限ってみてみると、平均は423.9万円で、年齢別の年間所得は、「20代」の313.2万円から「50代」の561.2万円と、年齢が上がるにつれて増加し、「65歳以上」では464.5万円と減少した（図Ⅱ-3-3）。勤続年数別の年間所得も同様で、勤続年数が長くなるにつれて年間所得は増加を示し、「30年以上35年未満」の591.3万円が最も高かった。「40年以上」は498.1万円で減少した（図Ⅱ-3-4）。



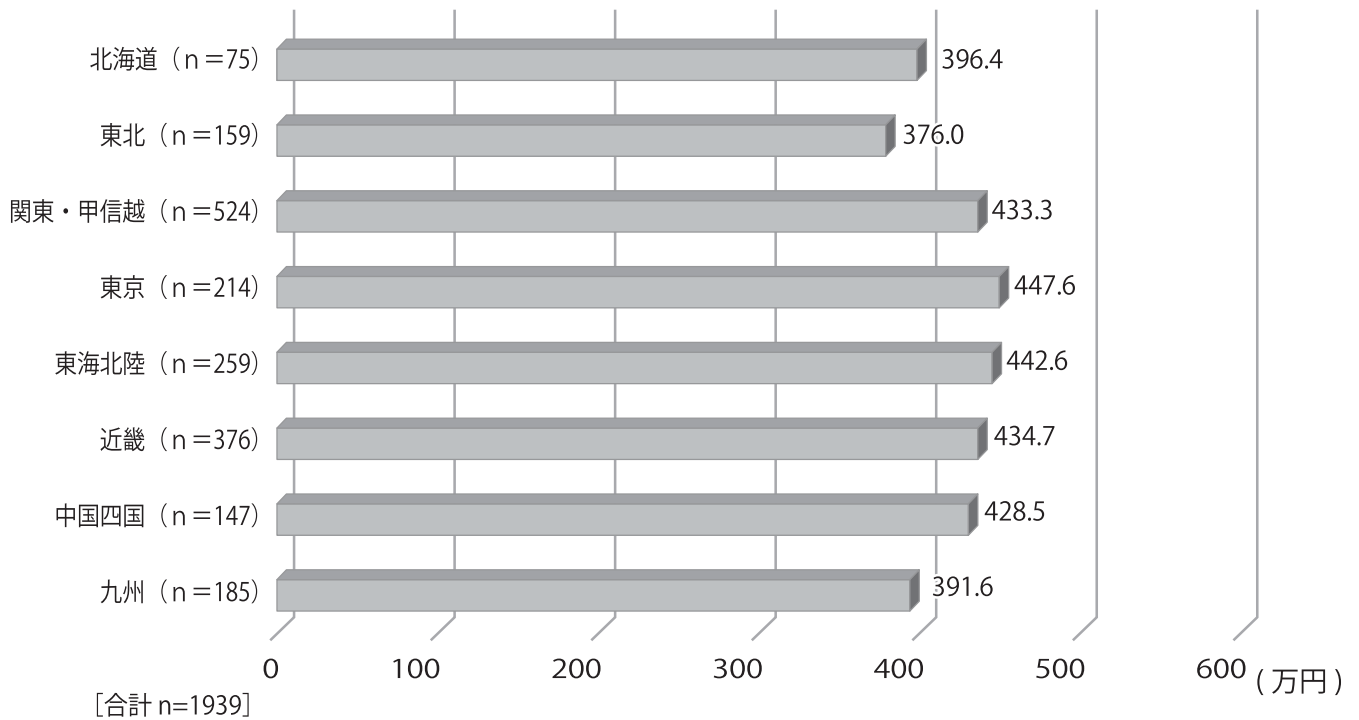
図Ⅱ-3-3 年齢と年間所得（正規職員）



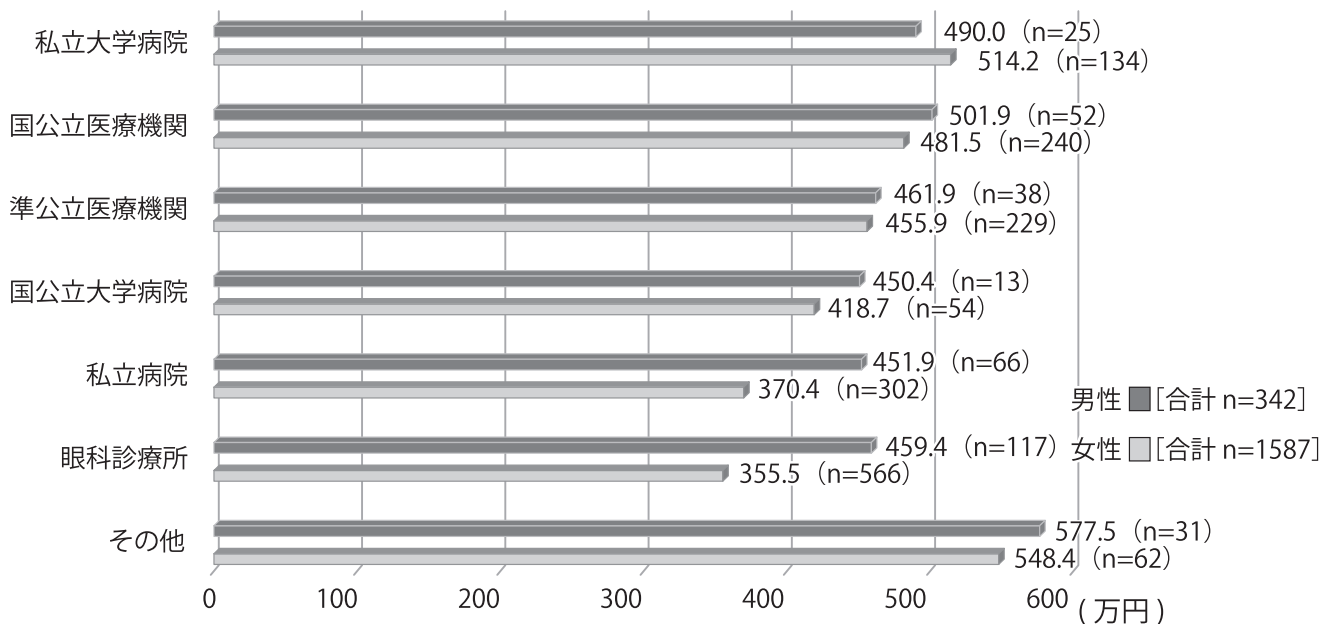
図Ⅱ-3-4 勤務年数と年間所得（正規職員）

勤務地域別の年間所得では、最も高い地域は「東京」の447.6万円、最も低い地域は「東北」の376.0万円で、約70万円の差があった（図Ⅱ-3-5）。

男女別の各勤務施設の年間所得は、「私立大学病院」の510.1万円（平均）が最も高く、次いで「国公立医療機関」485.2万円（平均）,「準公立医療機関」456.8万円（平均）の順であった。いずれも男女差はほとんどみられなかった。一方、「私立病院」385.4万円（平均）,「眼科診療所」373.7万円（平均）では、男女差が非常に大きかった（図Ⅱ-3-6）。



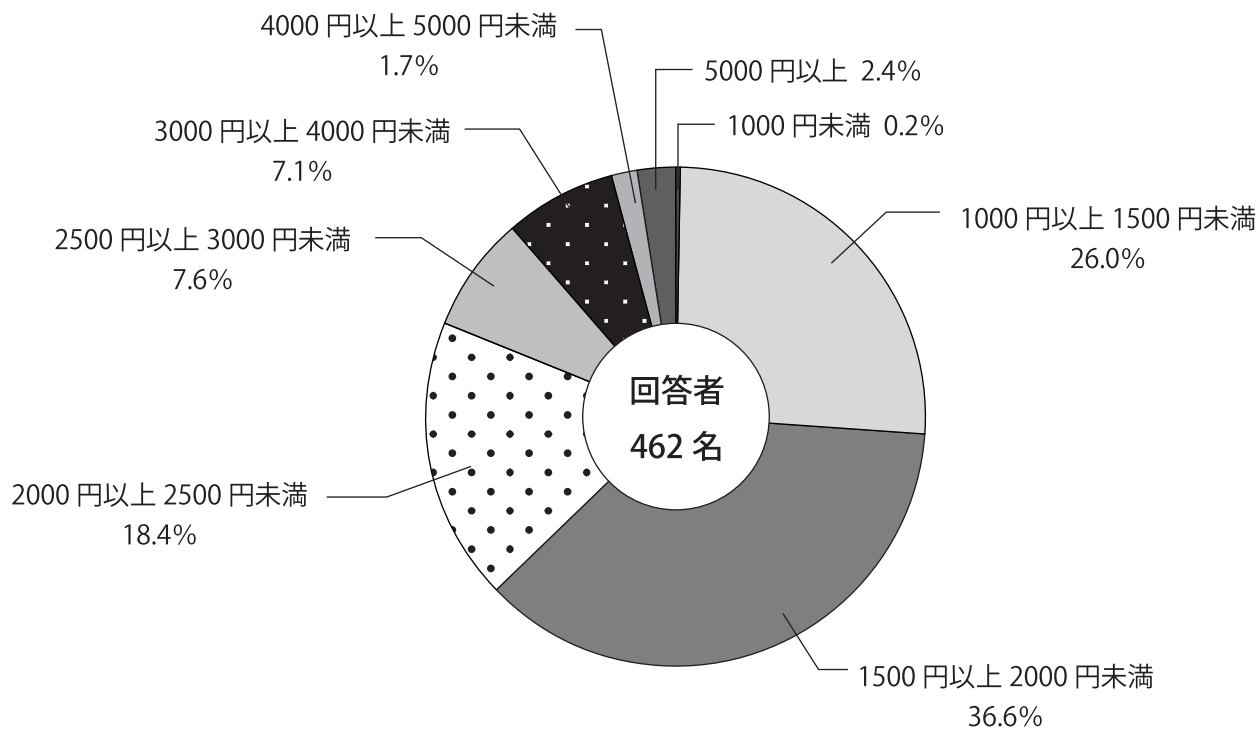
図Ⅱ-3-5 勤務地域と年間所得（正規職員）



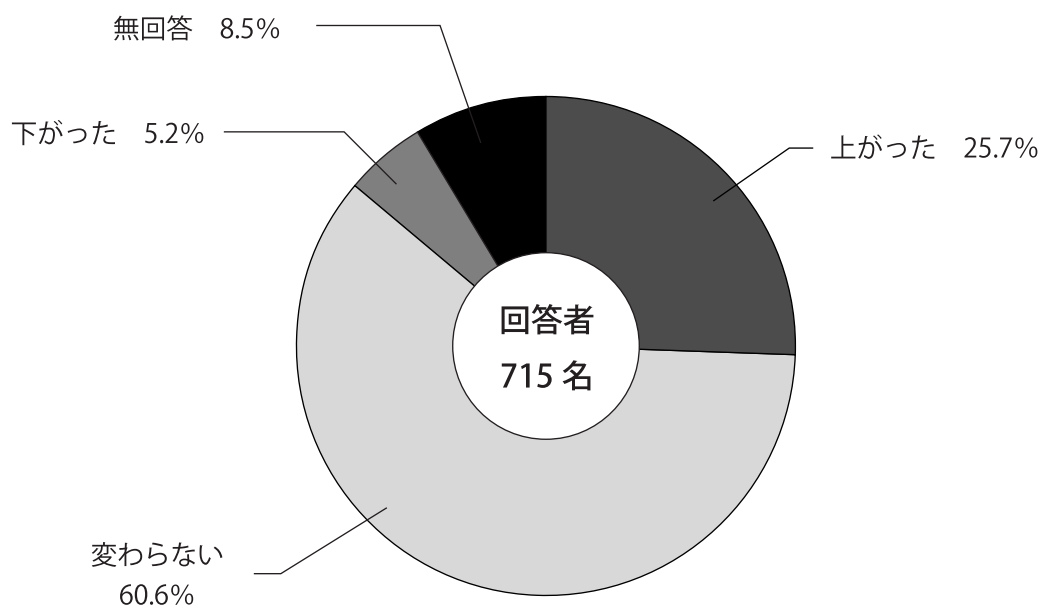
図Ⅱ-3-6 男女別の勤務施設と年間所得（正規職員）

4. 時間給

時間給は「1500円以上2000円未満」が36.6%で最も多く、平均は1976.0円であった（図Ⅱ-4-1）。また、一昨年度との比較では、時間給は約3割が上がり、約6割が変わらなかった（図Ⅱ-4-2）。



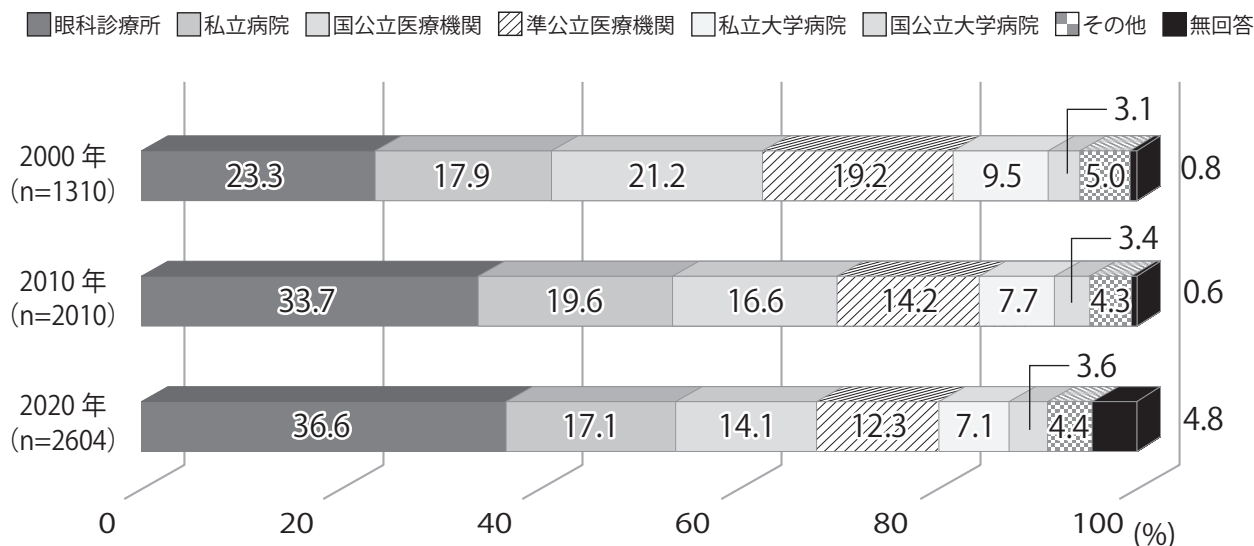
図Ⅱ-4-1 時間給



図Ⅱ-4-2 時間給の一昨年度との比較

5. 施設の運営主体

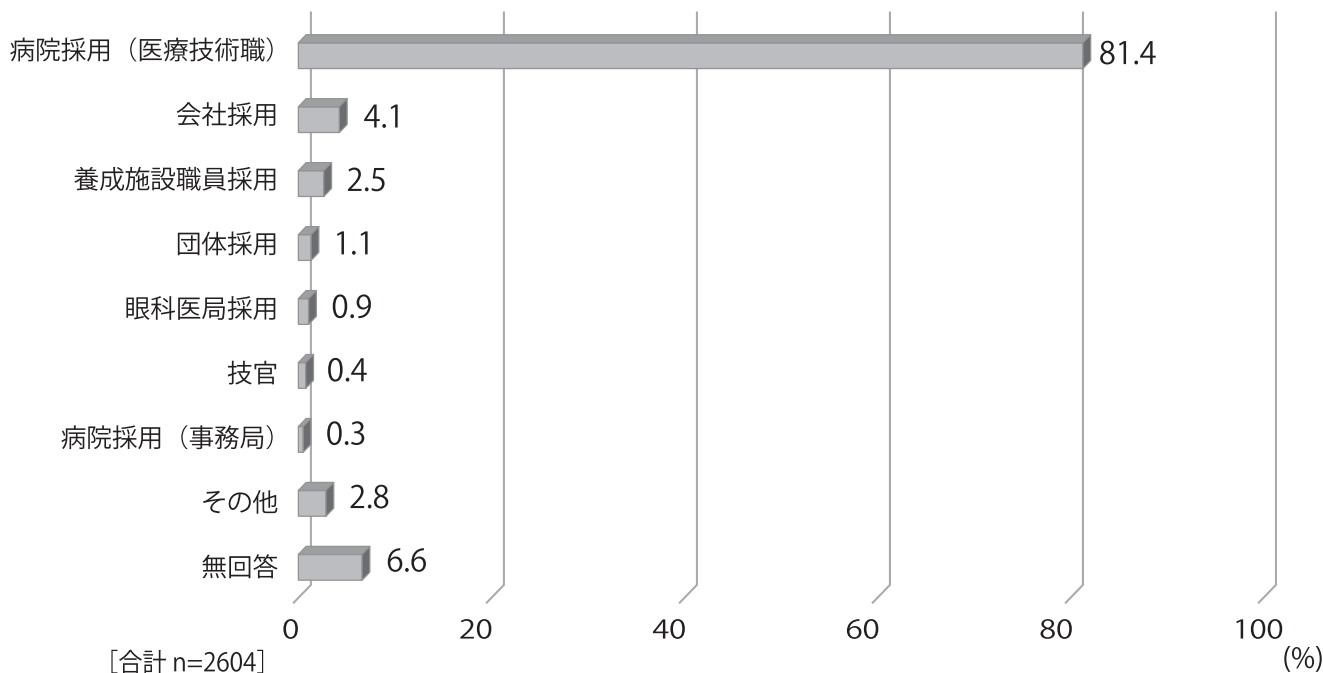
「眼科診療所（医療法人および個人）」の割合が36.6%と最も多く、調査年ごとに増加傾向であった。また、「国公立医療機関」や「準公立病院・診療所」は減少傾向であった（図Ⅱ-5）。有資格者の増加に伴い「眼科診療所」への就職が増加したと考えられる。



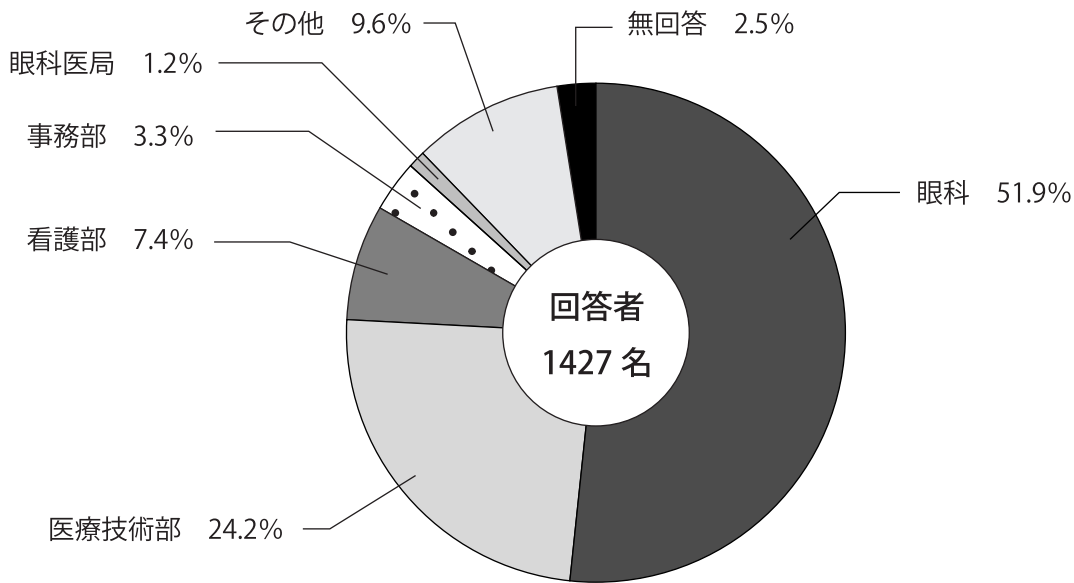
図Ⅱ-5 施設の運営主体

6. 採用形態

「医療技術職としての病院採用」が81.4%と最も多かった（図Ⅱ-6-1）。また、病院に勤務している視能訓練士の所属先は、「眼科」が51.9%と最も多く、次いで「医療技術部」が24.2%であった（図Ⅱ-6-2）。



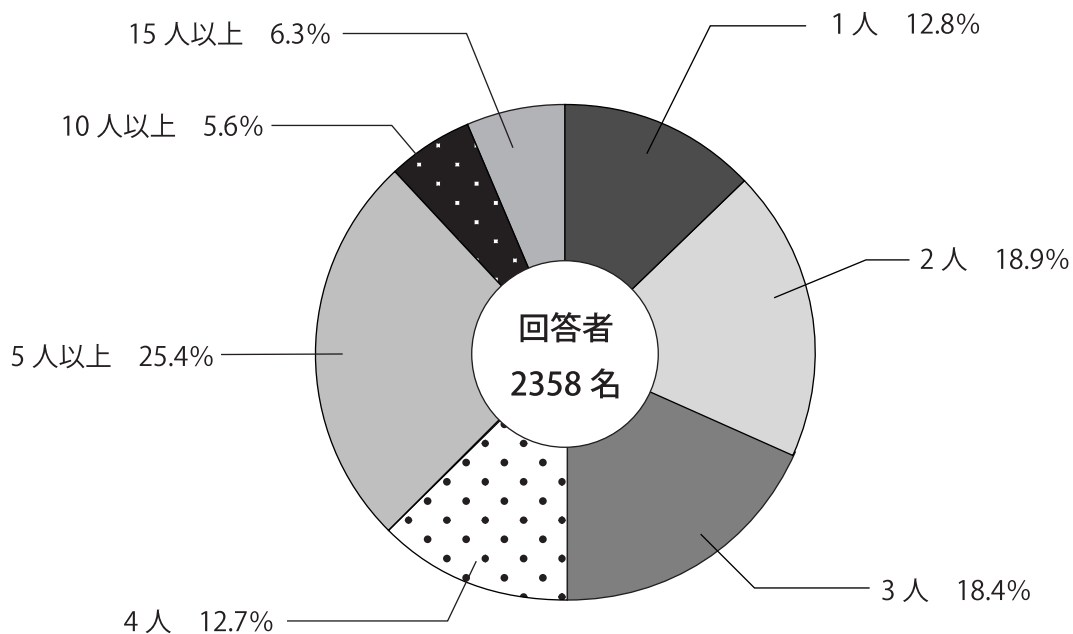
図Ⅱ-6-1 採用



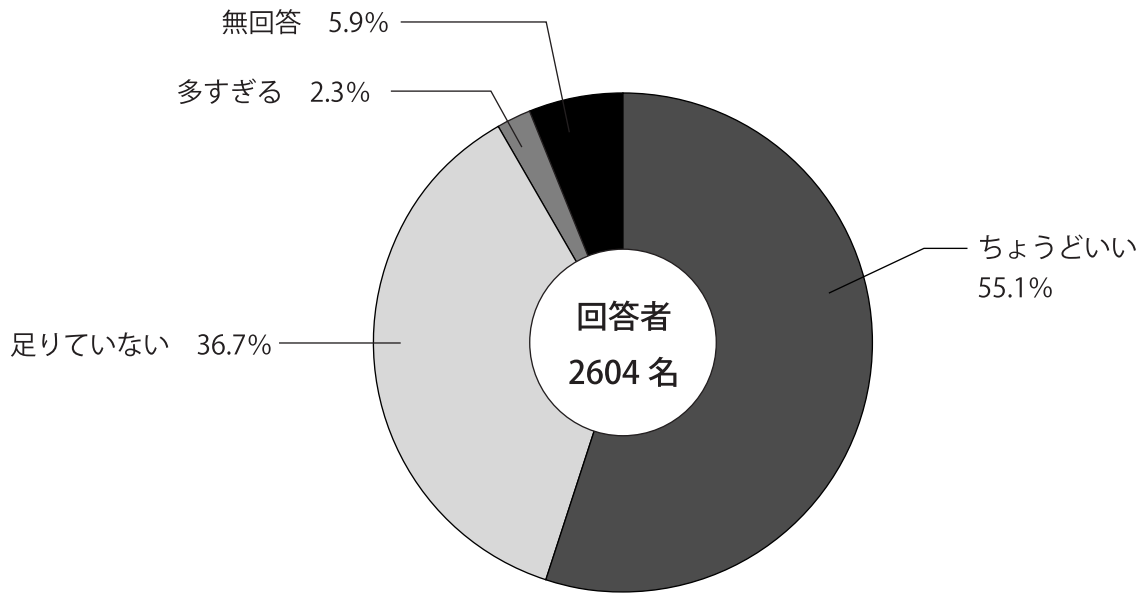
図Ⅱ-6-2 病院に勤務している視能訓練士の所属

7. 施設内の視能訓練士の人数

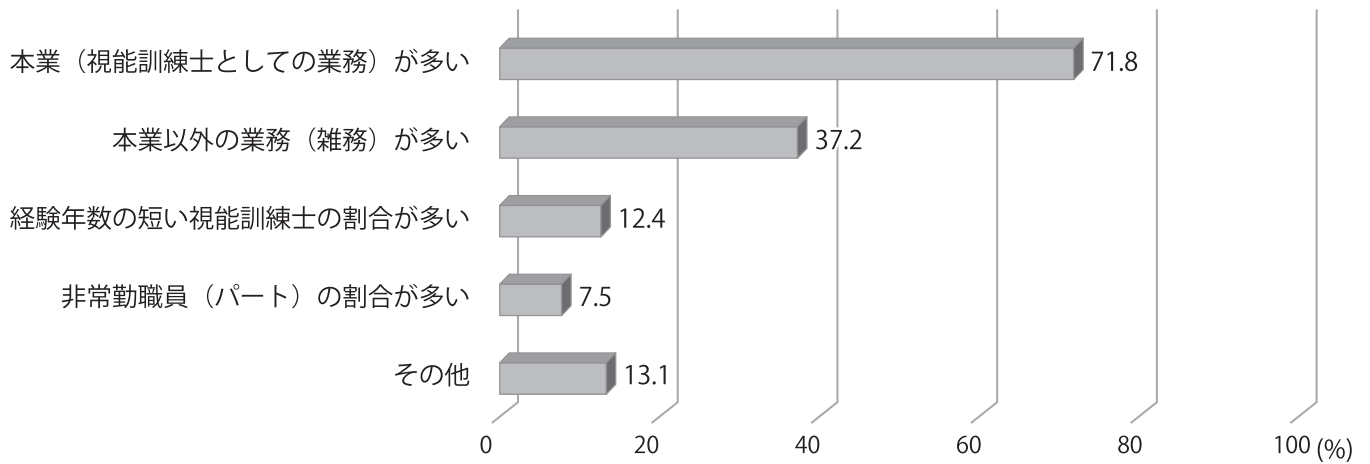
同じ職場に勤務する視能訓練士の人数は「正規職員」,「非正規職員」を合わせて「5名以上」が25.4%で最も多かった(図Ⅱ-7-1)。その人数について「ちょうどよい」と感じているのは55.1%,「足りていない」は36.7%であった(図Ⅱ-7-2)。足りていないと感じる理由で最も多いのは「本業(視能訓練士としての業務)が多い」71.8%,次いで「本業以外の業務(雑務)が多い」37.2%で(図Ⅱ-7-3),1人または2人の増員の希望が86.5%であった(図Ⅱ-7-4)。



図Ⅱ-7-1 同じ職場に勤務する視能訓練士の人数

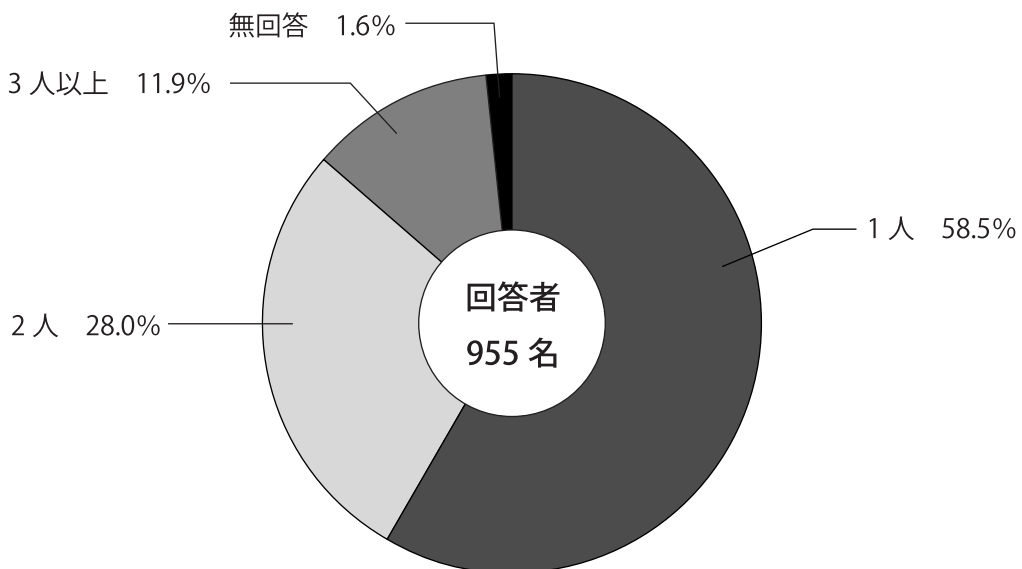


図Ⅱ-7-2 職場の視能訓練士の人数



※「視能訓練士が足りていない」と回答した 955 名の全 1356 回答での比率を示す

図Ⅱ-7-3 足りていない理由（複数回答）

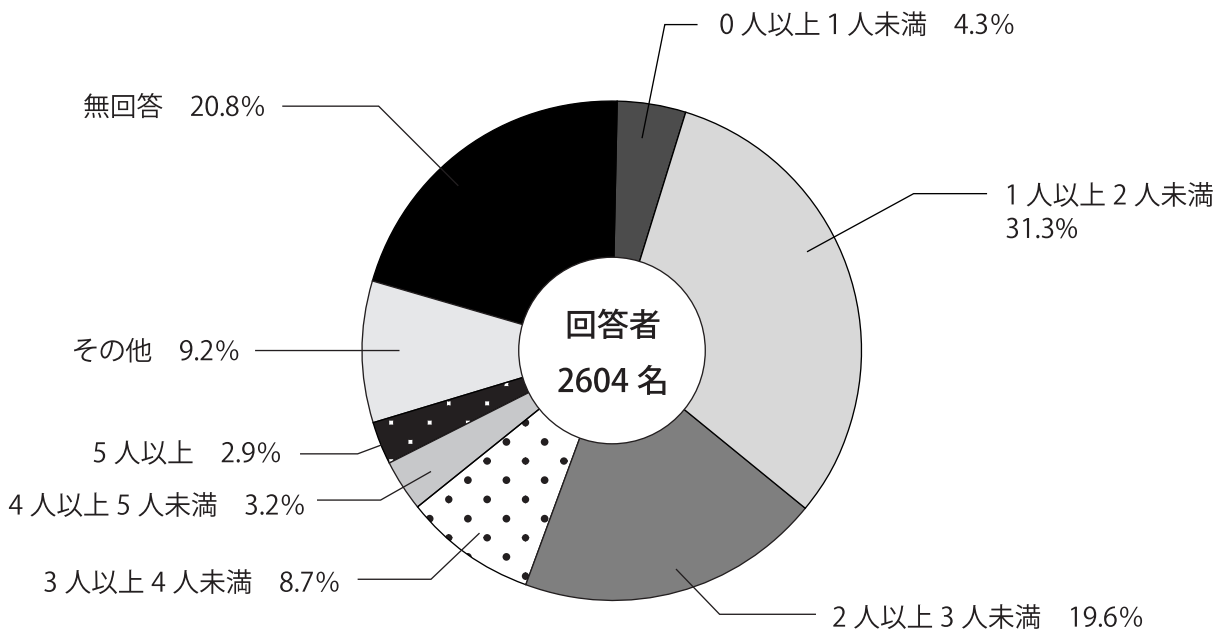


図Ⅱ-7-4 適正にするための増員数

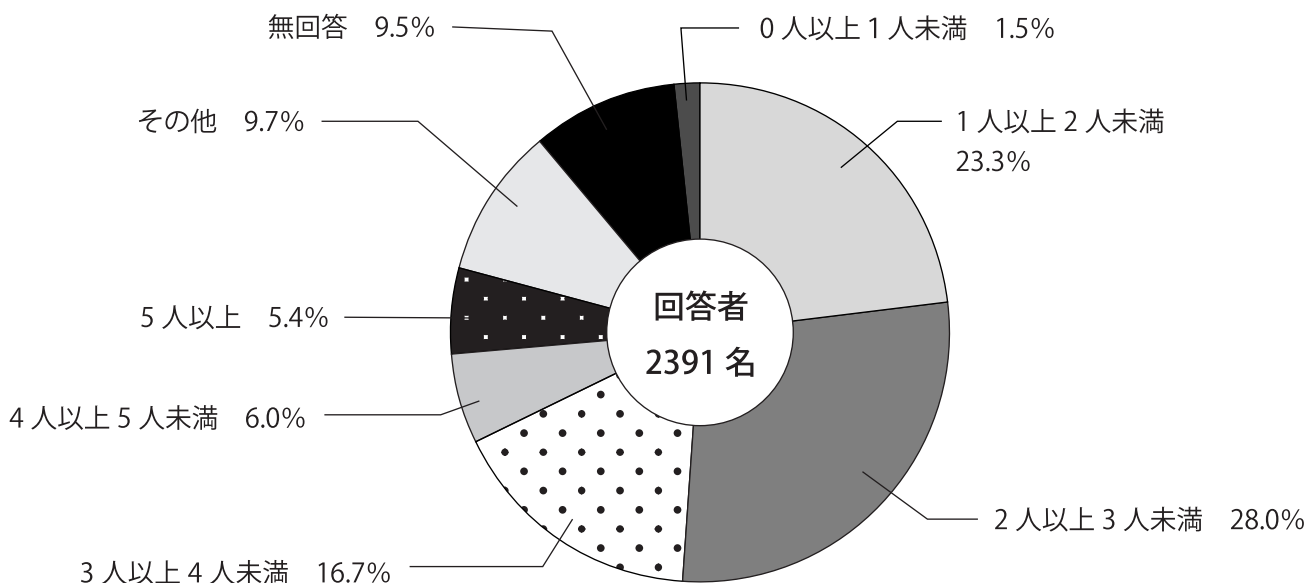
8. 1 診療（医師 1 名）に対する視能訓練士の人数

眼科医療機関の通常外来において、1 診療（医師 1 名）に対する視能訓練士の人数は、「1 人以上 2 人未満」が31.3%と最も多く、次いで「2 人以上 3 人未満」が19.6%、「3 人以上 4 人未満」が8.7%であった。また「1 人未満」も4.3%あった（図Ⅱ-8-1）。

Q 23で「ちょうどよい」と答えた場合は現在の人数のままとし、「足りていない」と答えた場合は適正だと思う人数を加えたところ、1 診療（医師 1 名）に対する視能訓練士の人数で最も多くなったのは「2 人以上 3 人未満」28.0%であった。全国視能訓練士学校協会では「視能訓練士は眼科医 1 名につき 2～3 名必要」と説明しているが、それを裏付ける結果となった（図Ⅱ-8-2）。



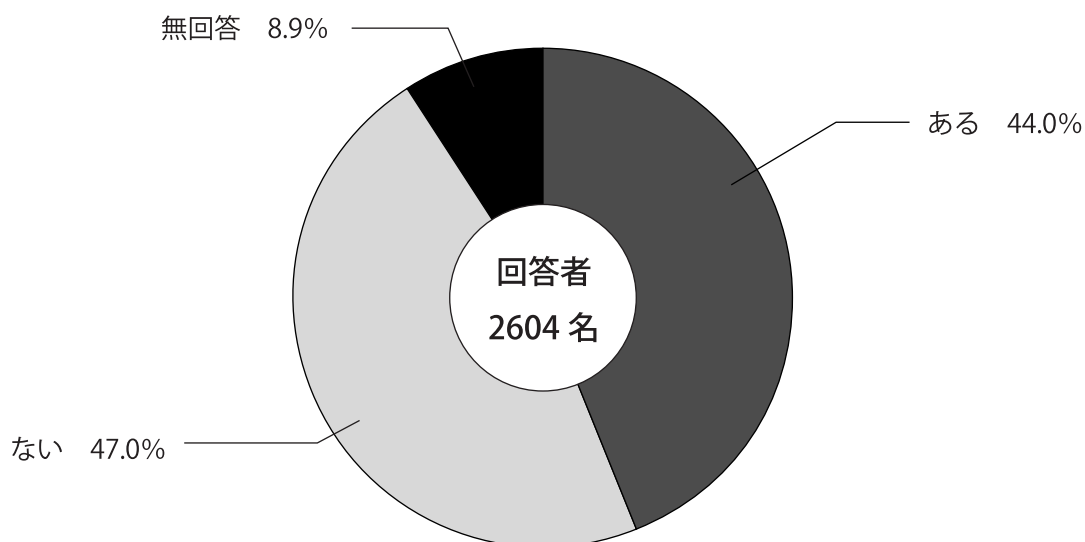
図Ⅱ-8-1 1 診療に対する視能訓練士の人数（現在）



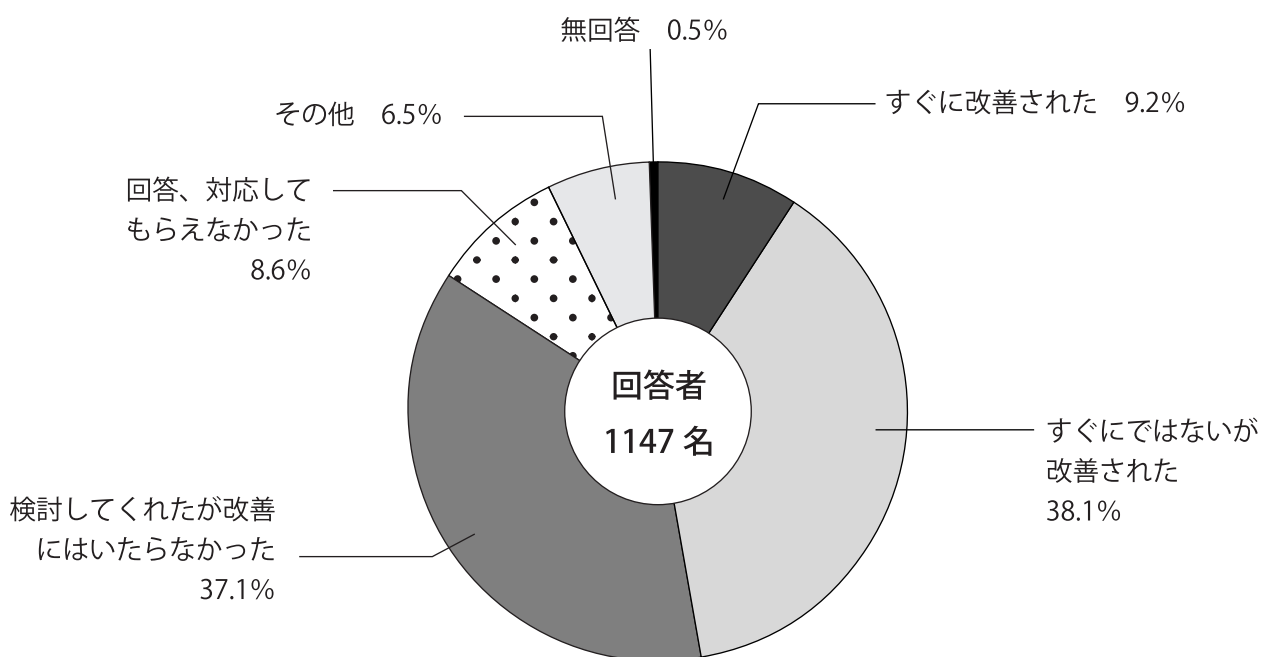
図Ⅱ-8-2 1 診療に対する視能訓練士の人数（理想）

9. 視能訓練士の増員や常勤化についての相談

視能訓練士の増員や常勤化について病院や医師に相談したことが「ある」は44.0%、「ない」は47.0%であった（図Ⅱ-9-1）。病院や医師に相談した際の回答や対応は「すぐに改善された」9.2%、「すぐではないが改善された」38.1%で、約半数が何らかの形で改善されていた。「検討してくれたが、改善にはいたらなかった」は37.1%であった（図Ⅱ-9-2）。



図Ⅱ-9-1 視能訓練士の増員や常勤化について病院や医師への相談



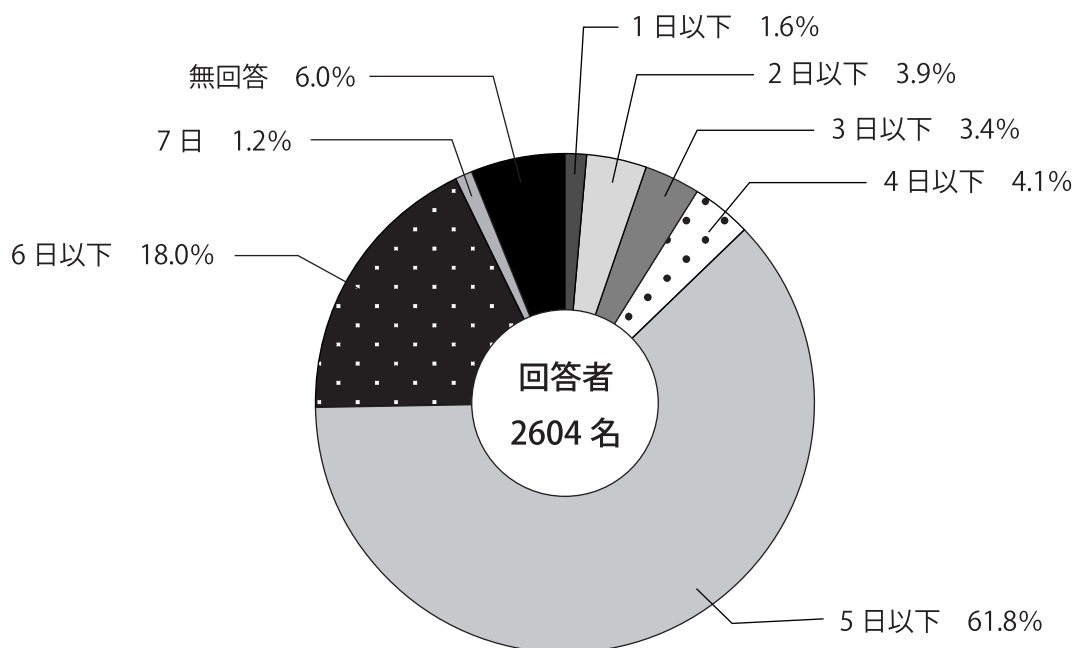
図Ⅱ-9-2 病院や医師に相談した際の回答や対応

10. 勤務日数と有給休暇

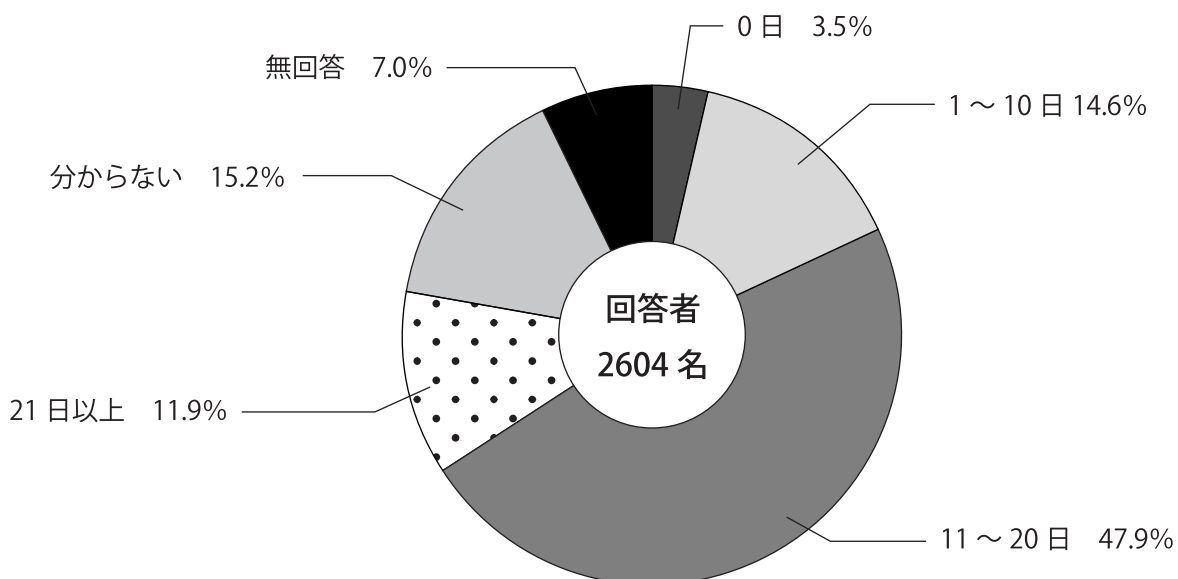
一週間の平均勤務日数は「5日以下」が61.8%と最も多く、次いで「6日以下」の18.0%であった（図Ⅱ-10-1）。

年次有給休暇は「11～20日／年」が47.9%と最も多く、次いで「1～10日／年」14.6%であった（図Ⅱ-10-2）。また、年次有給休暇の利用日数は「1～10日／年」が46.7%と最も多く、次いで「11～20日／年」24.9%であった（図Ⅱ-10-3）。勤務施設別では、年次有給休暇を「私立大学病院」が取得しやすく、「眼科診療所」が取得しにくい傾向がみられた（図Ⅱ-10-4）。

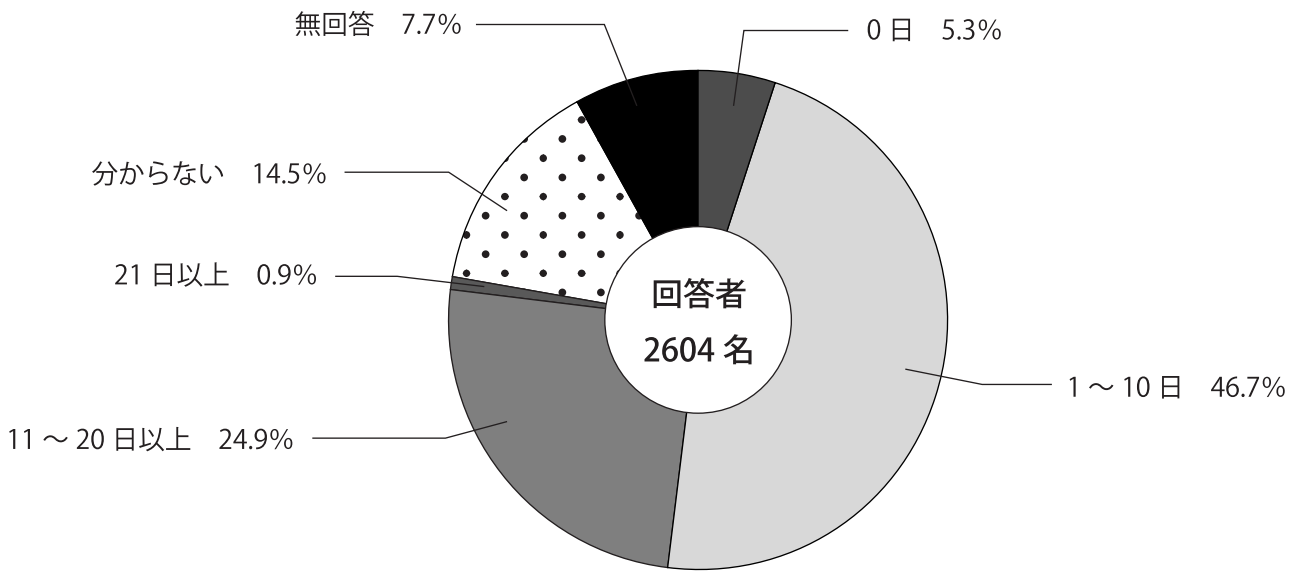
本調査において年次有給休暇の平均取得率は52.8%であった。これは厚生労働省の平成31年就労条件総合調査での平均取得率52.4%とほぼ一致する。労働基準法の改正により、平成31年4月から年5日間の年次有給休暇を取得することが義務化されたことから、今後は年次有給休暇の取得率の向上が期待される。



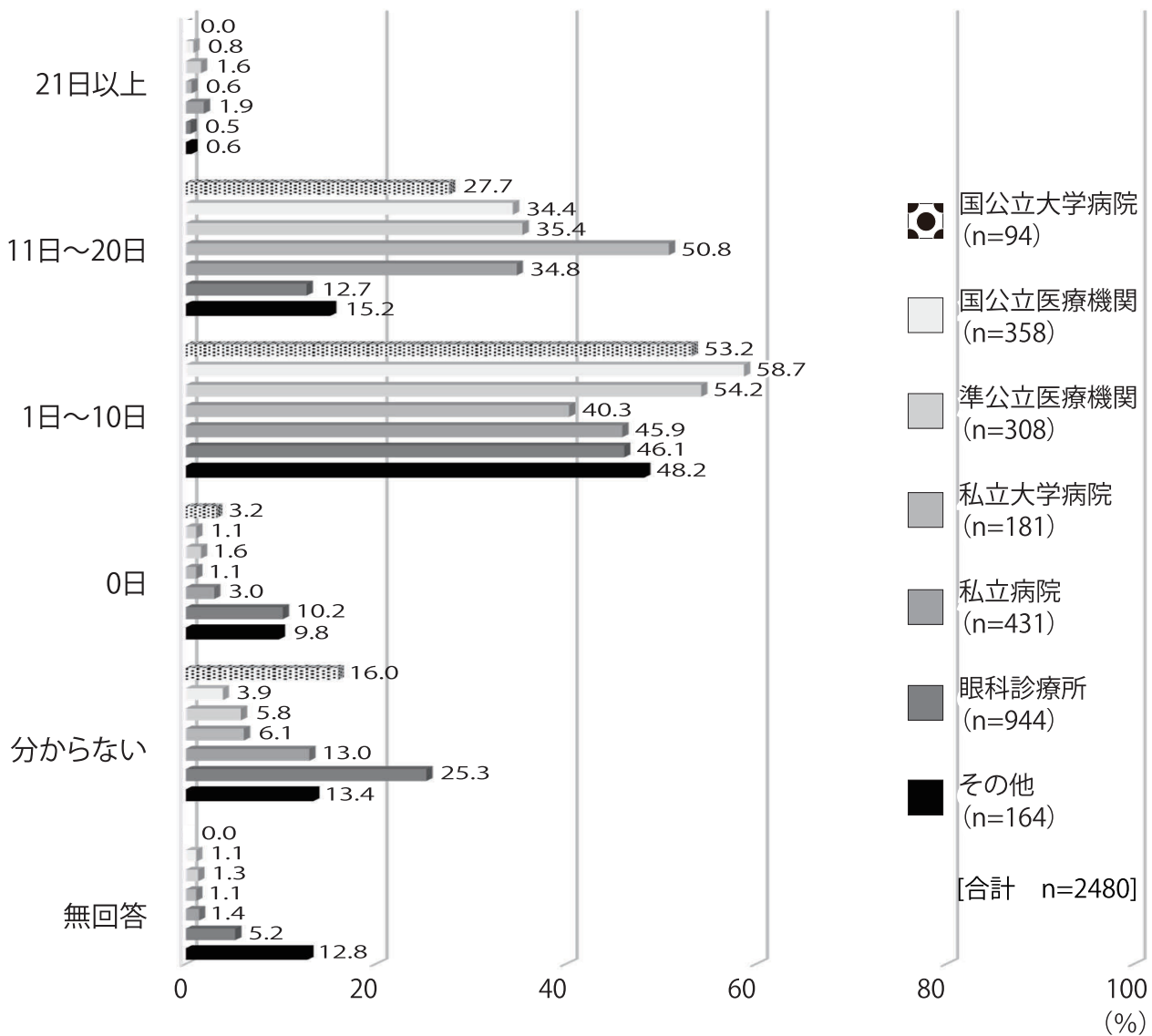
図Ⅱ-10-1 1週間の平均勤務日数



図Ⅱ-10-2 1年間の年次有給休暇の日数



図Ⅱ-10-3 1年間の年次有給休暇の利用日数

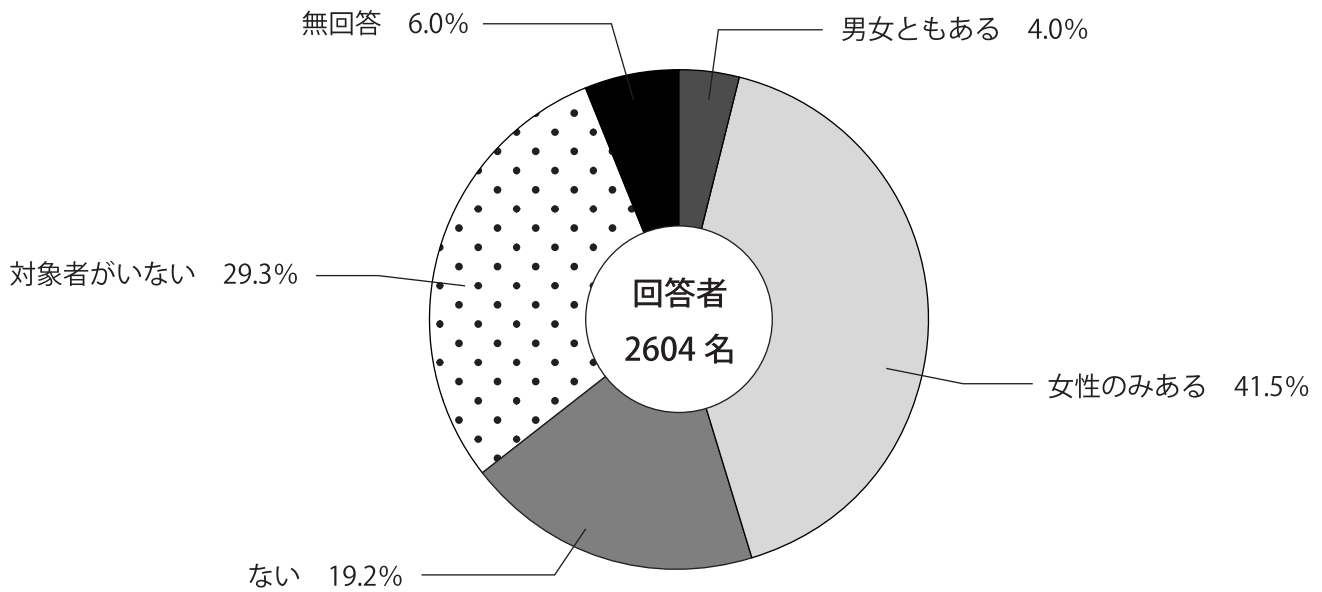


図Ⅱ-10-4 勤務施設と1年間の年次有給休暇の利用日数

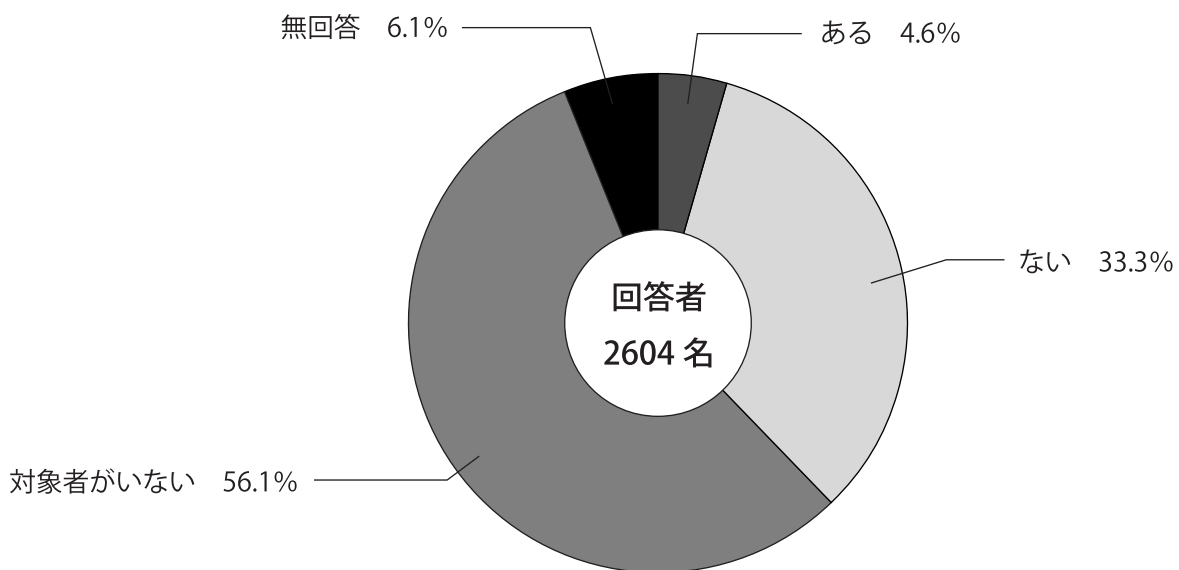
11. 育児休業および介護休業制度

今回の調査では新たに育児・介護休業制度に関する項目を設けた。育児休業制度について、現在勤務している職場における視能訓練士の過去5年間の利用実績は、「男女ともある」が4.0%、「女性のみある」が41.5%、「ない」が19.2%であった（図Ⅱ-11-1）。

平成21年の法改正にて介護休業制度が新たに創設されたが、視能訓練士の過去5年間の利用実績は、「ある」が4.6%、「ない」が33.3%であった。「対象者がいない」は56.1%と半数を超えた（図Ⅱ-11-2）。



図Ⅱ-11-1 過去5年間の育児休業制度利用の実績

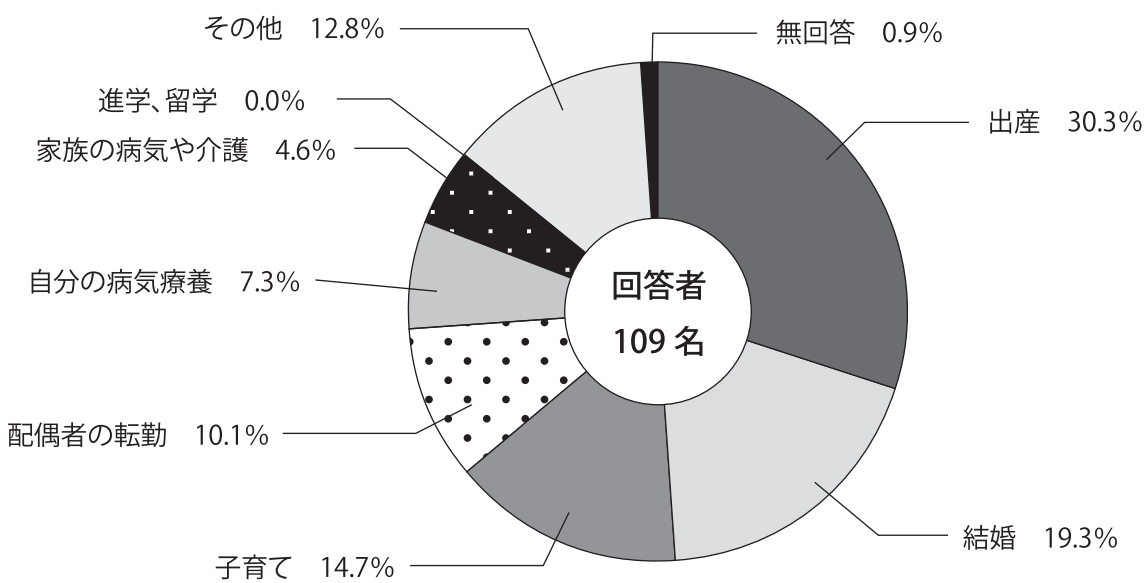


図Ⅱ-11-2 過去5年間の介護休業制度利用の実績

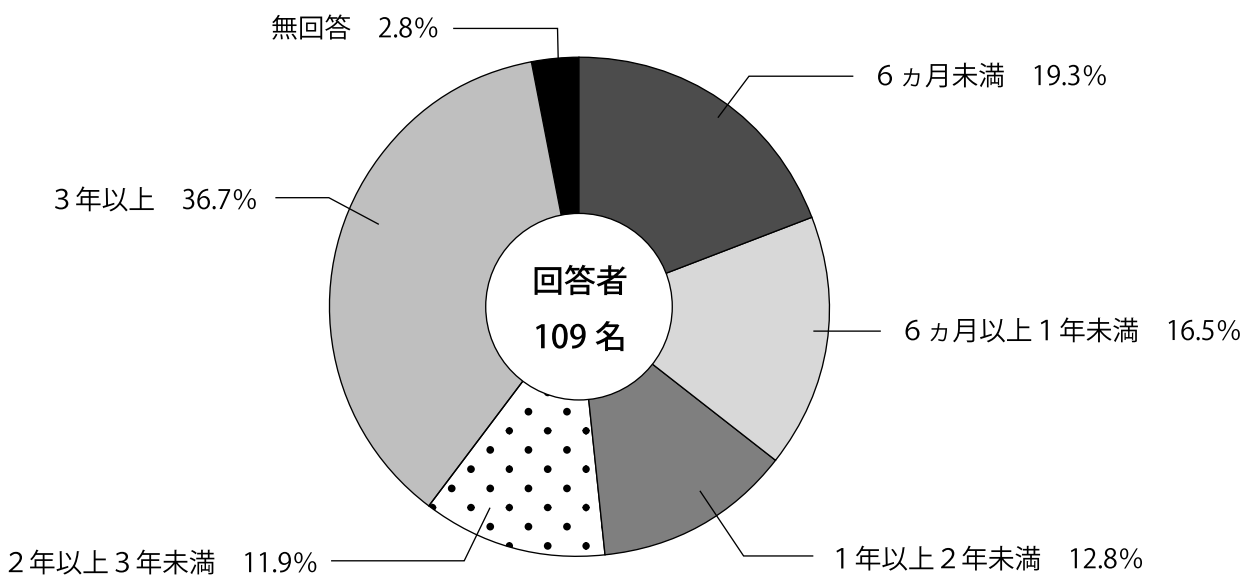
12. 離職・休職

離職・休職についても新たに項目を設けた。離職・休職した理由で最も多かったのは「出産」で30.3%、次いで「結婚」19.3%、「子育て」14.7%の順であった（図Ⅱ-12-1）。離職・休職の回答者はほぼ女性であった。また、図Ⅱ-1-2にて女性に非正規職員が多いことから、結婚、出産、育児、介護、など女性の担う役割の影響が大きいと考えられる。

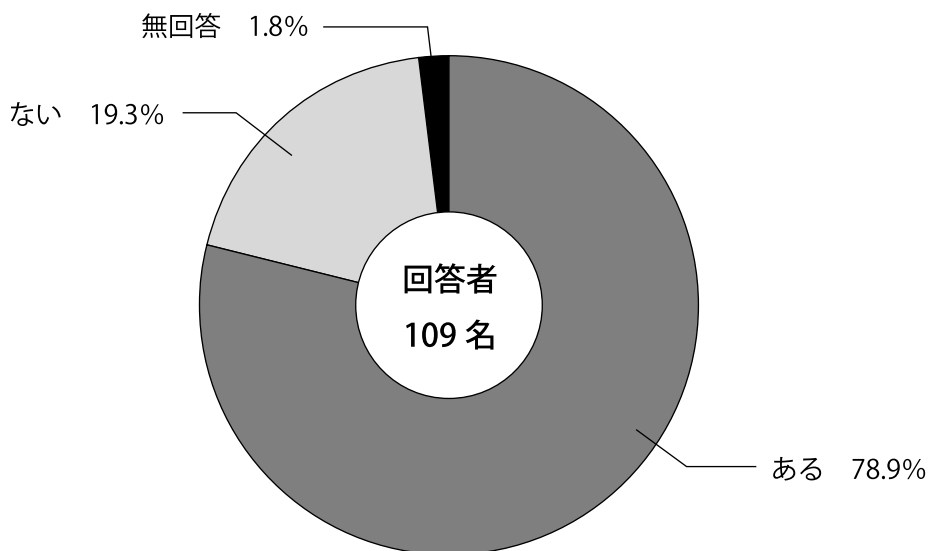
期間は「3年以上」の36.7%が最も多かった（図Ⅱ-12-2）。また、再就職・復職の意思は78.9%が「ある」と答えたが（図Ⅱ-12-3）、その半数以上が「労働条件」や「ブランクの影響」、「職場の人間関係」に不安を感じていた。「ブランクの影響」については復帰のための講習会を求める声もあがった（図Ⅱ-12-4）。



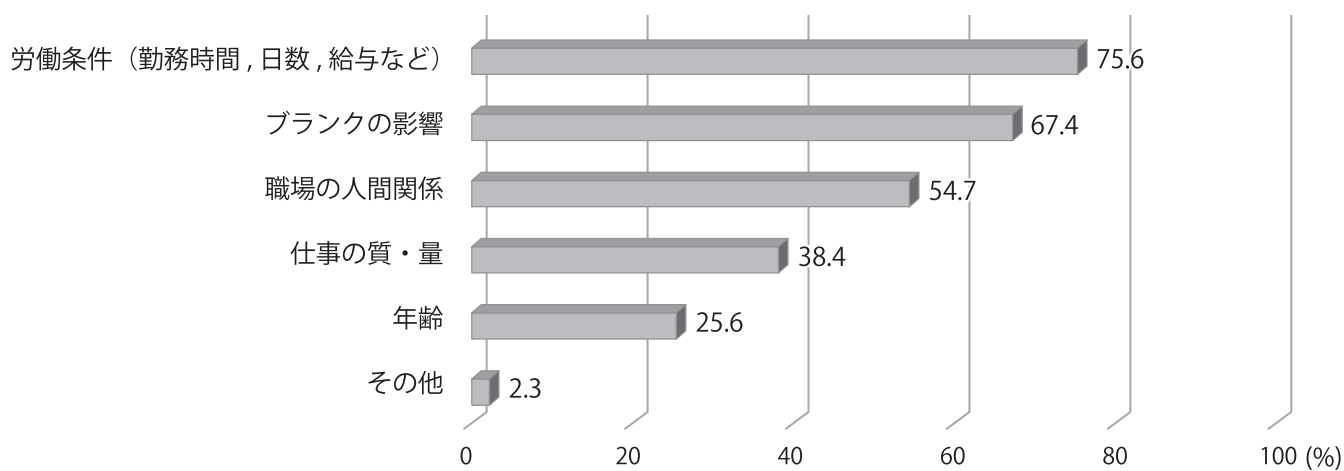
図Ⅱ-12-1 離職・休職の理由



図Ⅱ-12-2 離職・休職している期間



図Ⅱ-12-3 再就職・復職の意思



※「再就職・復職の意思がある」と回答した86名の全227回答での比率を示す

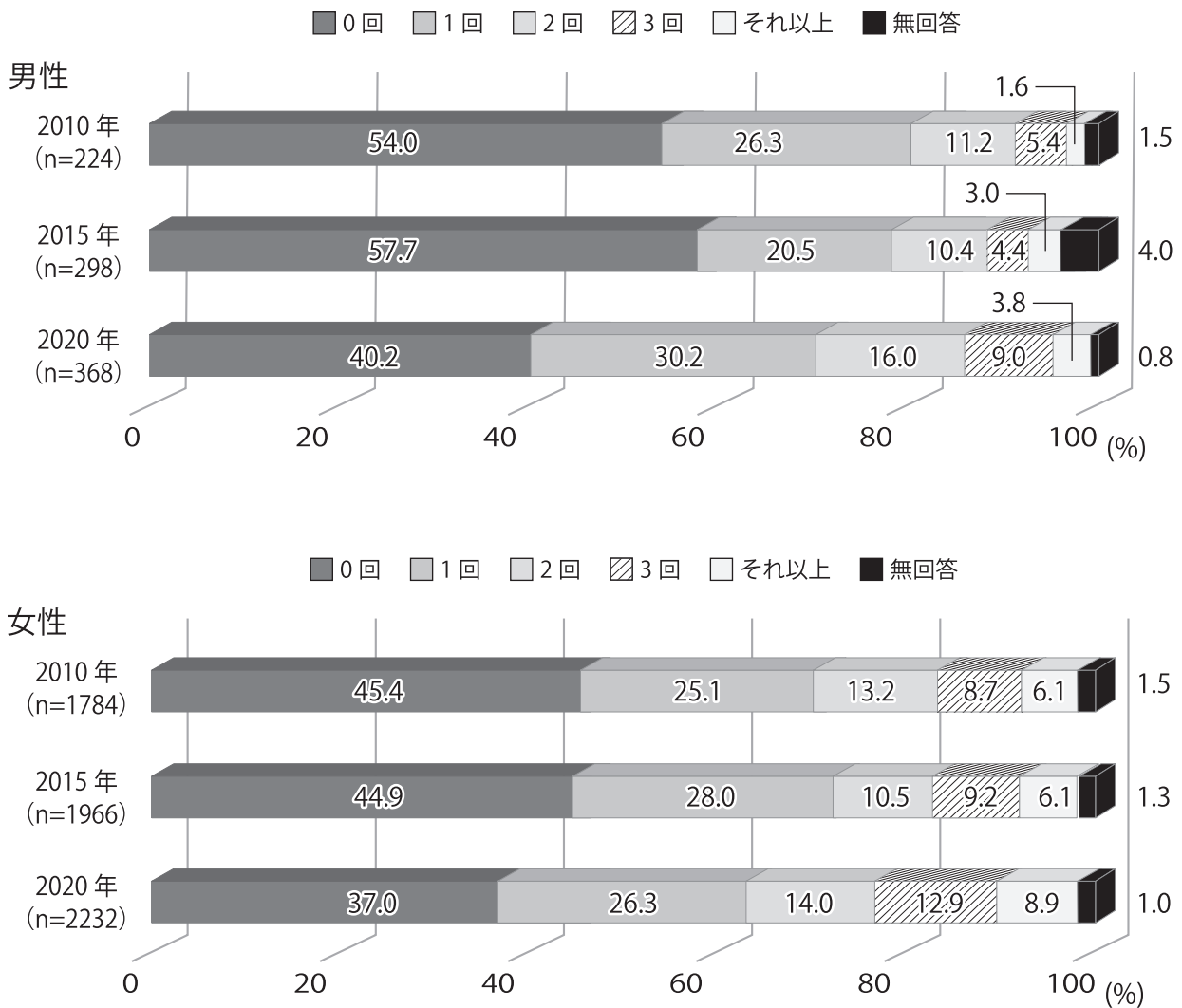
図Ⅱ-12-4 再就職・復職に対する不安 (複数回答)

13. 転職

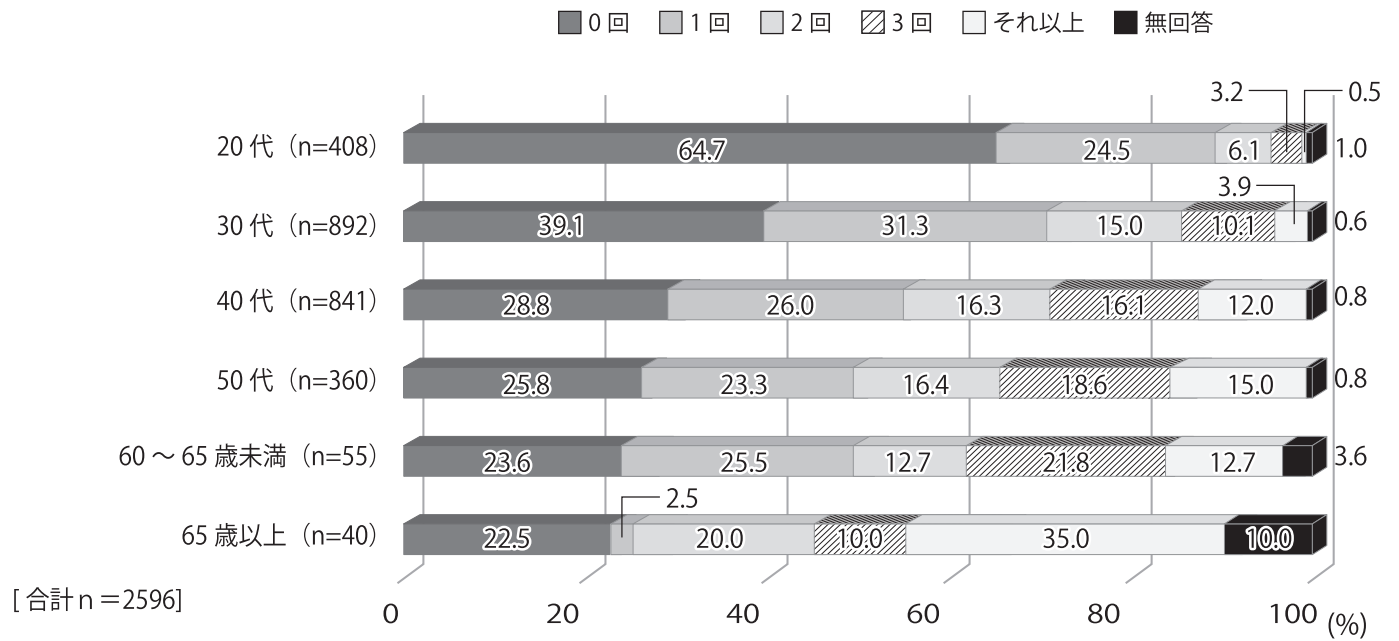
視能訓練士となって職場を変えた回数は「1回」が26.8%、「2回」が14.3%、「3回」が12.3%、「それ以上」が8.2%と、6割以上が一度は転職している結果となり、前回までの調査結果から約10ポイント増加した。この5年で男性の転職回数が急増し、男女差は少なくなった(図Ⅱ-13-1)。年齢別の転職回数は、年齢を重ねる毎に増加しているが、65歳以上でも「0回」が22.5%であった(図Ⅱ-13-2)。地域別の転職回数をみると、北海道と東北は「0回」の割合が他の地域と比べて高かった(図Ⅱ-13-3)。

転職の理由は、男性では今回から追加した「キャリアアップ」が34.6%と最も多く、次いで「給料が低い」33.6%、「人間関係に不満」24.9%であった(図Ⅱ-13-4)。女性では、「結婚や出産を機に」が38.1%と最も多く、次いで「人間関係に不満」23.9%、「キャリアアップ」19.1%であった(図Ⅱ-13-5)。また今回から追加した「ハラスメントを受けた」も男女ともに上位の理由にあがった。

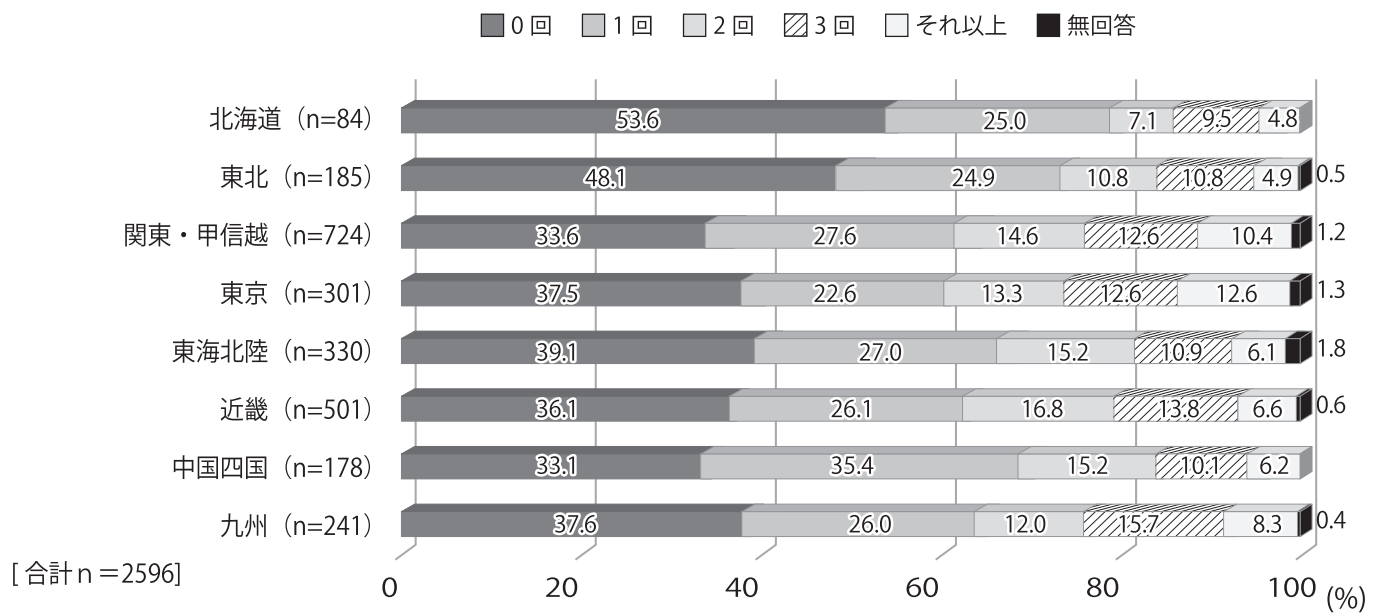
男性の転職回数が急増した理由として、キャリア志向が強くなったこと、終身雇用という考え方が薄れて転職のハードルが下がったことが考えられる。



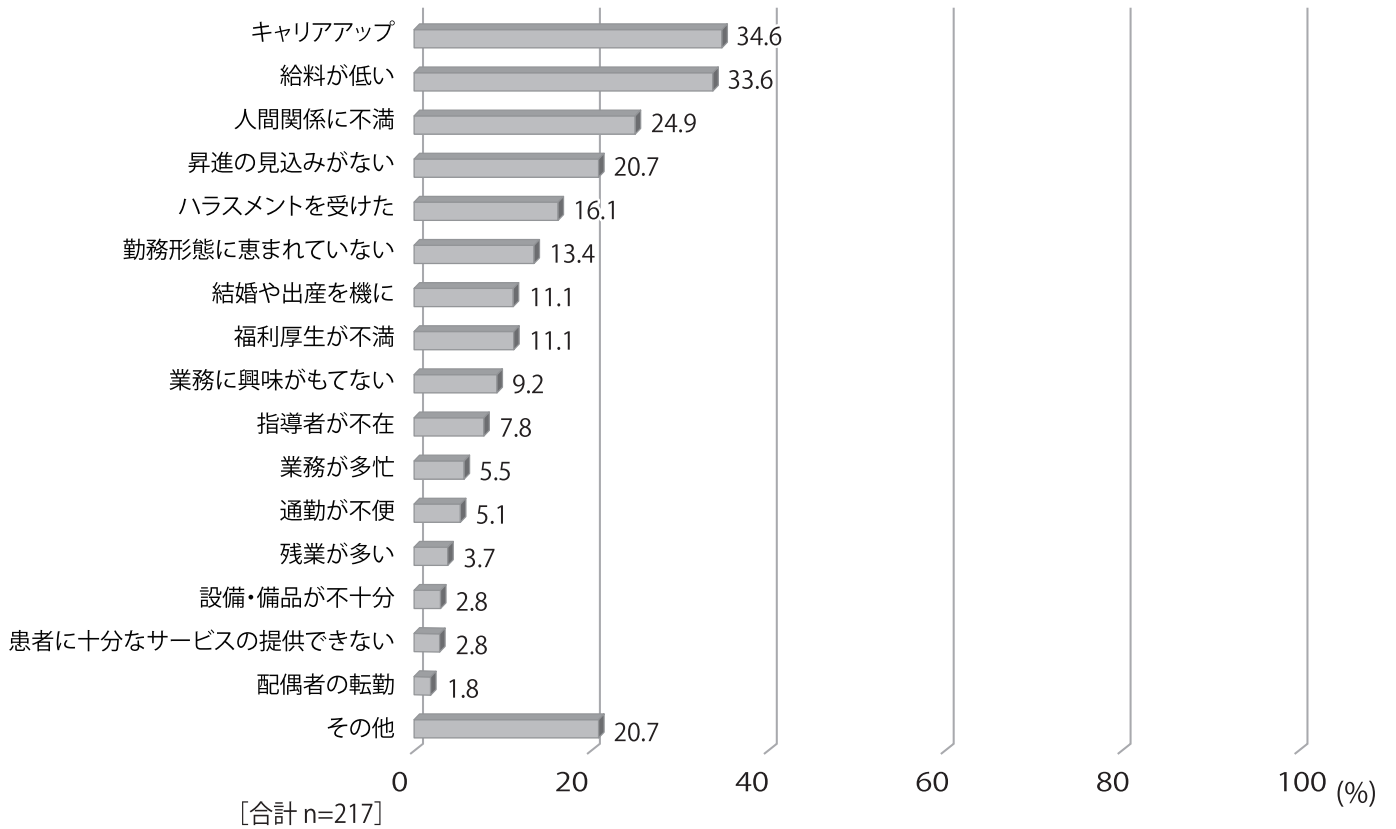
図Ⅱ-13-1 男女別の転職回数の推移



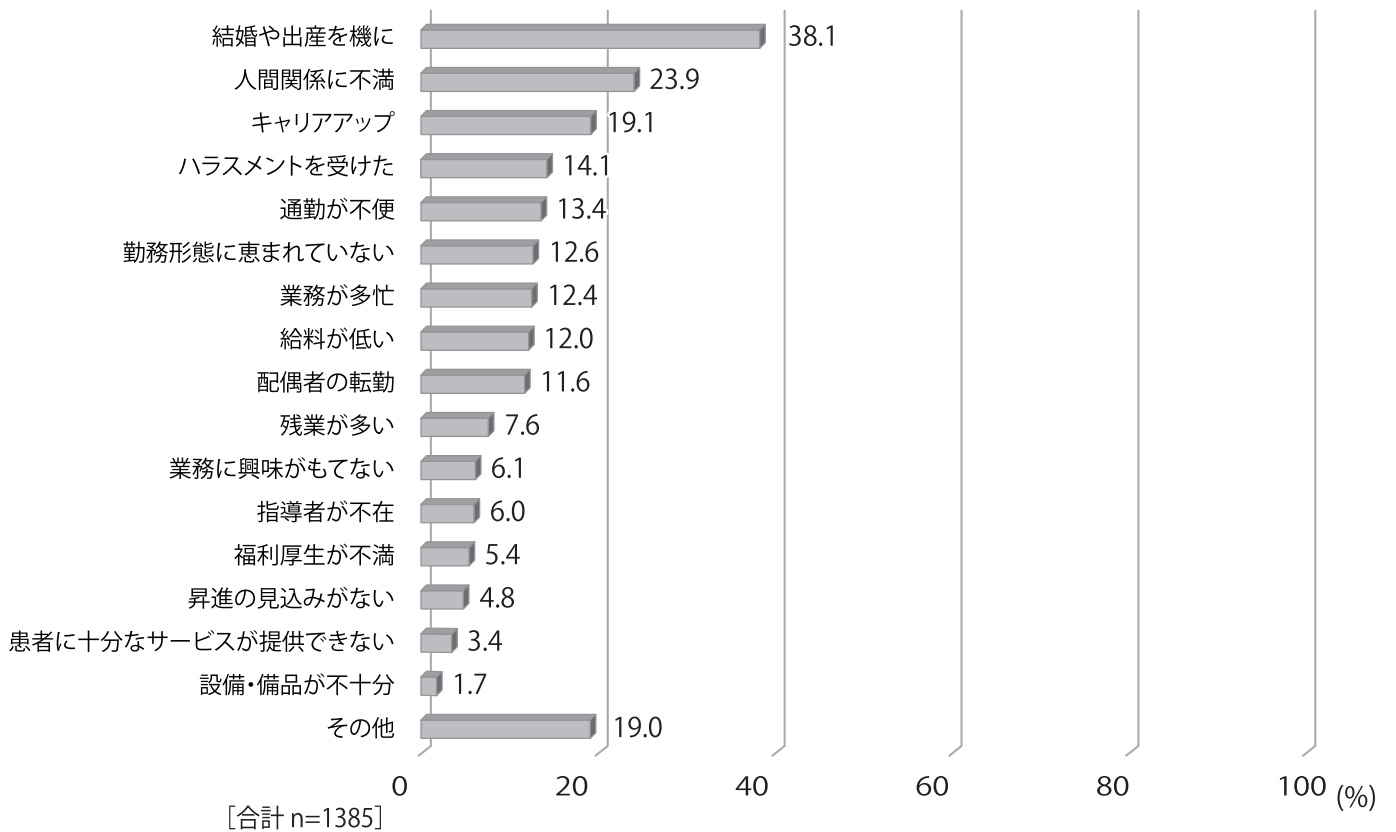
図Ⅱ-13-2 年齢別の転職回数



図Ⅱ-13-3 地域別の転職回数



図Ⅱ-13-4 男性の転職理由（複数回答）

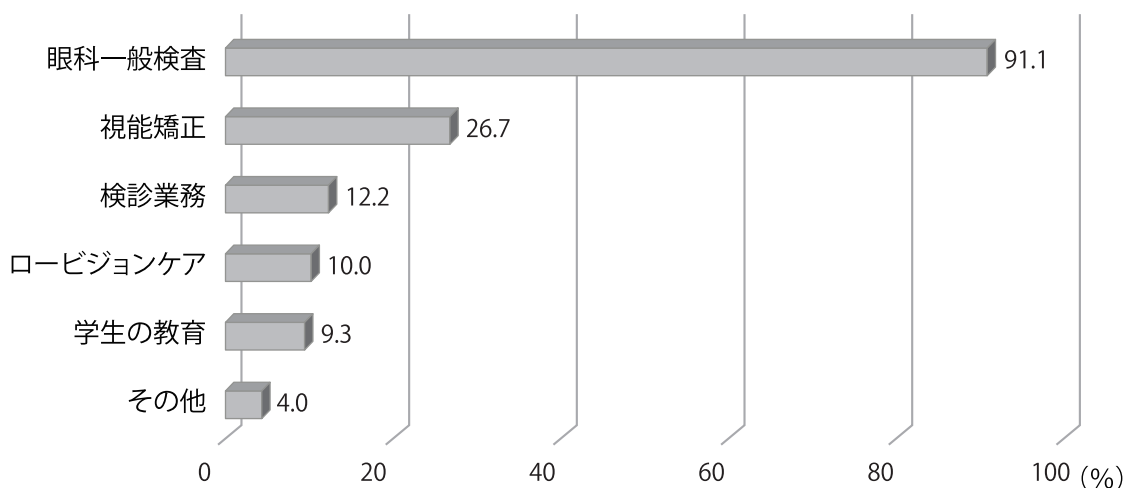


図Ⅱ-13-5 女性の転職理由（複数回答）

Ⅲ 勤務状況

1. 業務概要

従事している主な業務は「眼科一般検査」が91.1%と最も多かった。次いで「視能矯正」26.7%、「検診業務」12.2%、「ロービジョンケア」10.0%、「学生の教育」9.3%であった（図Ⅲ-1）。

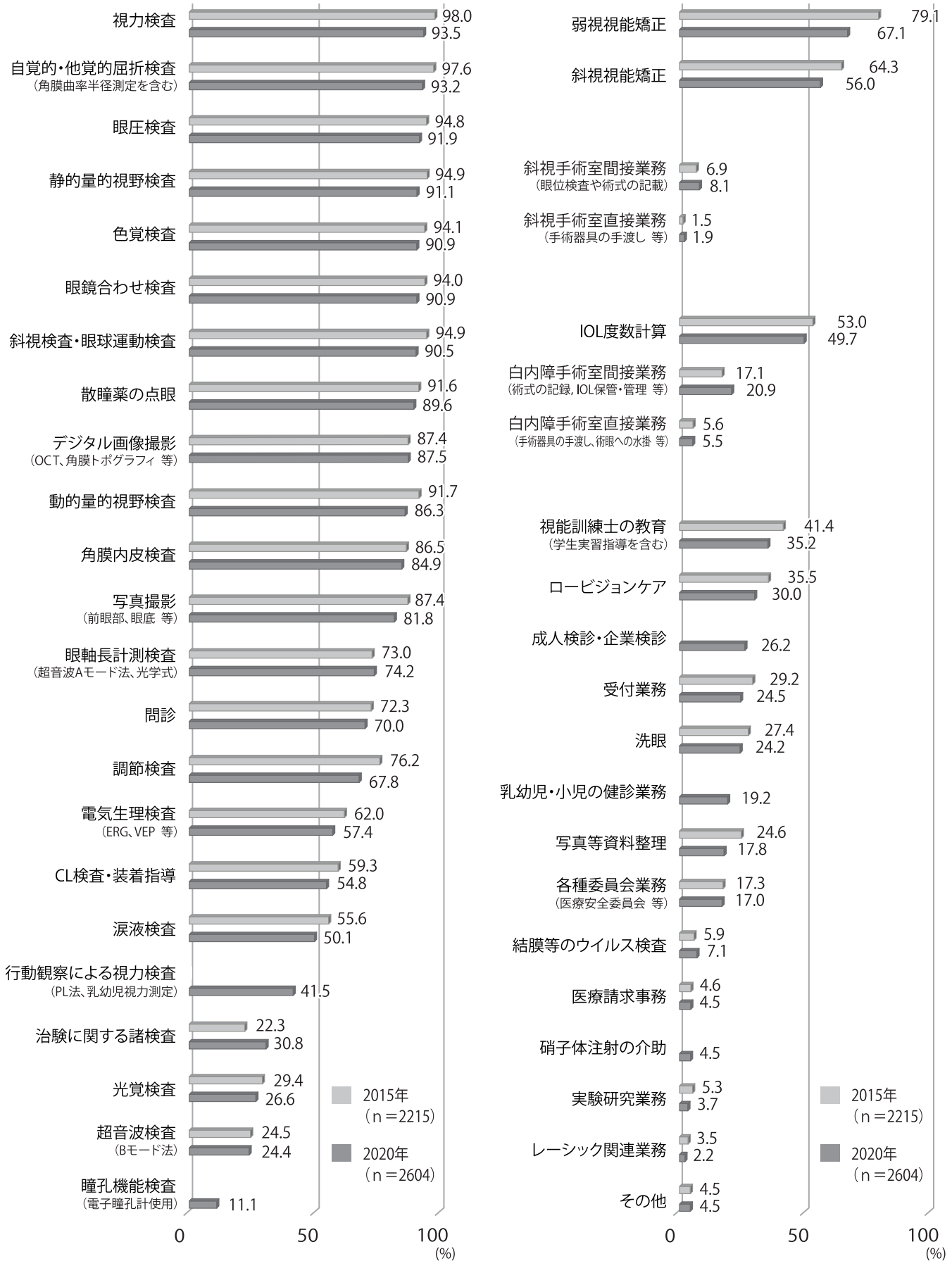


※回答した2604名の全3992回答での比率を示す

図Ⅲ-1 従事している主な業務（複数回答）

2. 業務内容

今回は「行動観察による視力検査（PL法，乳幼児視力測定）」、「瞳孔機能検査（電子瞳孔計使用）」、「3歳児（乳幼児）健診・就学時健診業務」，「成人検診・企業検診など業務」，「硝子体注射の介助」の項目を新たに追加した。前回の調査と比べて5ポイント以上増加したのは「治験に関する諸検査」で，5ポイント以上減少したのは「弱視視能矯正」，「調節検査」，「斜視視能矯正」，「写真撮影（前眼部，眼底，など）」，「視能訓練士の教育（学生実習指導を含む）」，「涙液検査」，「ロービジョンケアに関する諸検査・指導」，「動的量的視野検査」であった（図Ⅲ-2）。



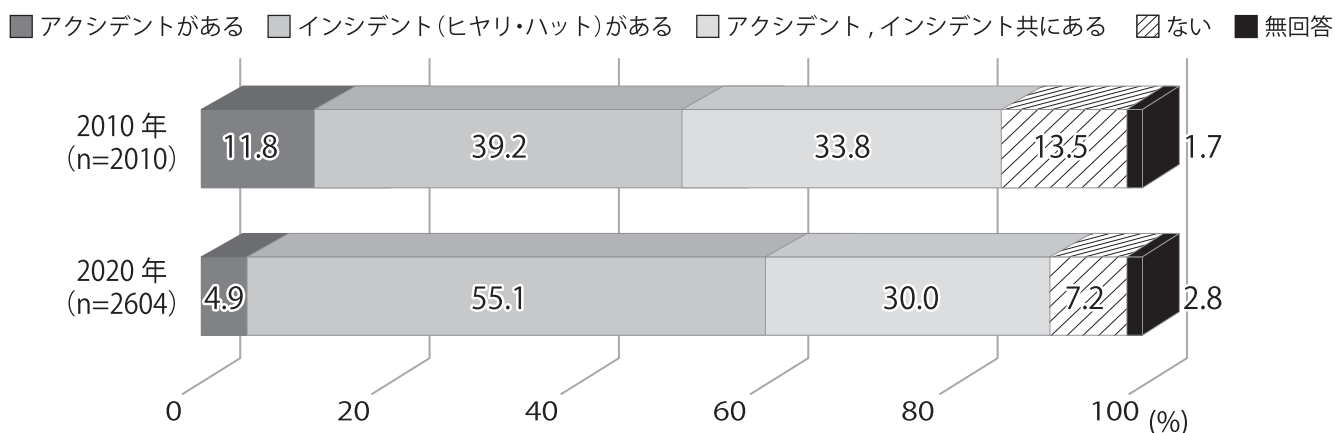
図Ⅲ-2 従事している業務内容（複数回答）

※注意：本アンケートは視能訓練士の業務内容の実態を把握するために実施しております。ここに掲げられた業務全てが現在、適法と評価されるものではありません

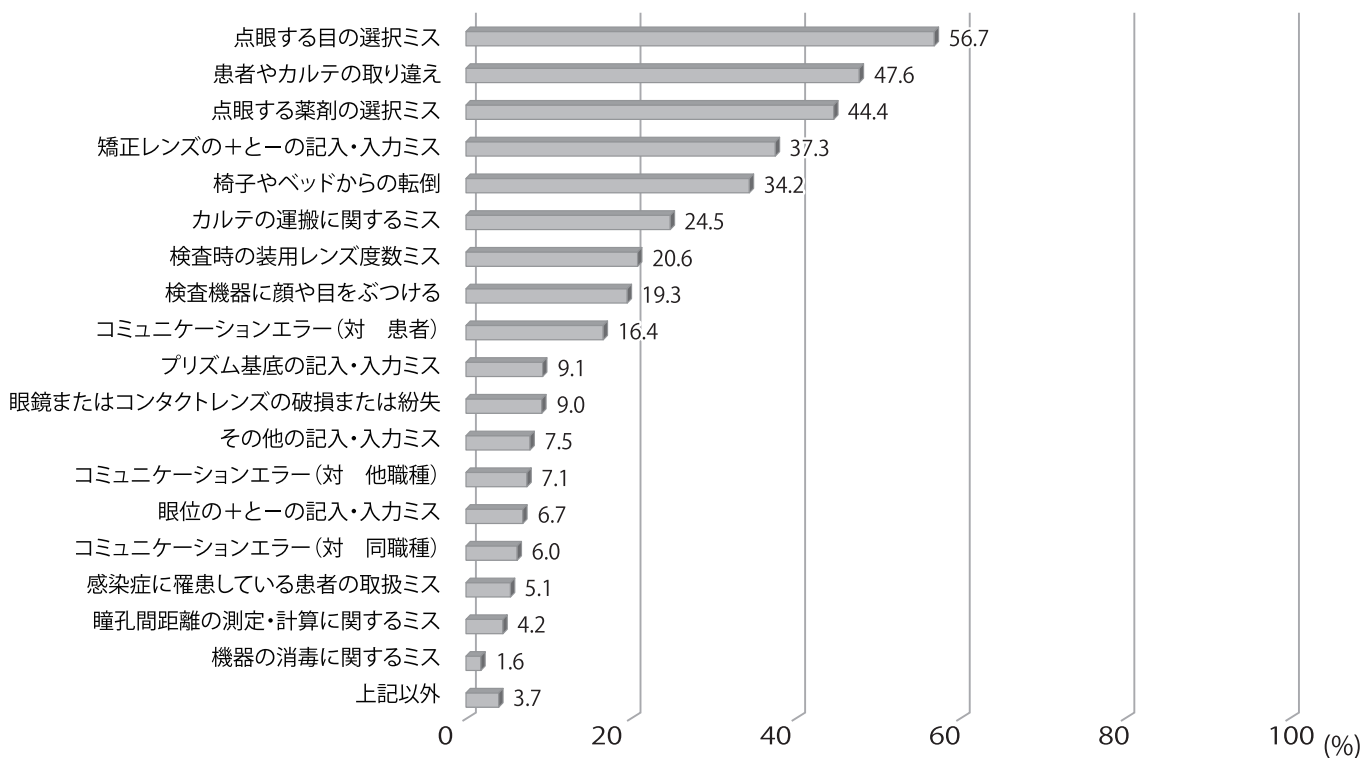
3. 医療事故

全体の9割が、今までの業務において何らかのインシデントやアクシデントを経験したことがあると答えた。そのうち「アクシデントがある」が4.9%、「インシデントがある」が55.1%、「アクシデント、インシデントともにある」が30.0%であった（図Ⅲ-3-1）。10年前に比べ「ある」の回答が増加しているが、2007年には医療法改正で医療安全管理が義務化され、職員研修が頻繁に実施されるようになったため、個々の医療安全に対する意識の高まりが影響していると考えられる。

インシデントやアクシデントの内容は、「点眼する眼の選択ミス」が56.7%と最も多く、次いで「患者やカルテの取り違い」47.6%、「点眼する薬剤の選択ミス」44.4%、「矯正レンズの+と-の記入・入力ミス」37.3%、「椅子やベッドからの転倒」34.2%であった（図Ⅲ-3-2）。



図Ⅲ-3-1 インシデント・アクシデントの経験



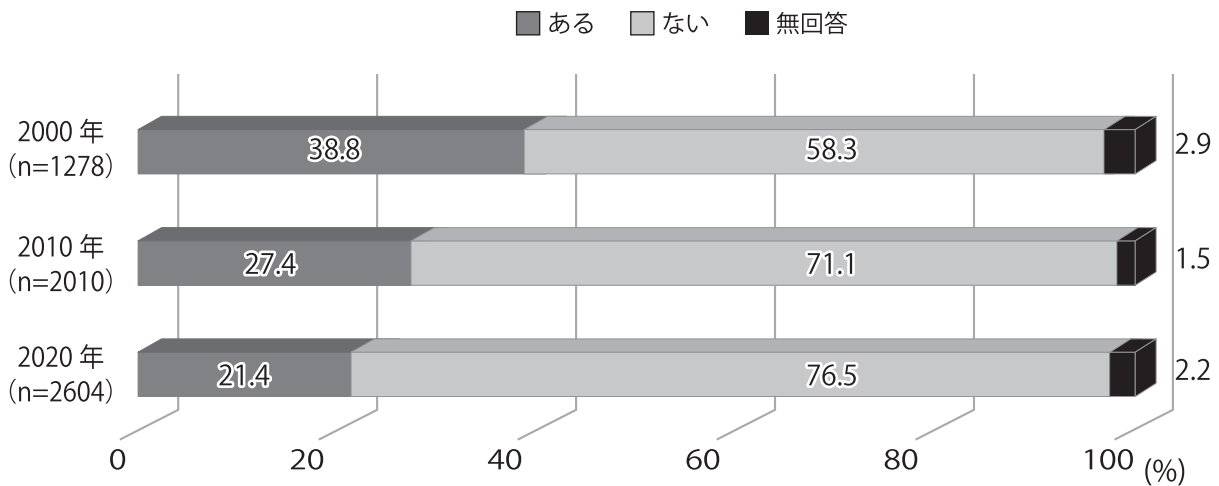
※インシデント・アクシデントが「ある」と回答した 2344 名の全 8461 回答での比率を示す

図Ⅲ-3-2 インシデント・アクシデントの内容（複数回答）

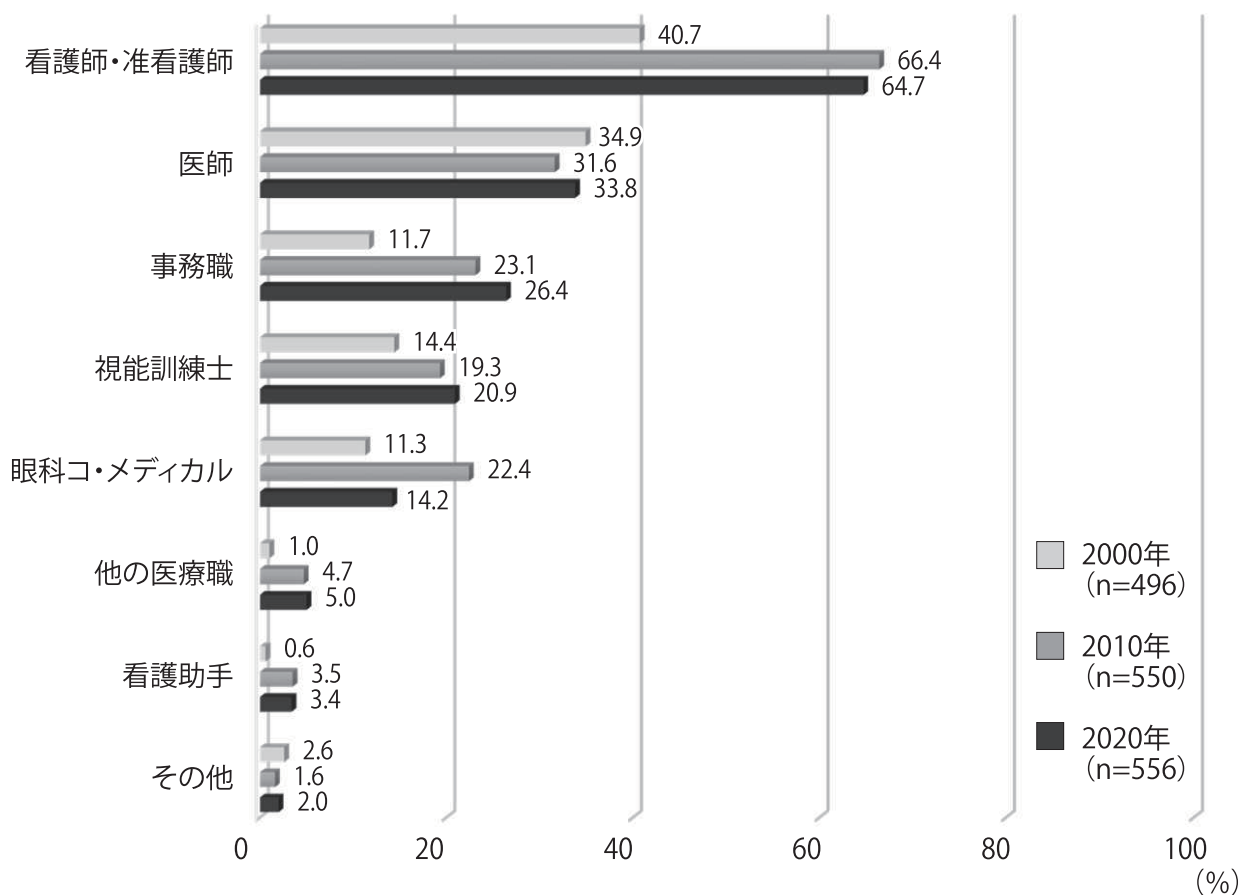
4. 他の医療関連職種とのトラブル

他の医療関連職種とのトラブルが「ある」は21.4%と減少傾向であった（図Ⅲ-4-1）。チーム医療という概念が導入され他職種との連携の機会が増したことでお互いの理解が深まりトラブルが減少したのではないかと考えられる。

トラブルがあった職種は「看護師・准看護師」64.7%、「医師」33.8%、「事務職」26.4%、「視能訓練士」20.9%で、5年前と比較し大きな変化はなかった（図Ⅲ-4-2）。



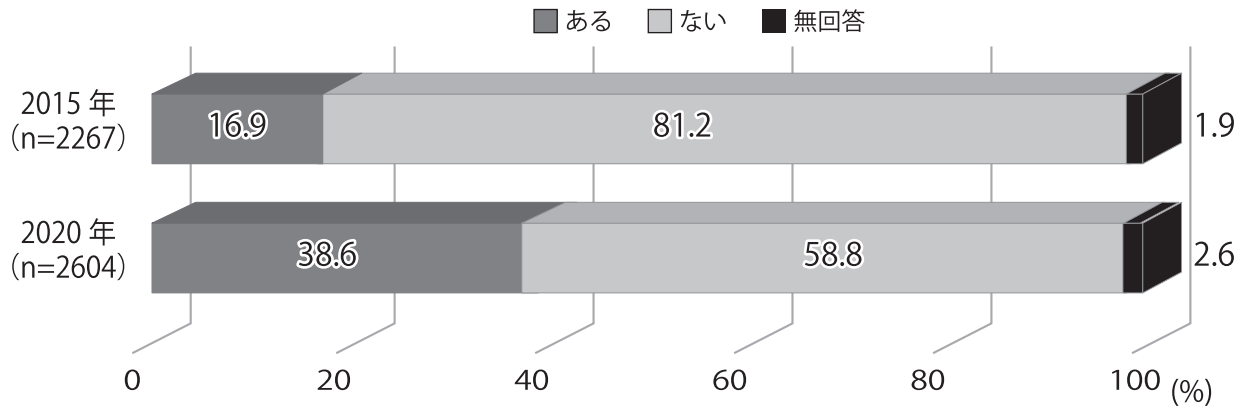
図Ⅲ-4-1 他の医療関連職種とのトラブル



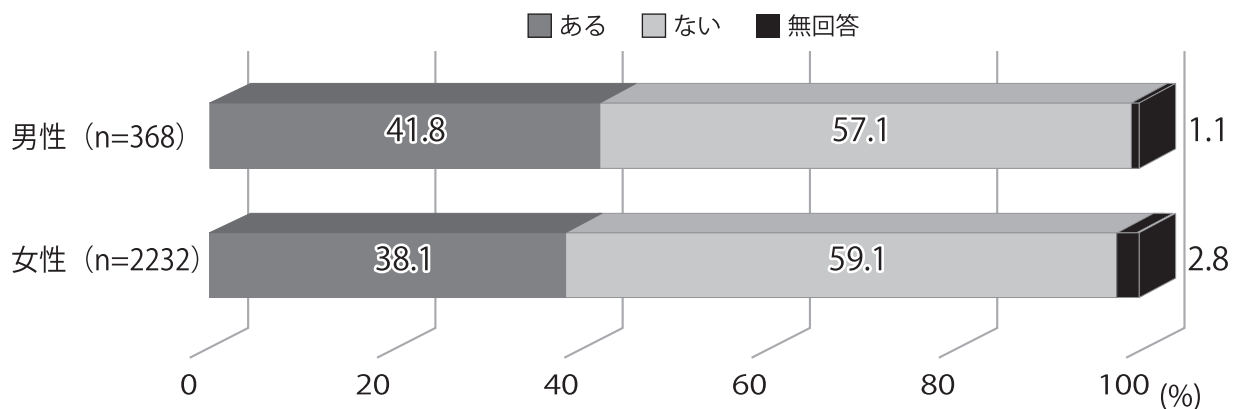
図Ⅲ-4-2 トラブルがあった医療関連職種（複数回答）

5. ハラスメント

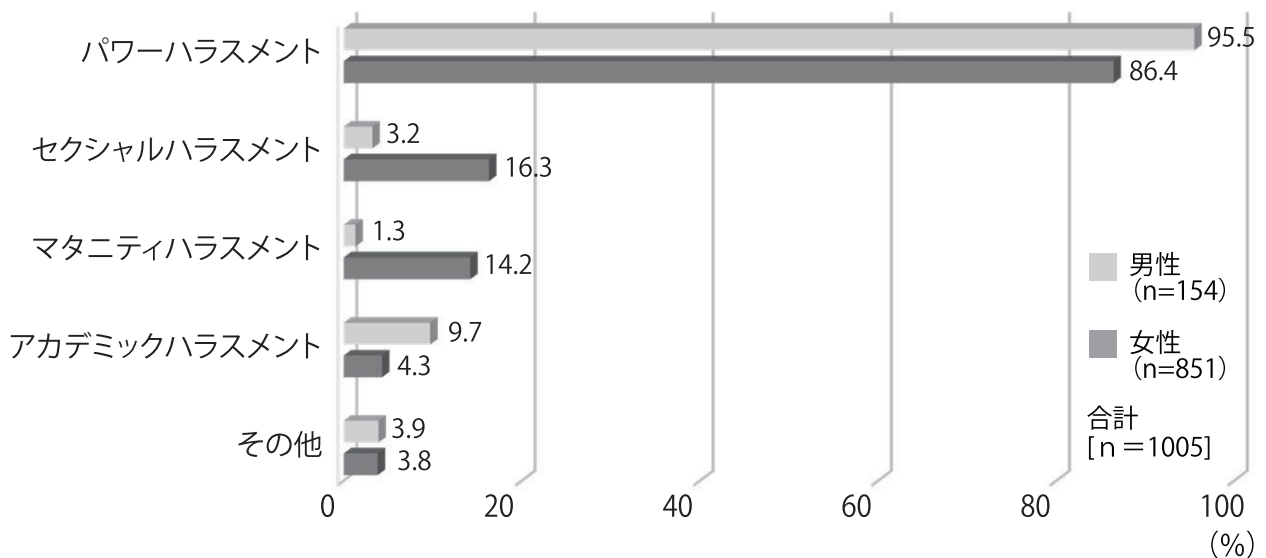
ハラスメントについては前回から新たに設けた項目であるが、ハラスメントを受けた経験が「ある」は38.6%で、5年前より20ポイント以上増加した（図Ⅲ-5-1）。男女差はなく（図Ⅲ-5-2）、「パワーハラスメント」が最も多い結果となった（図Ⅲ-5-3）。



図Ⅲ-5-1 ハラスメントを受けた経験



図Ⅲ-5-2 男女別のハラスメントを受けた経験

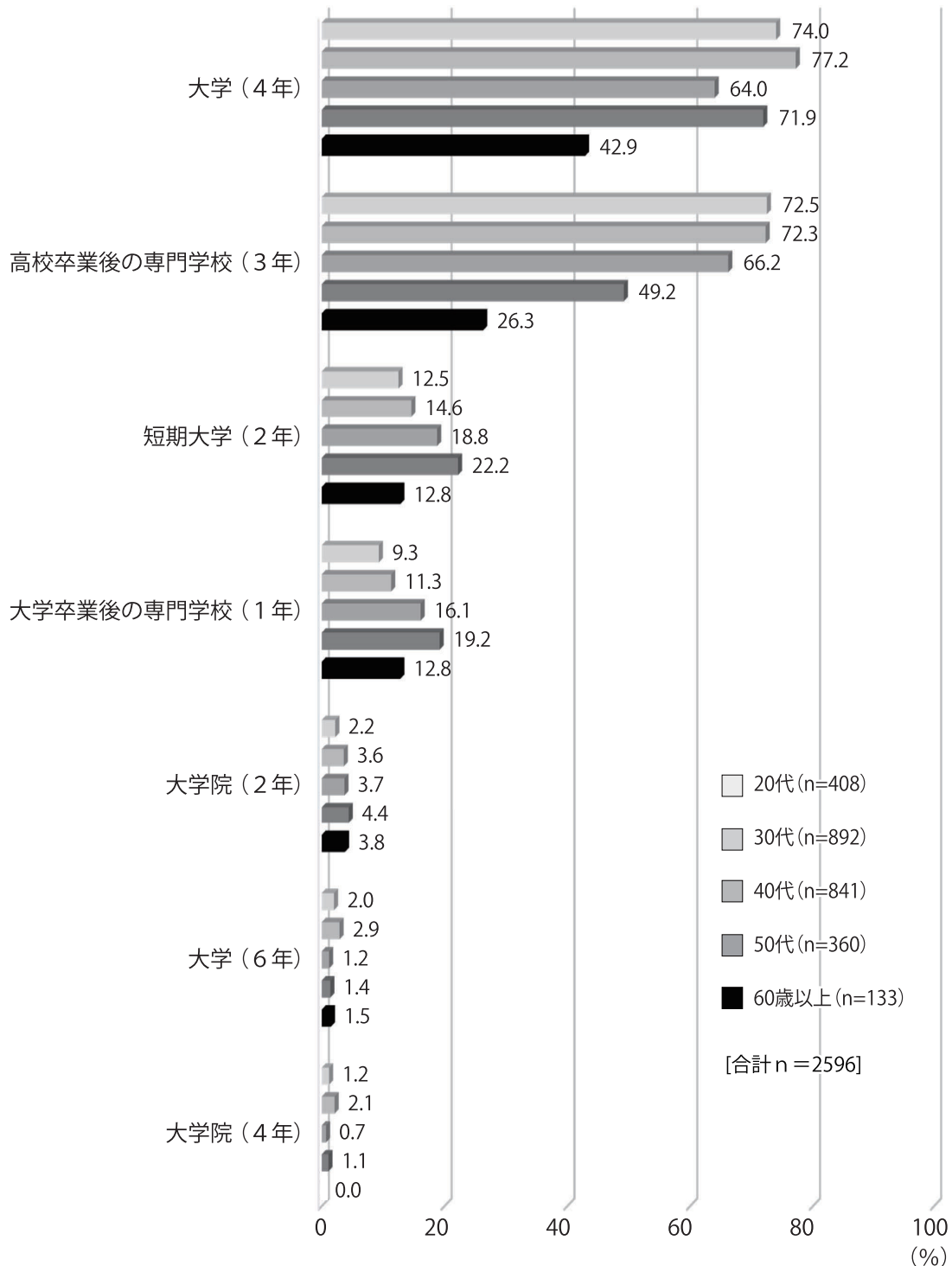


図Ⅲ-5-3 男女別の受けたハラスメントの種類（複数回答）

IV 視能訓練士の養成

1. 修業機関

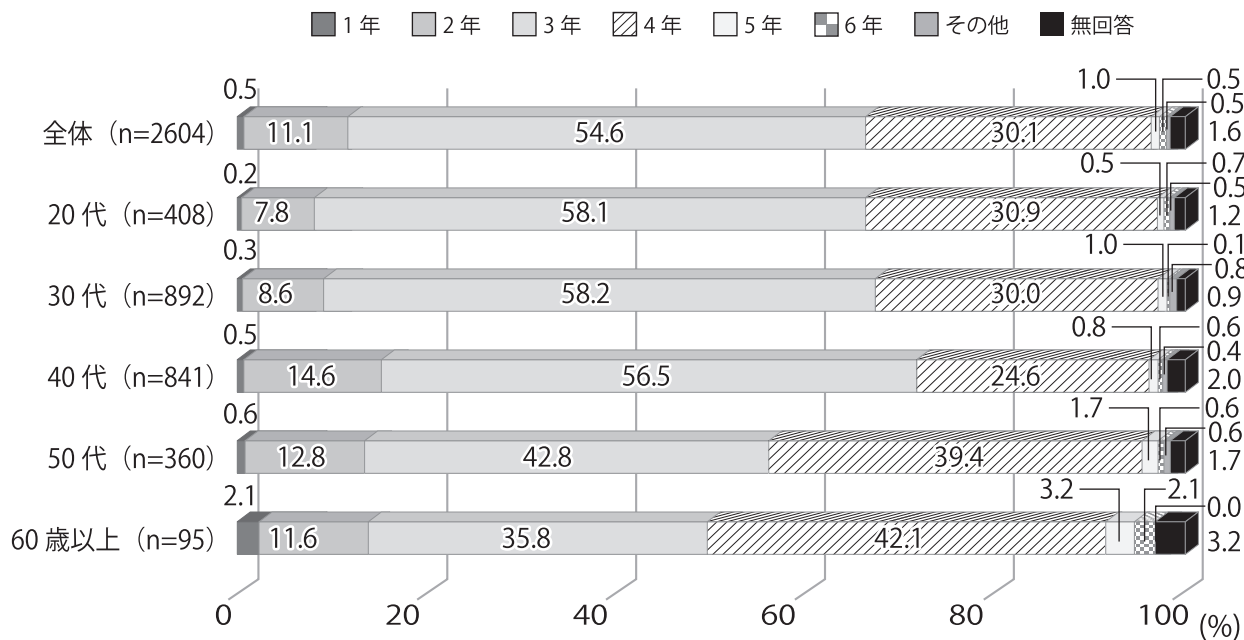
視能訓練士の養成に適した修業機関は、「大学（4年）での教育」が71.0%と最も多く、次いで「高校卒業後の専門学校（3年）での教育」65.8%であった。年代が高くなるほど「大学での教育」が適していると思う割合が多かった（図IV-1）。



図IV-1 理想的な修業機関（複数回答）

2. 修業年数

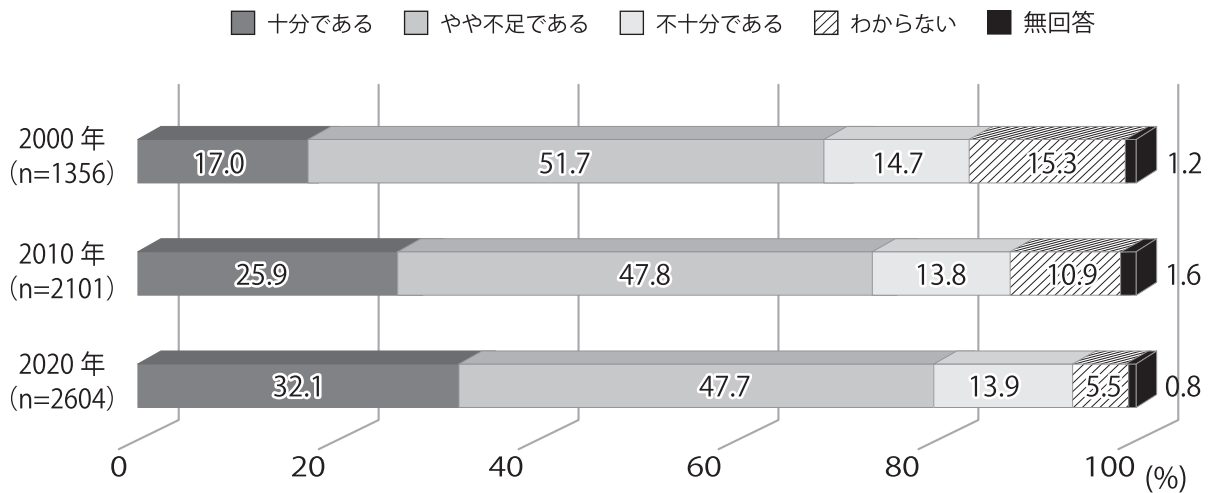
高校卒業後に換算した視能訓練士の養成に必要な修業年数は、基礎および専門を含めて「3年」が54.6%と最も多く、次いで「4年」の30.1%であった（図IV-2）。



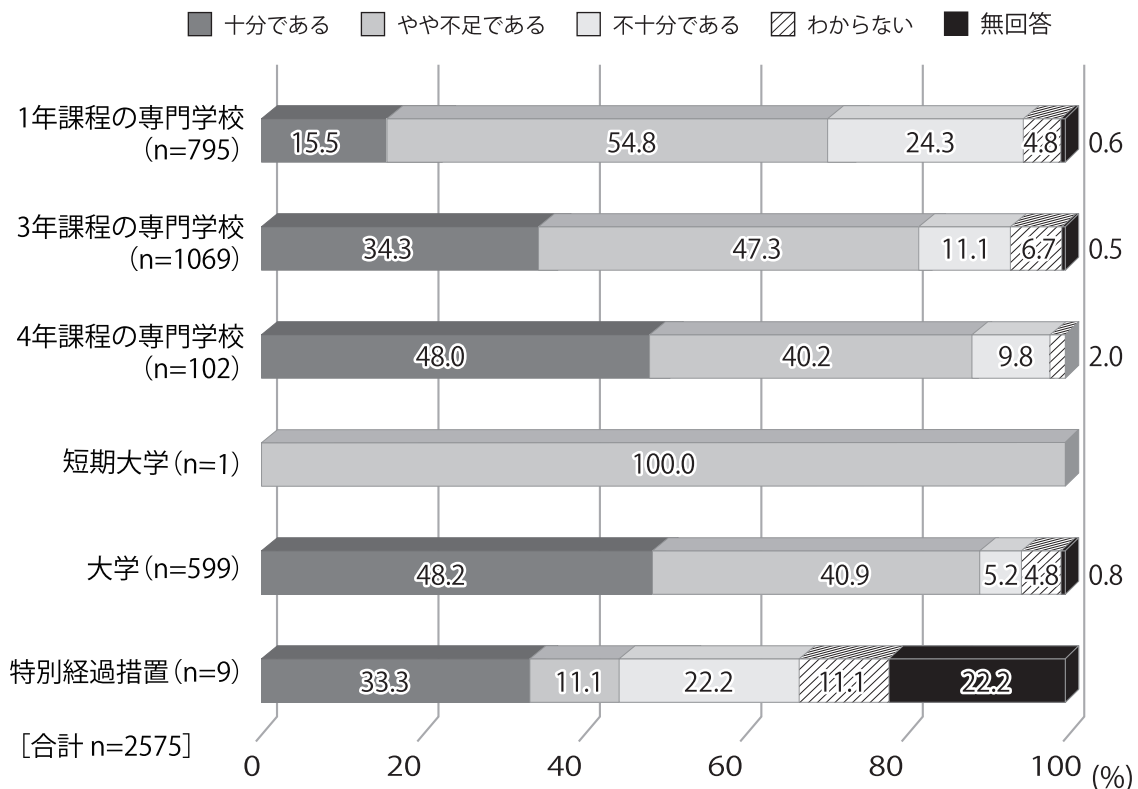
図IV-2 理想的な修業年数（高卒後に換算）

3. 修業内容の評価

「十分である」は年々増加し2020年は32.1%であった。しかしながら、「やや不足である」「不十分である」は、各調査年ともに6割を超えていた（図IV-3-1）。また、教育を受けた養成校別の評価では、修業年数が4年課程の専門学校および大学の人は約半数が「十分である」と感じていた（図IV-3-2）。



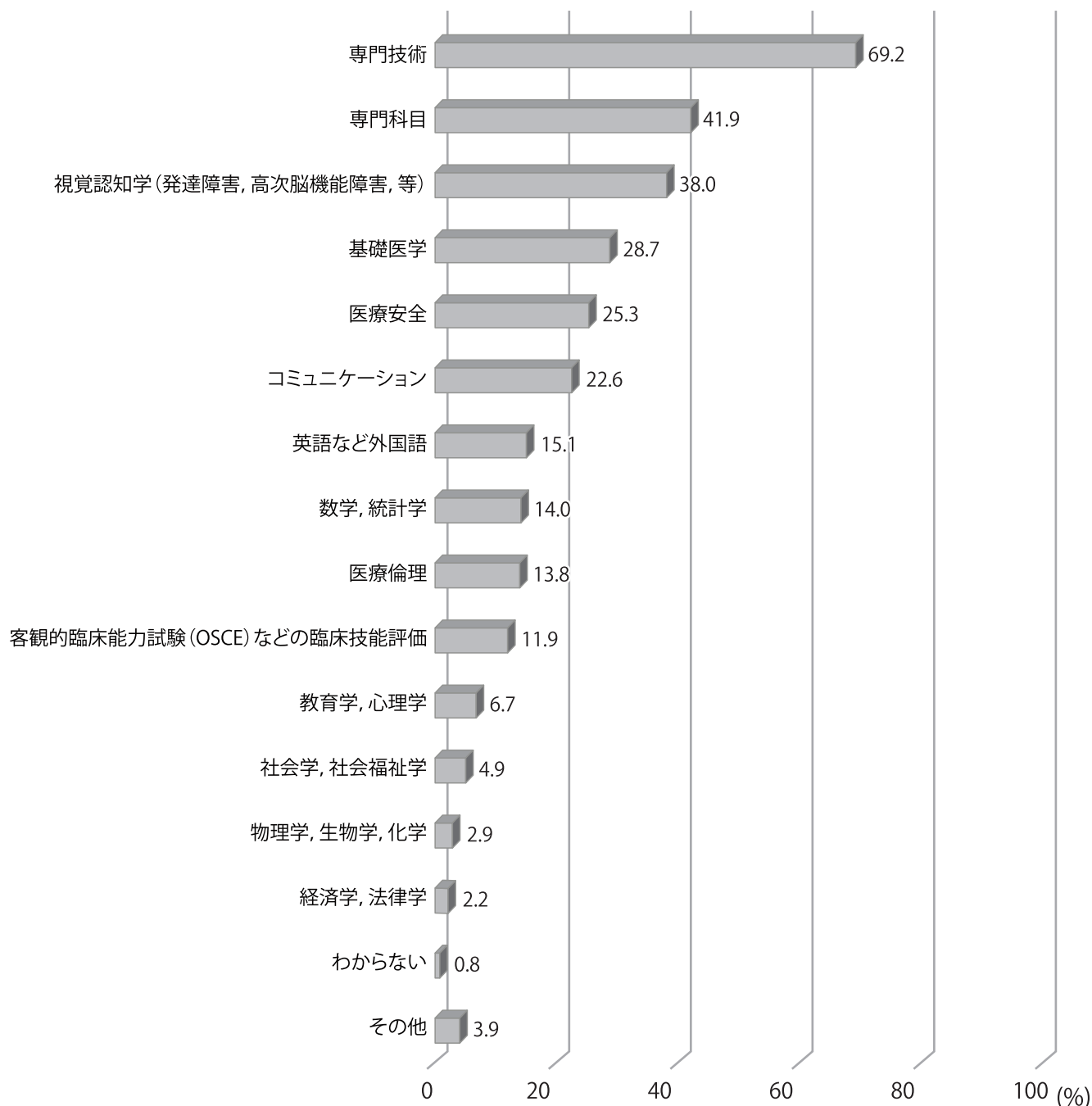
図IV-3-1 修業内容の評価



図IV-3-2 教育を受けた養成校別の修業内容の評価

4. 充実を必要とする科目

修業内容について「やや不足」「不十分」と答えた人を対象に、今後 充実が必要と思う科目や内容を尋ねたところ、「専門技術」が69.2%で最も多かった。また今回の調査で選択項目に追加した「視覚認知学」は38.0%、「医療安全」は25.3%、「コミュニケーション」は22.6%で、いずれも上位にあがった（図IV-4）。

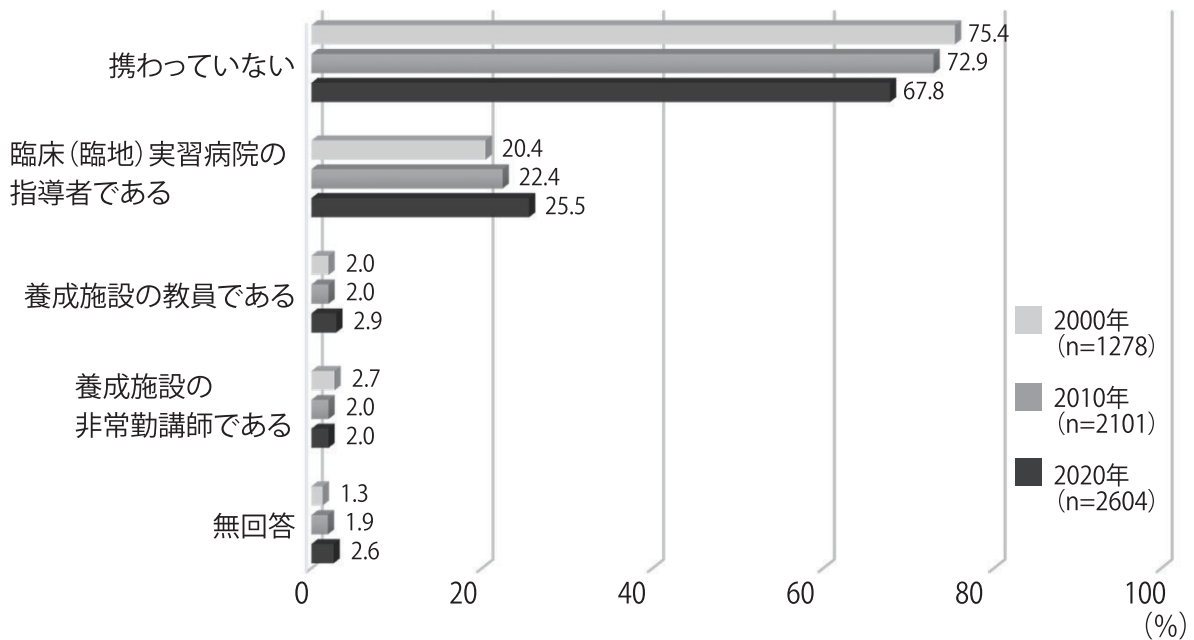


※「やや不足である」「不十分である」と回答した1604名の全4847回答での比率を示す

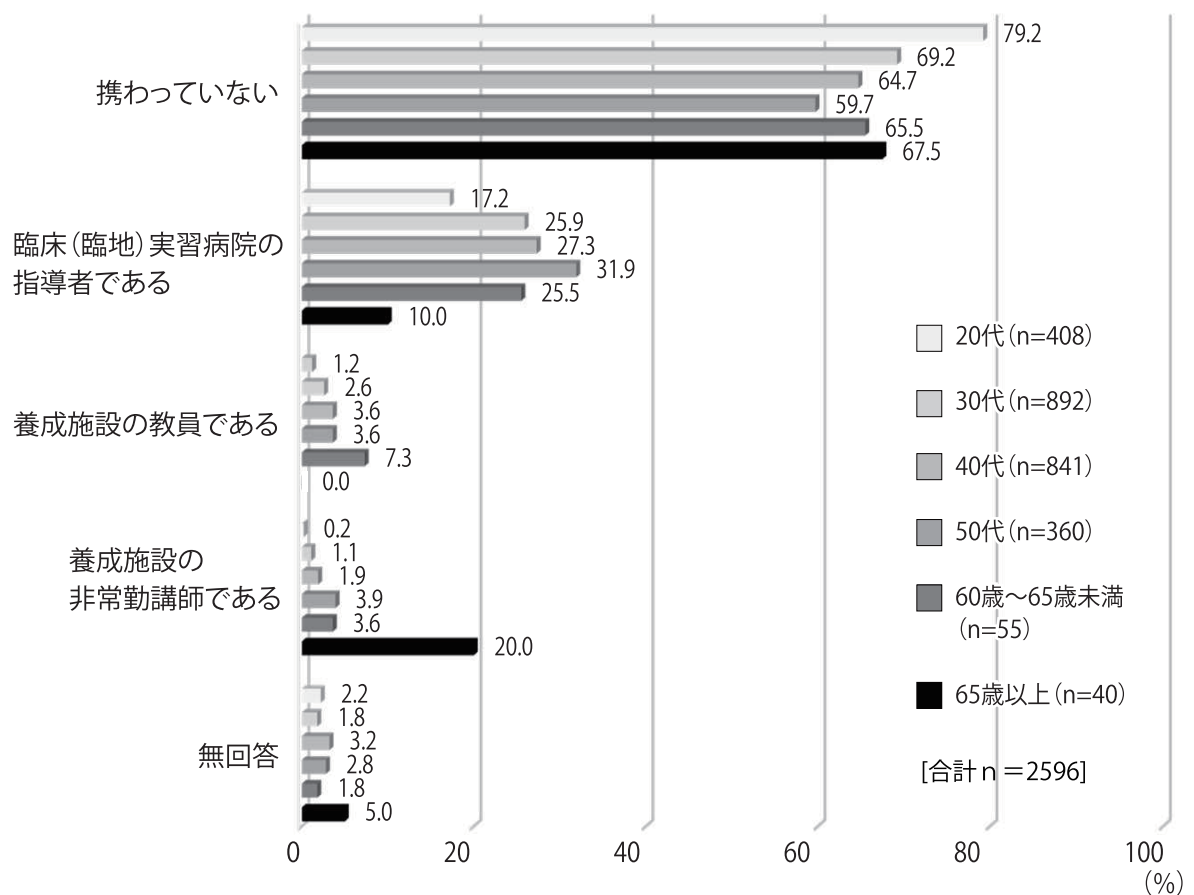
図IV-4 充実を必要とする科目（複数回答）

5. 教育への関与

教育に「携わっていない」は67.8%で最も多く、「臨床（臨地）実習の指導者である」は25.5%で調査年ごとに増加傾向であった（図IV-5-1）。また、実習の指導者は年代が上がるほど増加し、50代が31.9%で最も多かった（図IV-5-2）。



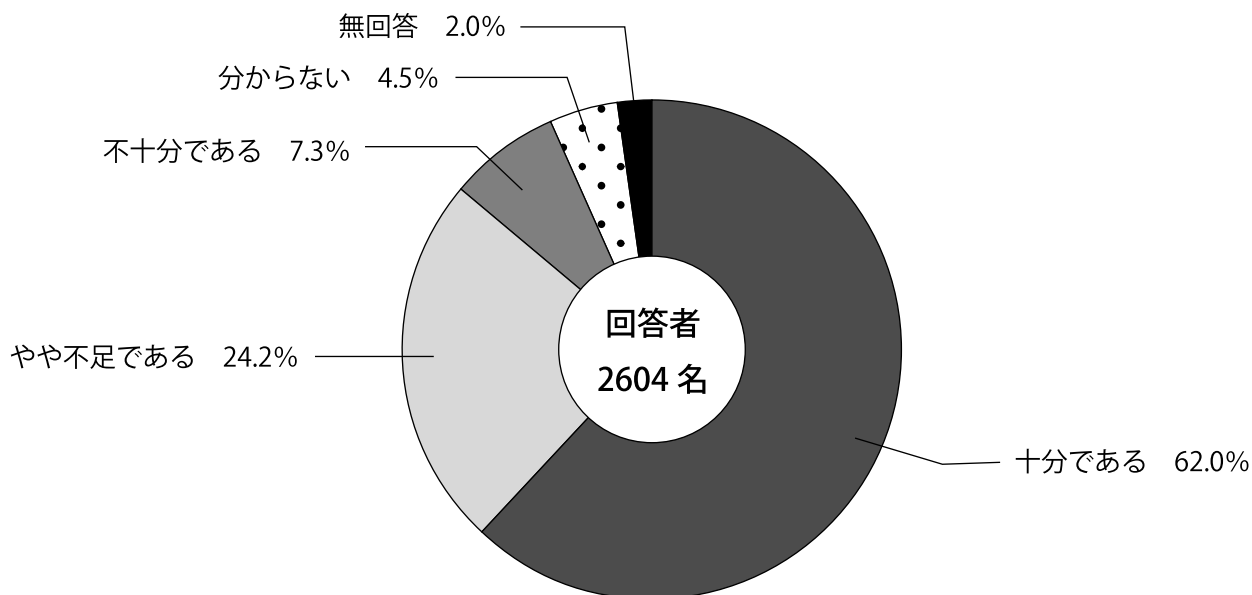
図IV-5-1 教育への関与（複数回答）



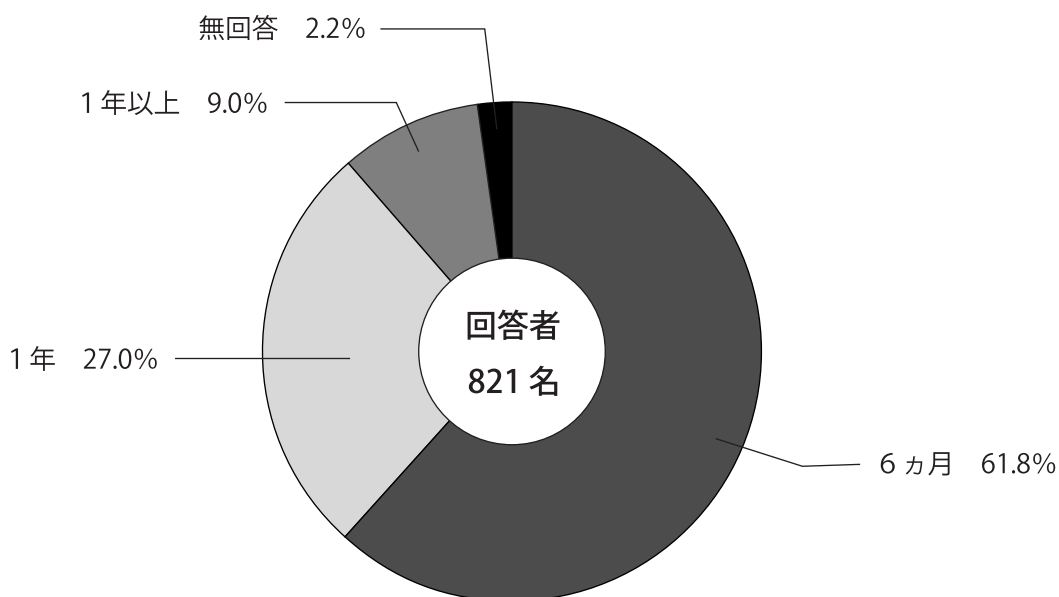
図IV-5-2 年代別の教育への関与（複数回答）

6. 臨床（臨地）実習の期間

自分が養成所で受けた臨床（臨地）実習の期間は、「十分である」が62.0%で最も多く、次いで「やや不十分である」24.2%、「不十分である」7.3%であった（図IV-6-1）。また、卒後に専門職として勤務するために必要な臨床（臨地）実習の期間は「6ヵ月」が61.8%で最も多く、次いで「1年」27.0%、「1年以上」9.0%であった（図IV-6-2）。



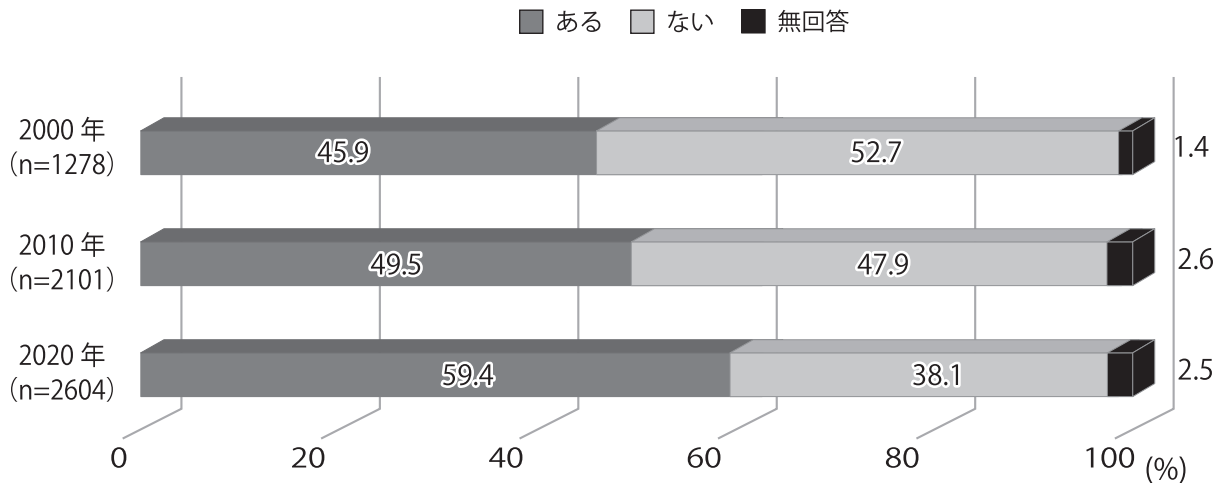
図IV-6-1 自分が学生時代に受けた臨床（臨地）実習の期間



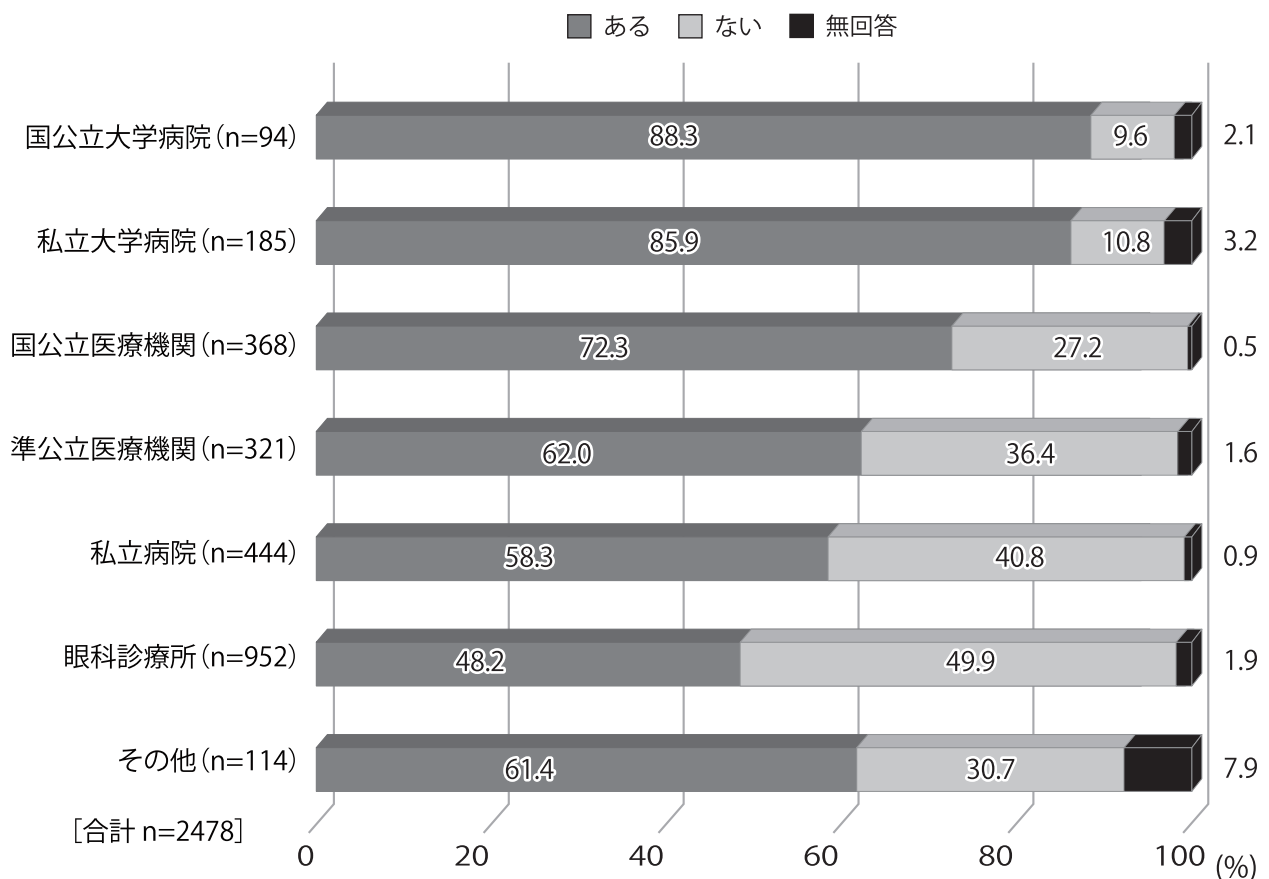
図IV-6-2 理想の臨床（臨地）実習期間

7. 臨床（臨地）実習の受け入れ経験

臨床（臨地）実習の受け入れ経験は、「ある」が59.4%で増加傾向を示した（図IV-7-1）。受け入れ施設は、「国公立大学病院」88.3%、「私立大学病院」85.9%、「国公立医療機関」72.3%の順であった（図IV-7-2）。



図IV-7-1 臨床（臨地）実習の受け入れ経験

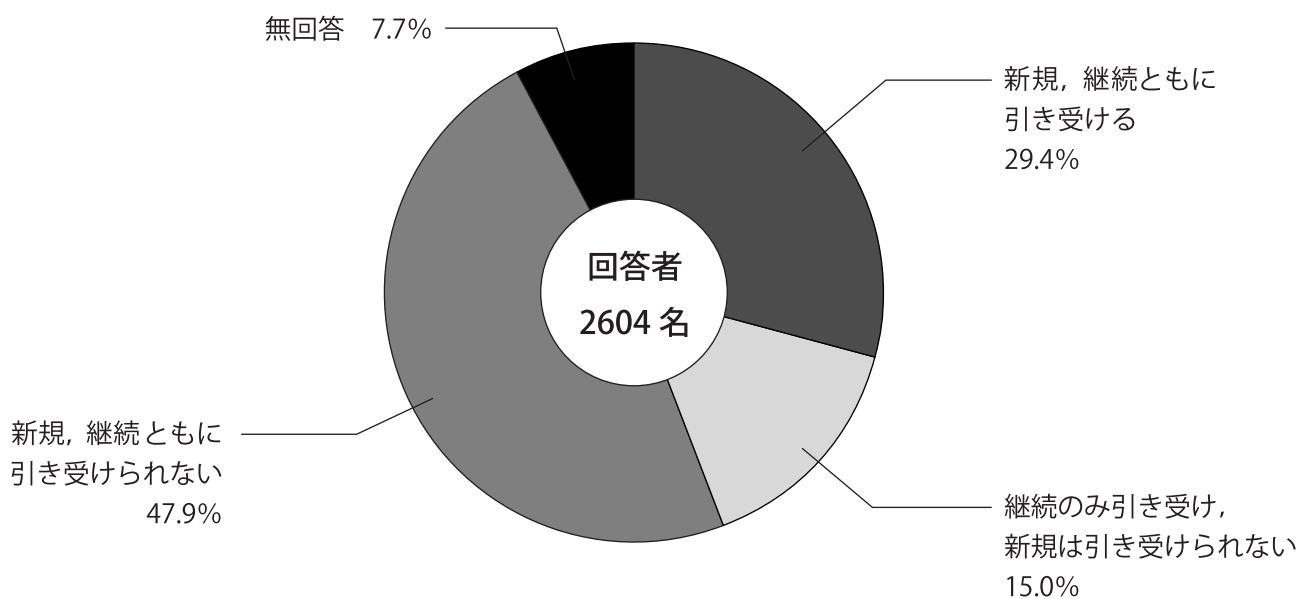


図IV-7-2 勤務施設別の臨床（臨地）実習の受け入れ経験

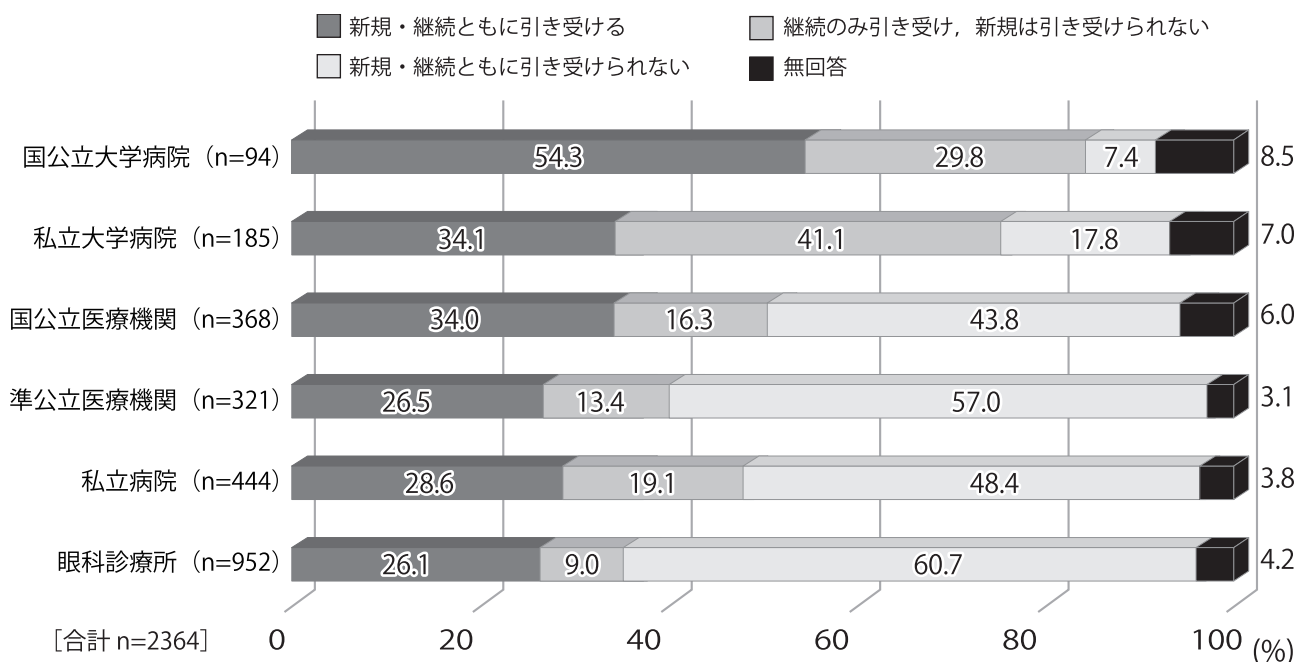
8. 今後の臨床（臨地）実習の受け入れ

今後の臨床（臨地）実習の受け入れについては、「新規・継続ともに引き受ける」29.4%、「継続のみ引き受け、新規は引き受けられない」15.0%であった。「新規・継続ともに引き受けられない」は47.9%と約半数を占め（図Ⅳ-8-1）、勤務施設別では、眼科診療所が60.7%、準公立医療機関が57.0%、など大学病院以外の施設で高い傾向を示した（図Ⅳ-8-2）。また、年代が上がるほど「引き受けられない」が高かった（図Ⅳ-8-3）。

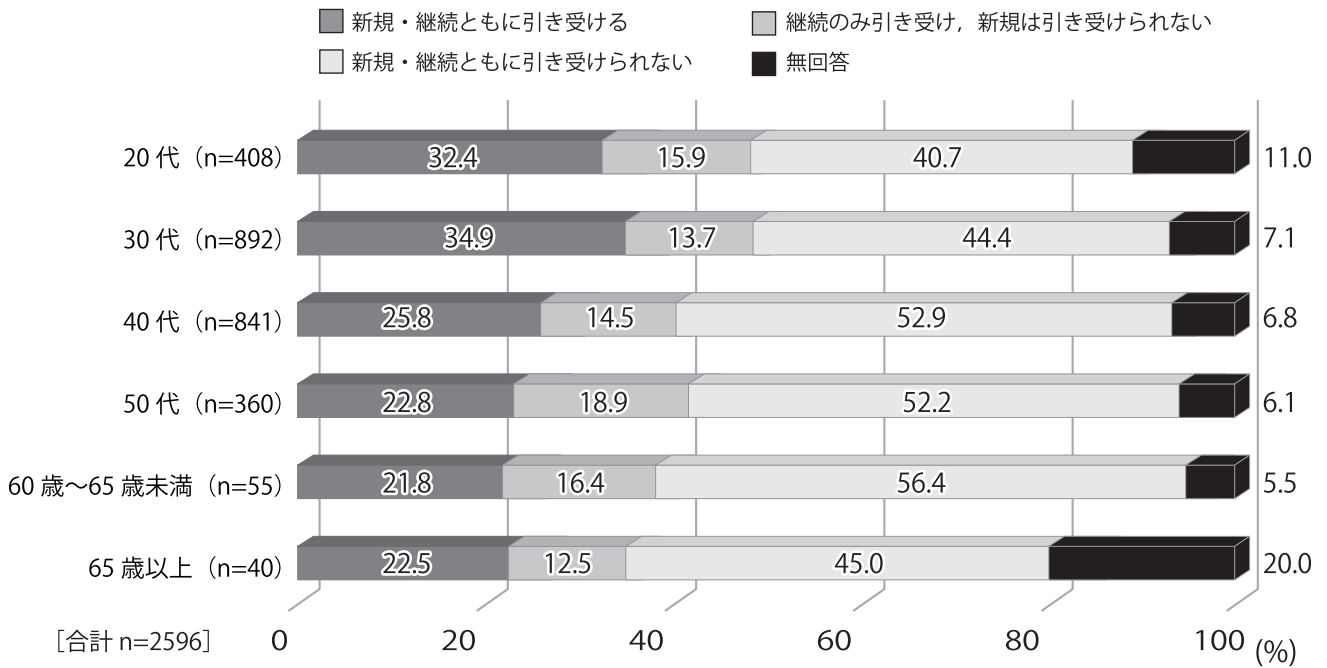
「引き受けられない」理由は、「忙しい」が44.6%、「現在の施設状態では不適當である」37.9%であった（図Ⅳ-8-4）。年代別にみると、若い年代では「忙しい」や「経験不足」が多く、年代が上がるほど「施設状態の不適當」や「診療内容の不適當」が多かった（図Ⅳ-8-5）。若い世代の指導者が「経験不足」の不安を解消できるように、実習施設等指導者養成講習会の充実を期待したい。



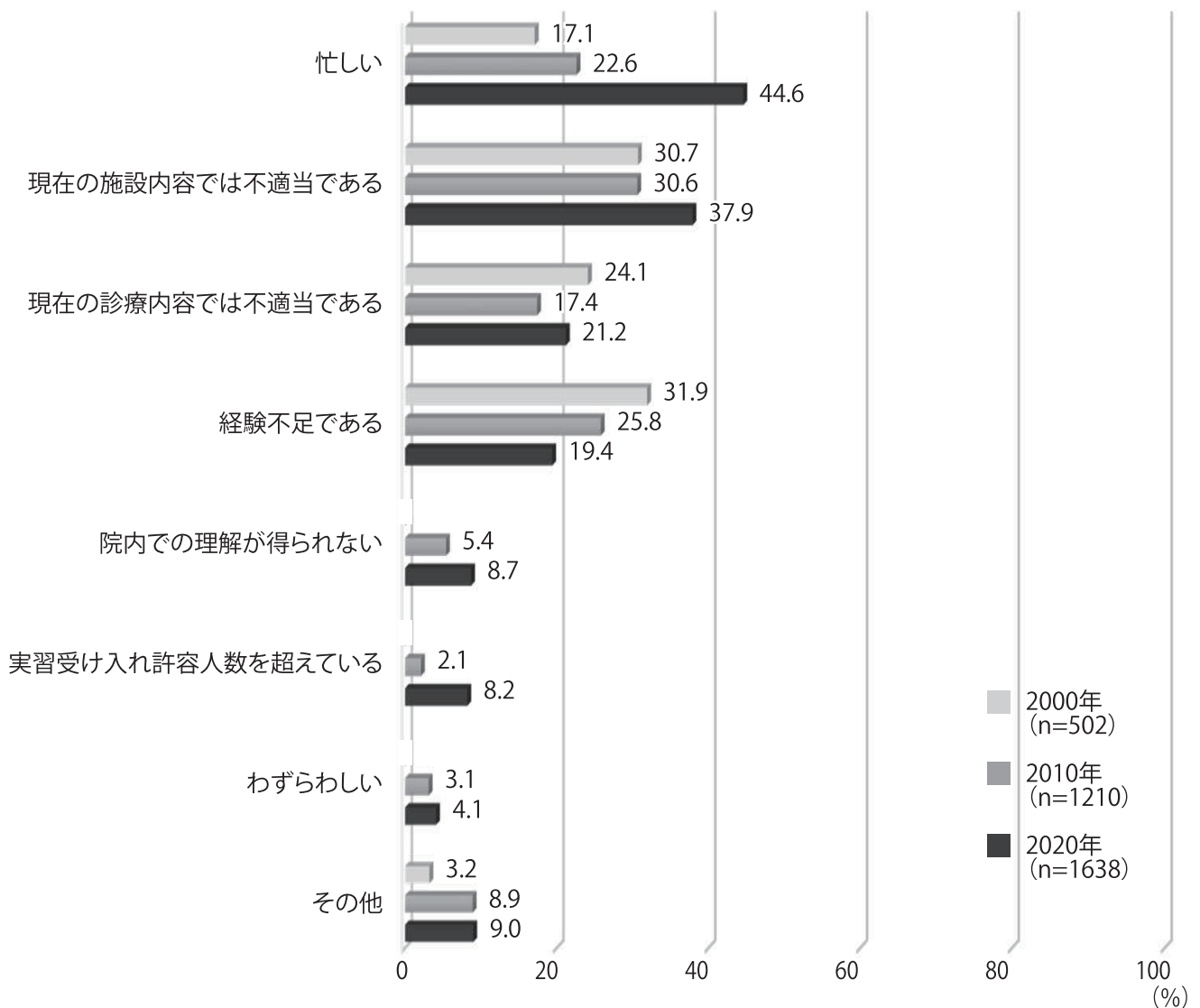
図Ⅳ-8-1 今後の臨床（臨地）実習の受け入れ



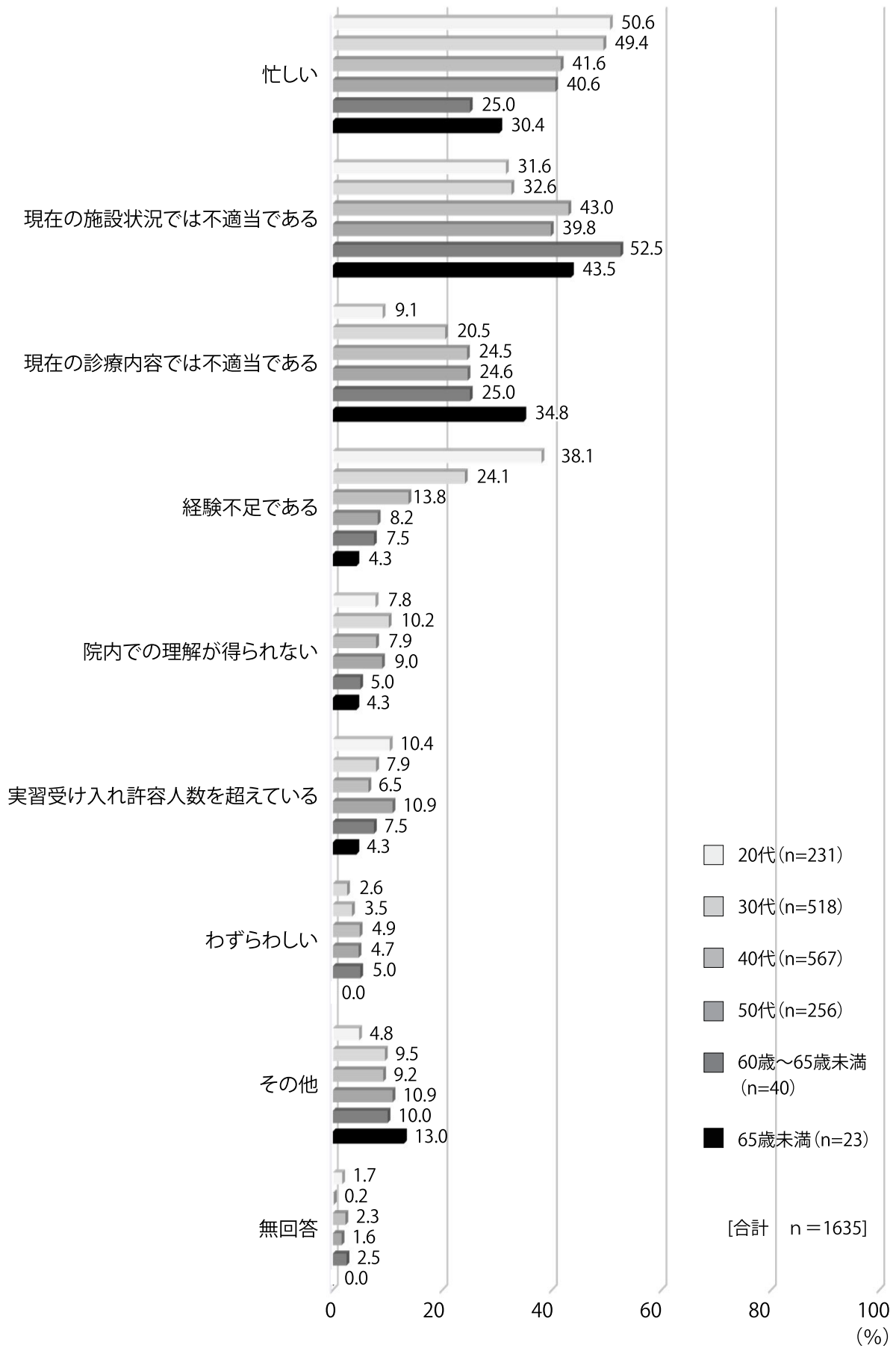
図Ⅳ-8-2 勤務施設別の今後の臨床（臨地）実習の受け入れ



図IV-8-3 年代別の今後の臨床（臨地）実習の受け入れ



図IV-8-4 受け入れ困難の理由（複数回答）

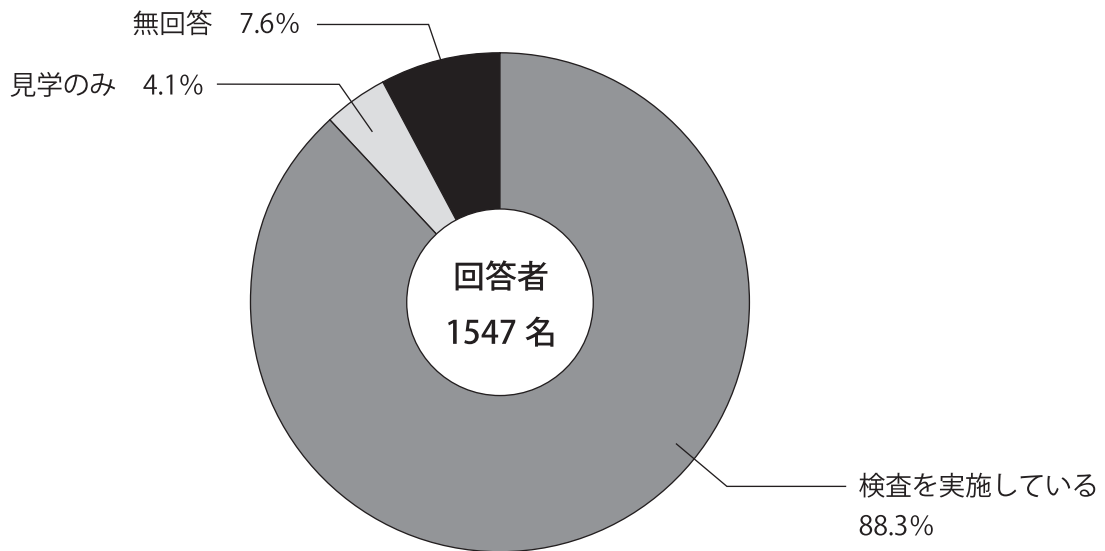


図IV-8-5 年代別の受け入れ困難の理由（複数回答）

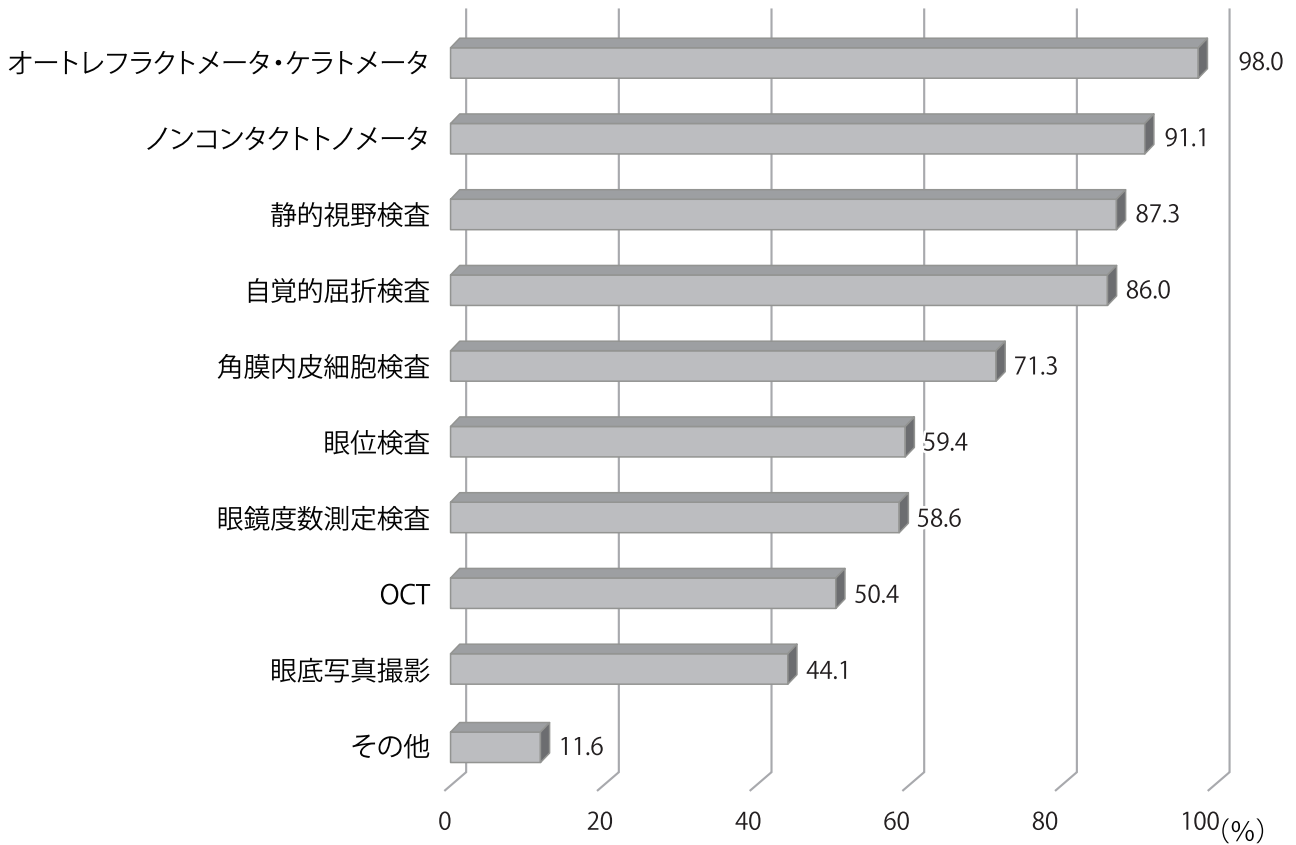
9. 臨床（臨地）実習の方法

臨床（臨地）実習の受け入れ施設での実習方法は、「検査を実施している」が88.3%で（図IV-9-1）、そのうち「オートレフラクトメータ・ケラトメータ」、「ノンコンタクトトノメータ」、「静的視野検査」、「自覚的屈折検査」は8割以上が実施させていた（図IV-9-2）。

実習方法が「見学のみ」は4.1%で、その理由については「医療安全の面から」が65.6%で最も多かった（図IV-9-3）。

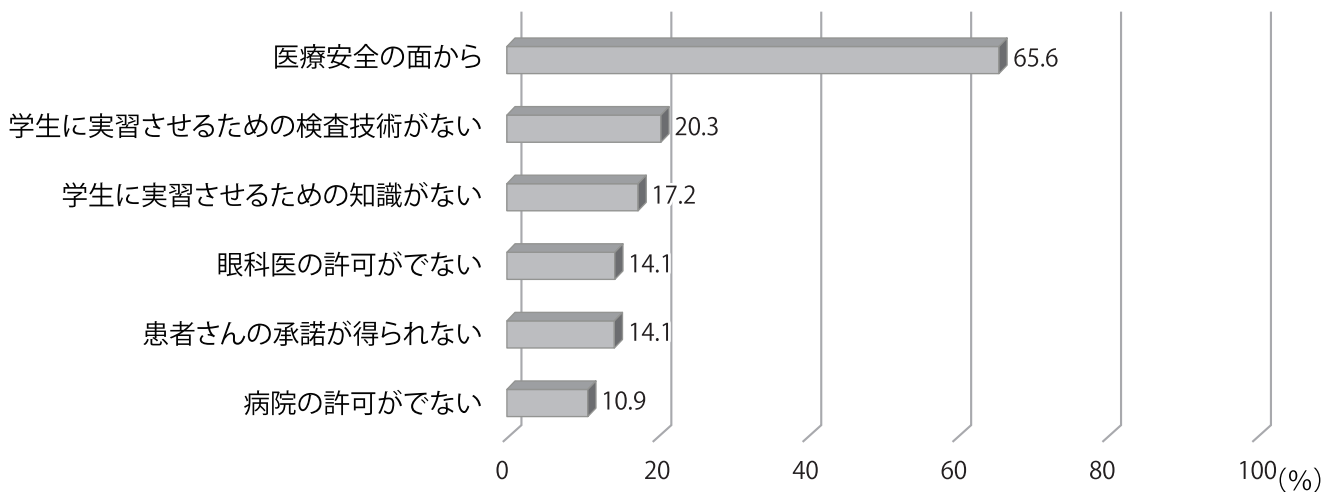


図IV-9-1 実習の方法



※「検査を実施している」と回答した1366名の全8985回答での比率を示す

図IV-9-2 学生に実施させている検査（複数回答）



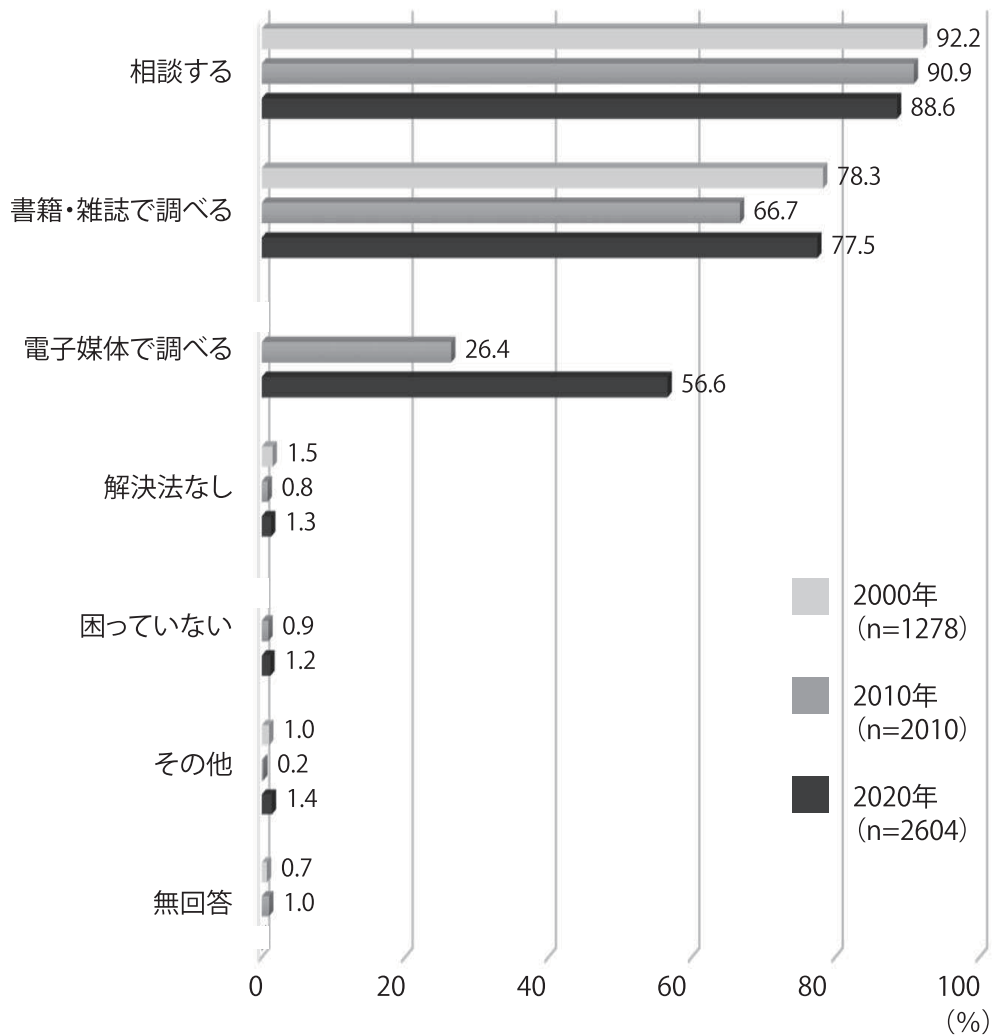
※「見学のみ」と回答した64名の全91回答での比率を示す

図IV-9-3 実習が見学のみ理由（複数回答）

V 卒後教育

1. 業務上の疑問点の解決方法

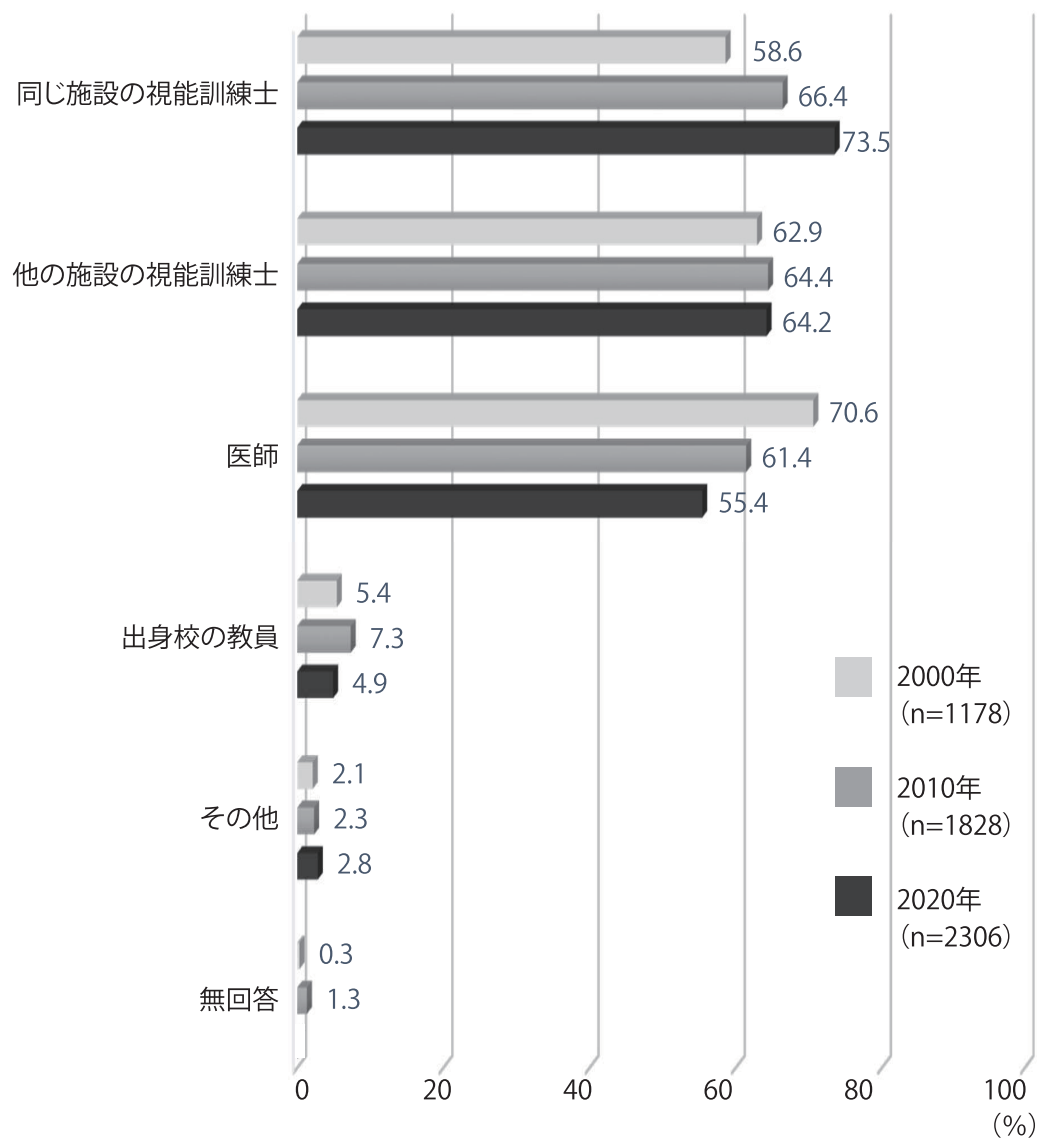
解決方法は「相談する」,「書籍・雑誌で調べる」が多かった。2010年に比べ「電子媒体で調べる」が大幅に増加した(図V-1)。



図V-1 業務上の問題点の解決方法(複数回答)

2. 相談先

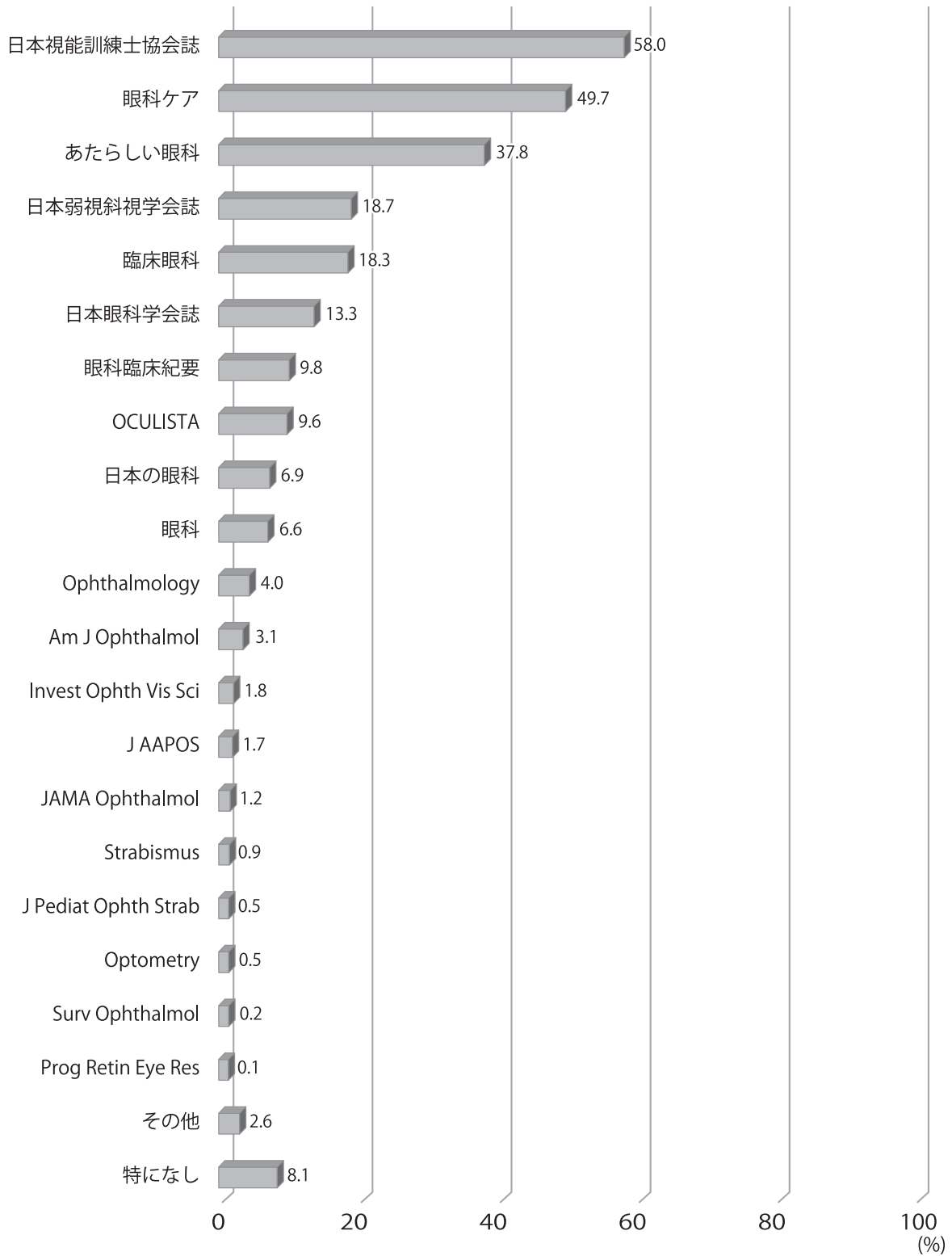
業務上の問題点の解決方法で最も多かった「相談する」相手については、「同じ施設の視能訓練士」が73.5%、「他の施設の視能訓練士」が64.2%、「医師」が55.4%であった（図V-2）。



図V-2 業務上の問題点の相談先（複数回答）

3. 利用する雑誌

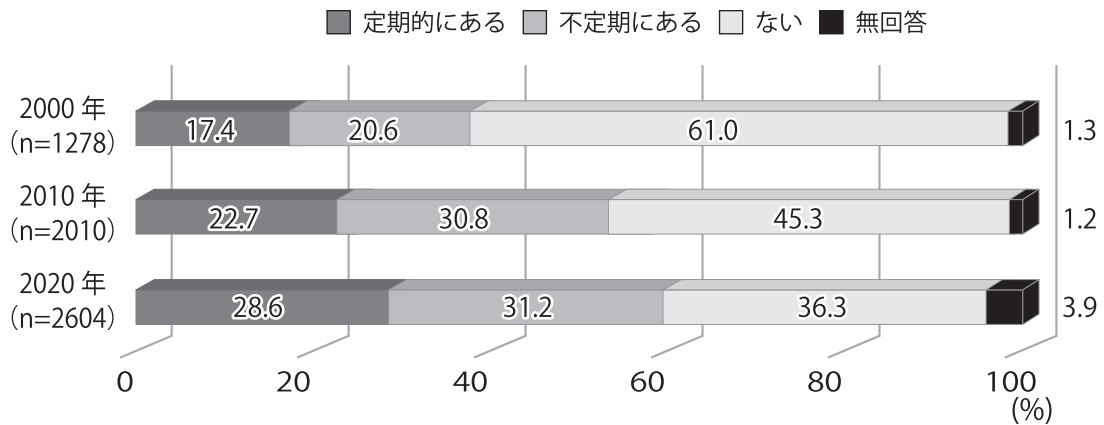
よく利用される雑誌は、「日本視能訓練士協会誌」、「眼科ケア」、「あたらしい眼科」の順であった。洋雑誌はあまり利用されていなかった（図V-3）。



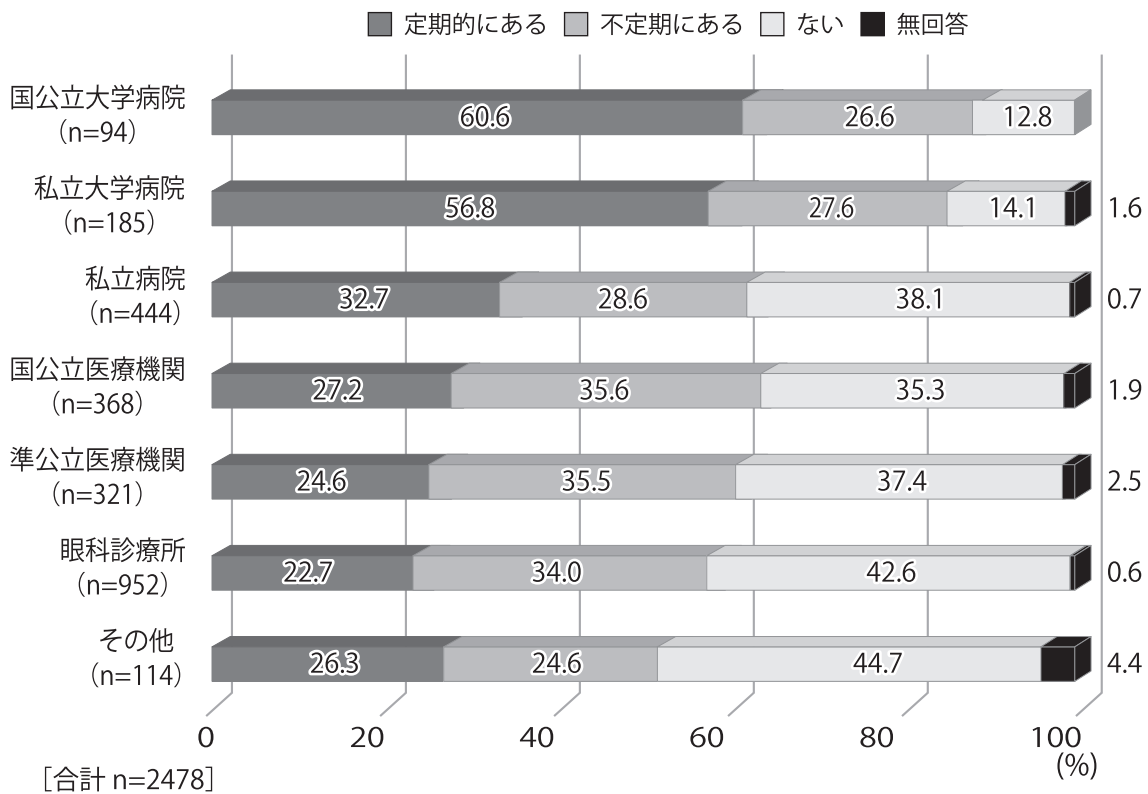
図V-3 利用する雑誌（複数回答）

4. 職場内の勉強会

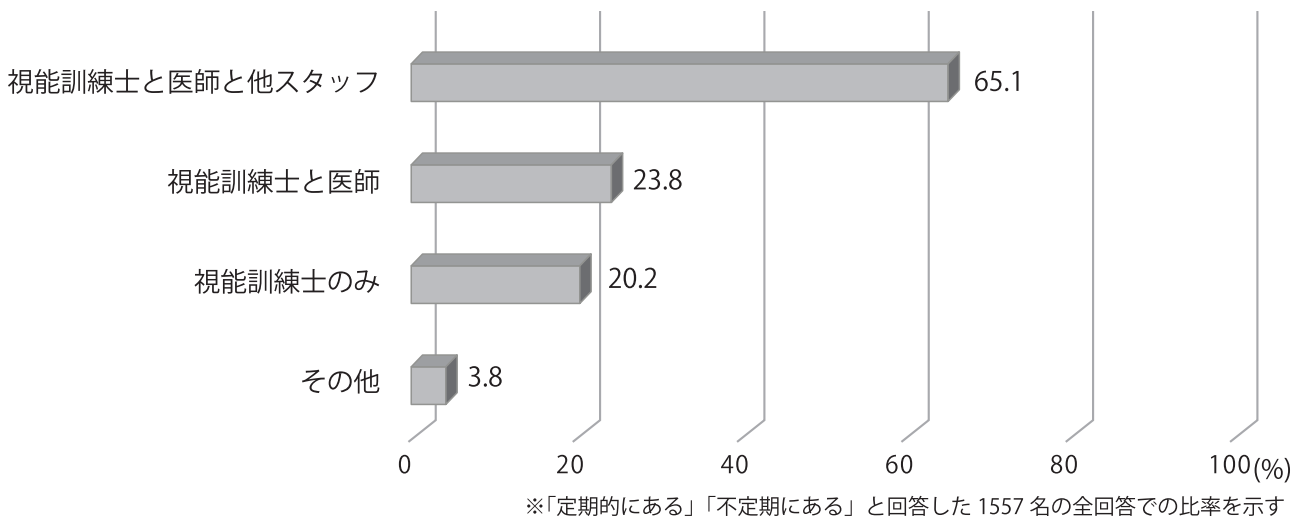
職場内で視能訓練士が参加できる勉強会が「定期的にある」が28.6%、「不定期にある」が31.2%であり、年々に増加していた（図V-4-1）。「国公立大学病院」60.6%、「私立大学病院」56.8%と、大学病院では半数以上が定期的に勉強会を開催していた（図V-4-2）。勉強会の参加者は、「視能訓練士と医師と他スタッフ」が65.1%と最も多かった（図V-4-3）。



図V-4-1 職場内の勉強会



図V-4-2 勤務施設別の職場内の勉強会



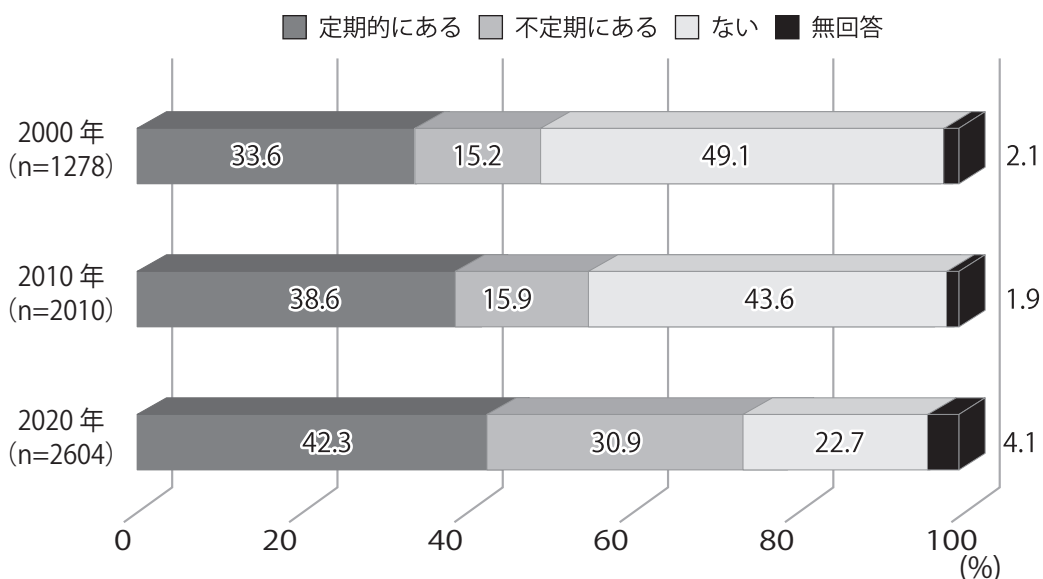
図V-4-3 職場内勉強会の参加者（複数回答）

5. 職場外の勉強会

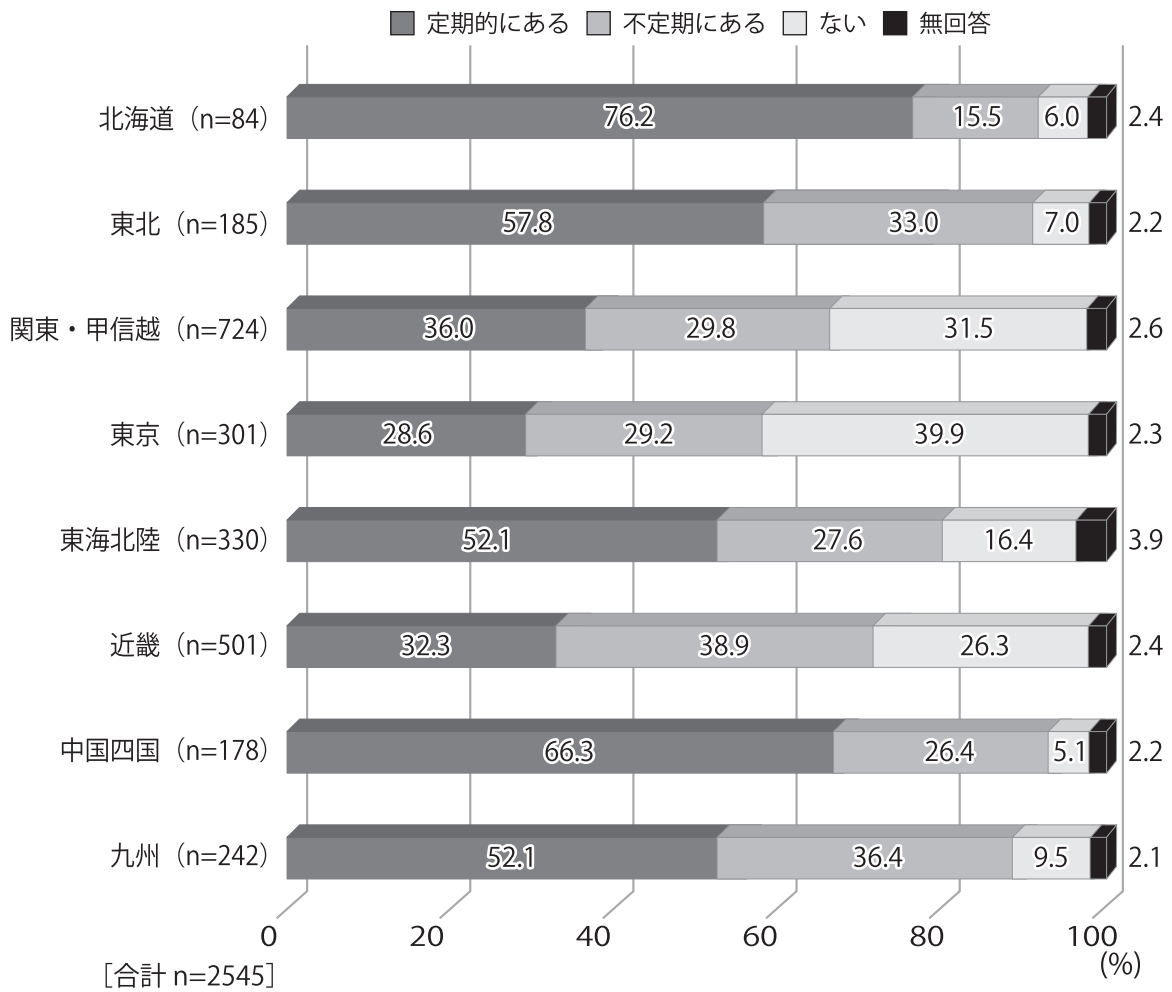
職場外で視能訓練士が参加できる勉強会が「定期的にある」が42.3%、「不定期にある」が30.9%、と両方で7割を超えた（図V-5-1）。地域別には、北海道が最も多かった（図V-5-2）。この10年での急激な増加は、2006年に開始した生涯教育制度に伴い、各地域で次々と認定事業としての勉強会が立ち上がったためと考えられる。

職場外の勉強会への参加状況は、「時々参加している」が59.7%と最も多く、「いつも参加している」は24.3%であった（図V-5-3）。通算勤務年数別の参加状況は、勤務年数が長いほど「いつも参加している」が多かった（図V-5-4）。

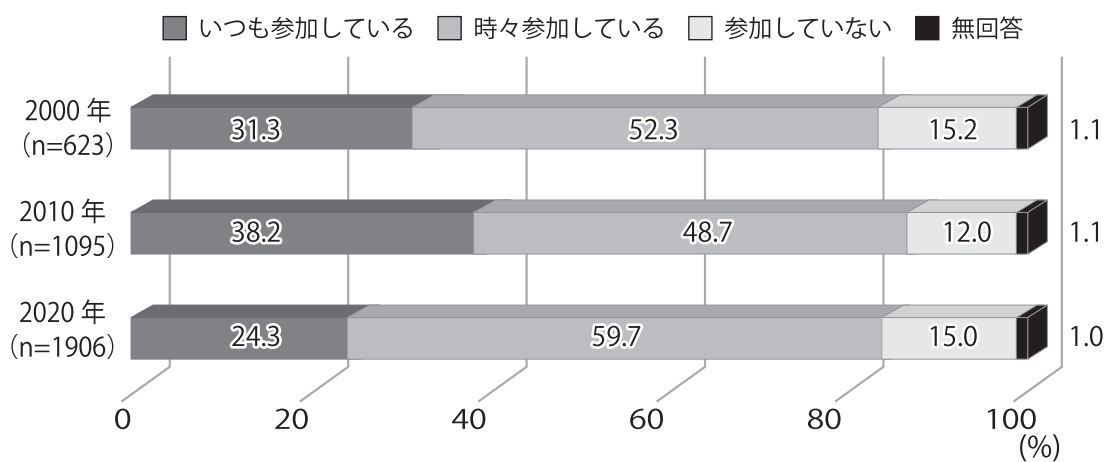
職場外に参加できる勉強会が「ない」と答えた人を対象に、勉強会があれば参加するかを尋ねたところ、「出来れば参加したい」が56.3%と最も多く、「参加する」の11.0%を合わせると67.3%が参加の意思があった（図V-5-5）。



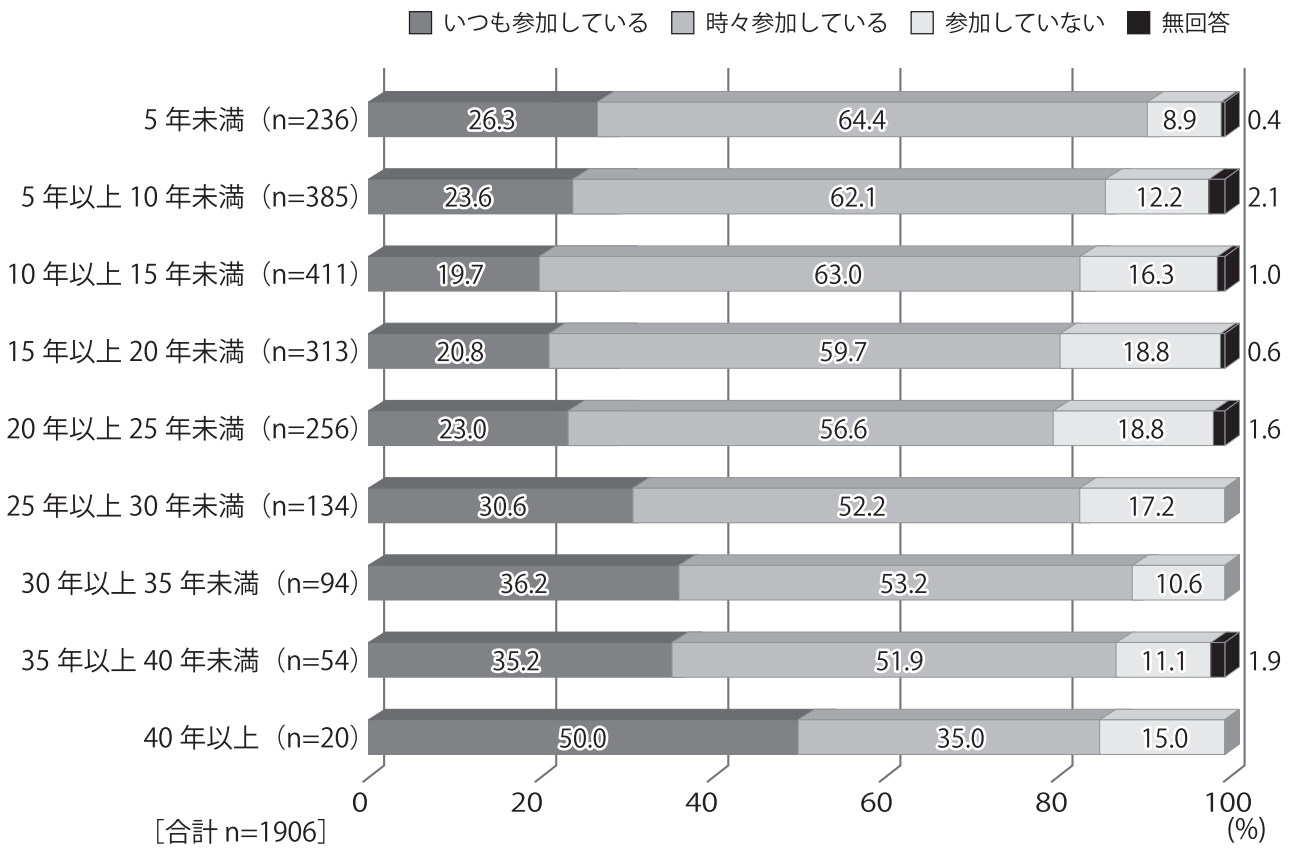
図V-5-1 職場外の勉強会



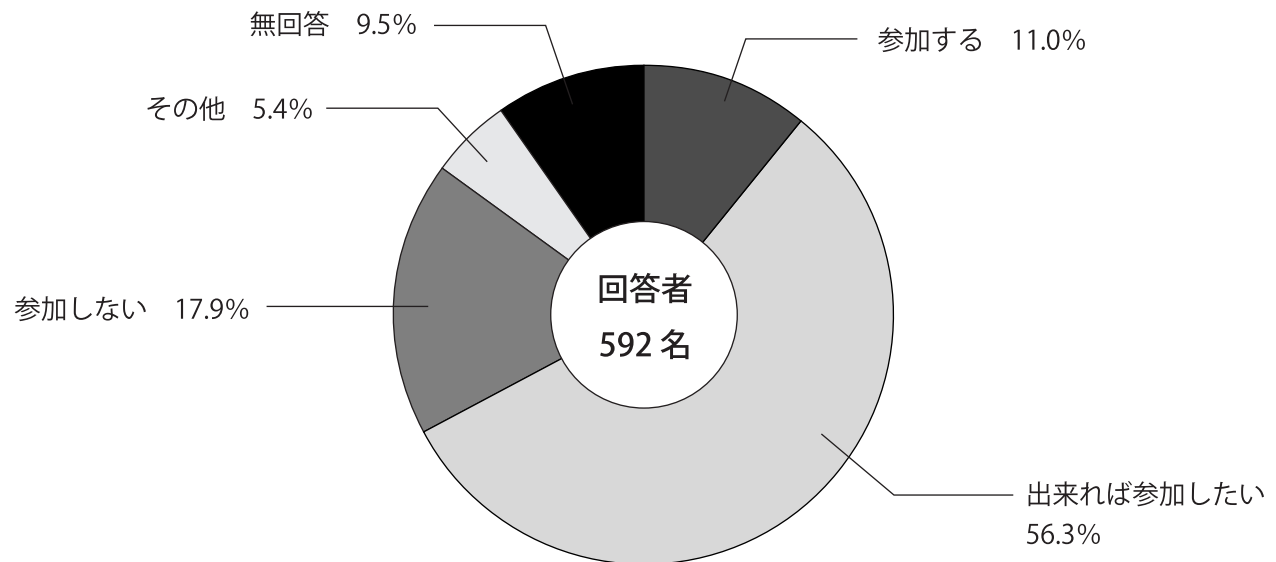
図V-5-2 地域別の職場外の勉強会



図V-5-3 職場外勉強会の参加状況



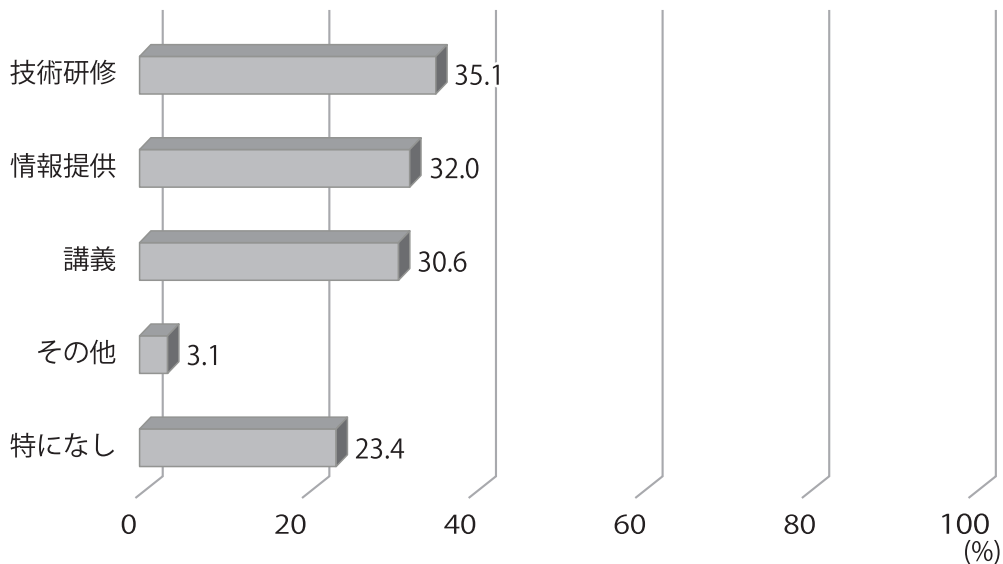
図V-5-4 通算勤務年数別の職場外勉強会の参加状況



図V-5-5 勉強会への参加の意思

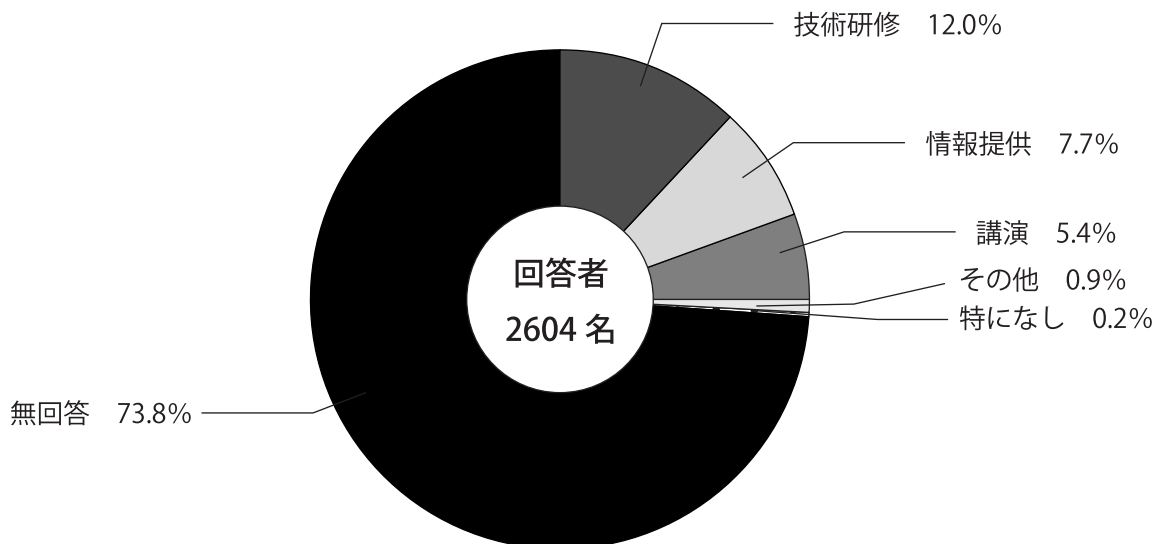
6. 卒後教育で希望する項目

協会に希望する卒後教育の項目は「技術研修」が35.1%と最も多く、その内容については、斜視検査やロービジョンケア、眼鏡処方検査へのリクエストが多かった。「講義」についても同様の内容を希望する声が多かった。「情報提供」については前述の内容に加え、治療法や薬剤、医療器機などの最新情報、法律の改正、などを望む声があがった。「その他」では、接遇やマナー、コミュニケーションについての要望があり、また、eラーニングといった手段についての意見もあげられた（図V-6-1、2）。



※回答した 2604 名の全 3236 回答での比率を示す

図V-6-1 協会に希望する卒後教育（複数回答）

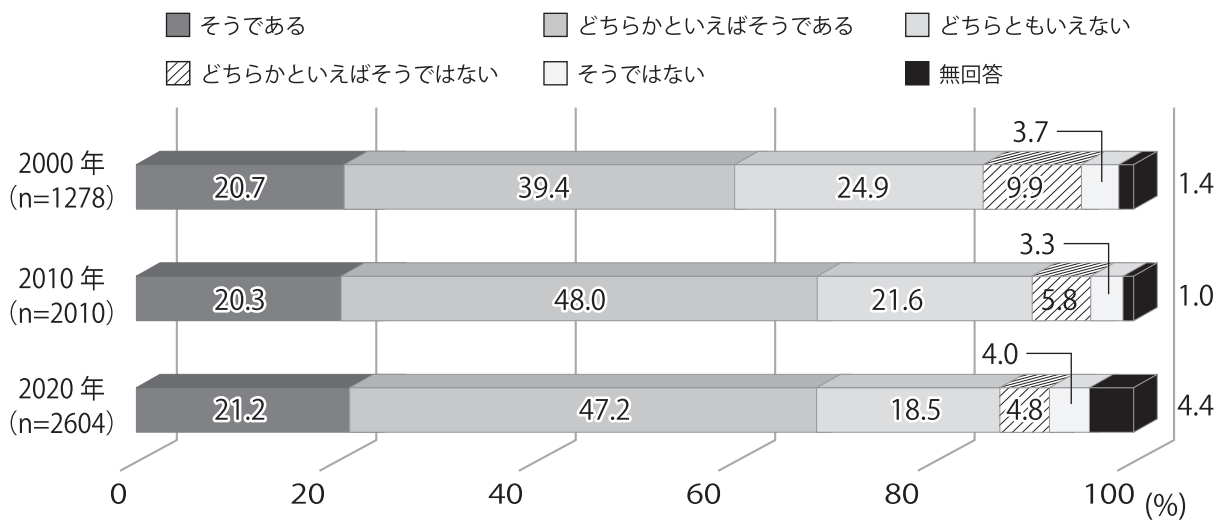


図V-6-2 協会に特に希望する卒後教育

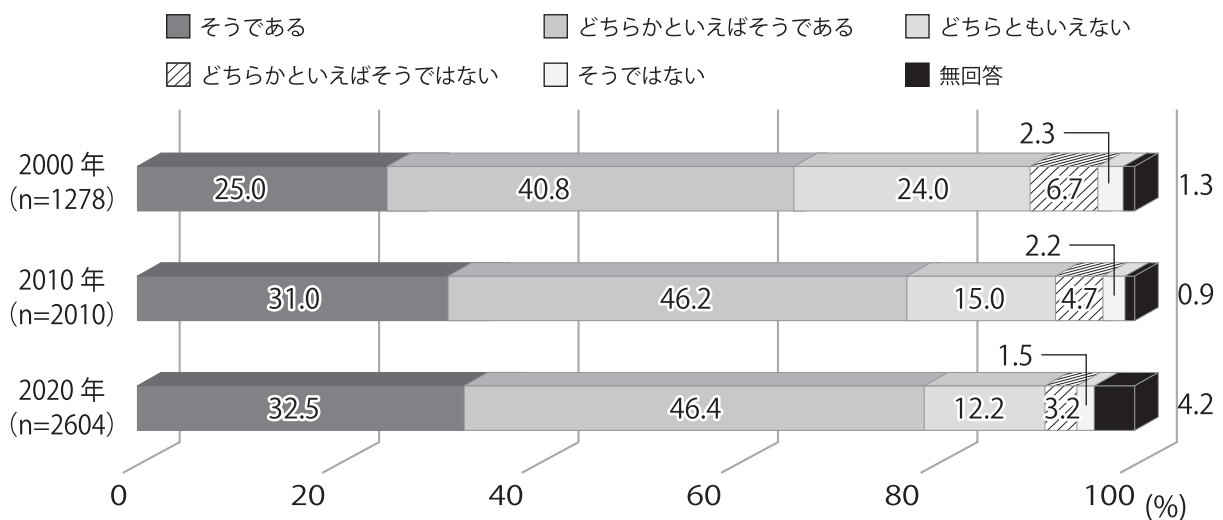
VI 将来展望

1. 職場現状の評価

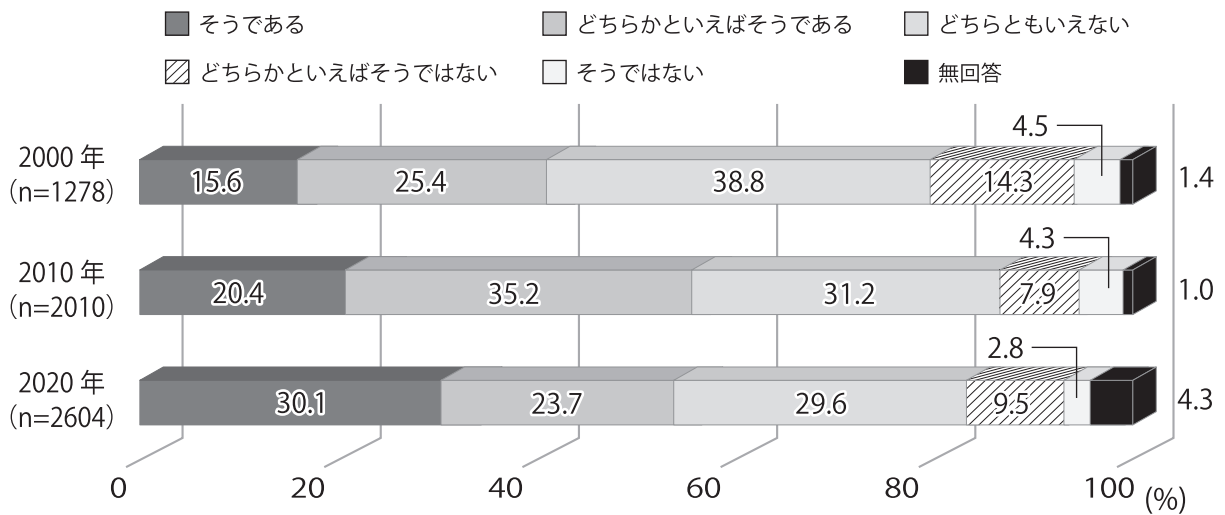
現在の職場に関する満足度について5段階で評価した。「そうである」「どちらかといえばそうである」の肯定的な意見は、「仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる」が68.4%、「自分の責任で行える仕事が多い」が78.9%、「自分たちの仕事は尊敬されている」が67.7%、「自分の仕事の範囲がはっきりしている」が63.8%で、肯定的な意見が60%を超える結果であった（図VI-1-1～5）。



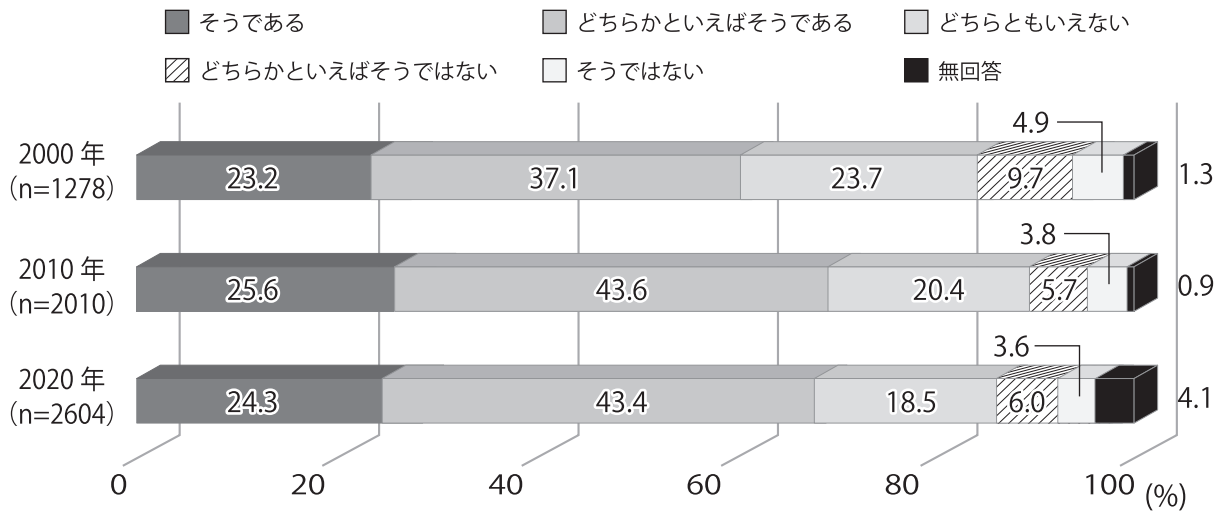
図VI-1-1 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる



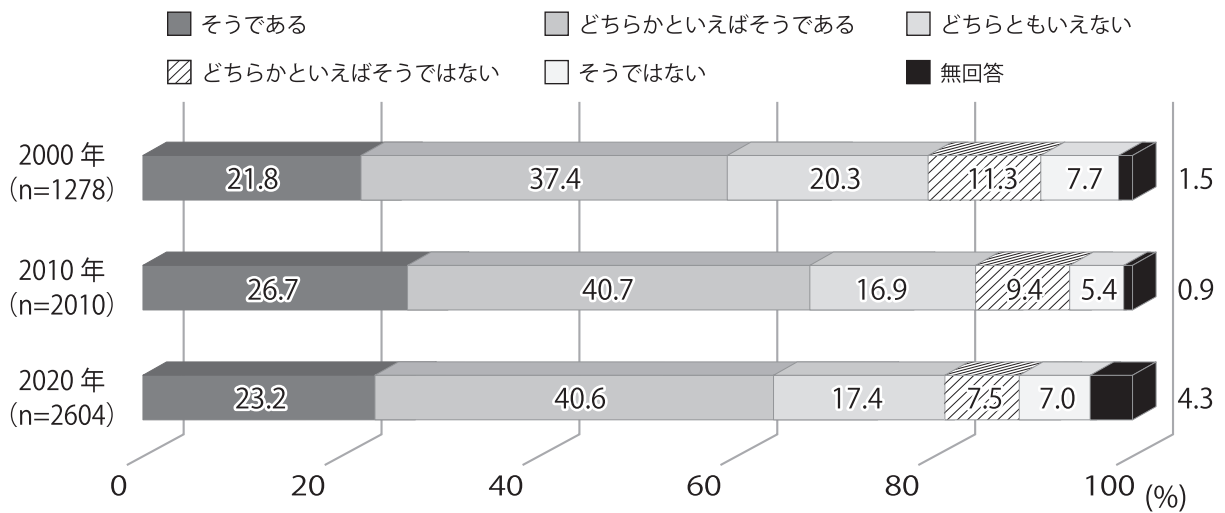
図VI-1-2 自分の責任で行える仕事が多い



図VI-1-3 単純でつまらない仕事は少ない



図VI-1-4 自分たちの仕事は尊敬されている



図VI-1-5 自分の仕事の範囲がはっきりしている

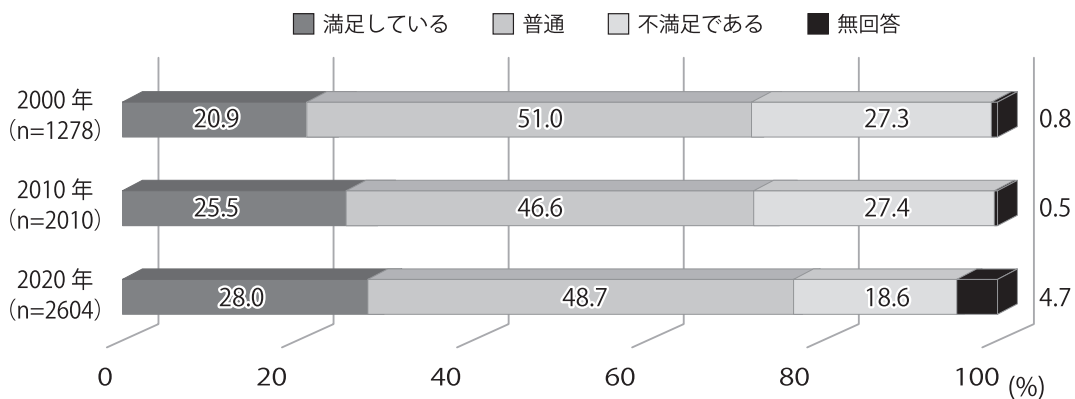
2. 仕事のやりがい

「仕事のやりがいを感じるのはどんな時か」の設問では、患者さんに喜んでもらった時、患者さんに「ありがとう」と感謝された時、という回答が半数以上を占めた。その他、自分の出した検査結果が診断に繋がった時、視能矯正やロービジョンケアの成果が出た時、という回答も2割を超えた。

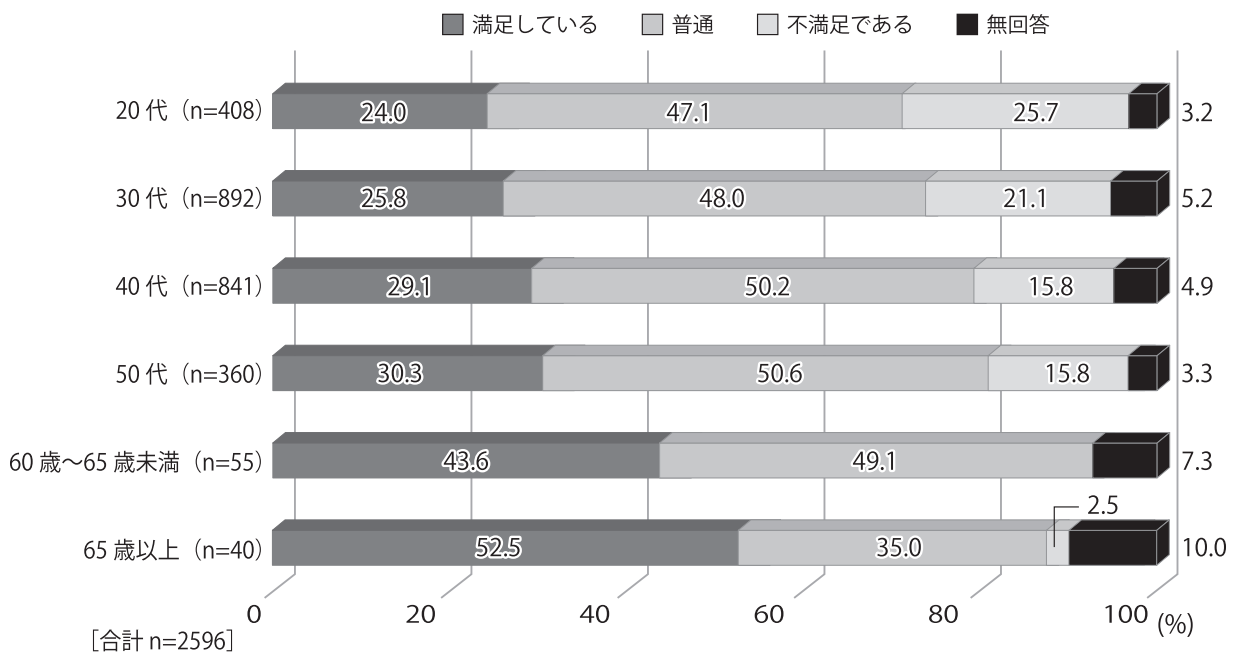
3. 現状に対する満足度

現在の職場での業務に「満足している」は28.0%で増加傾向を示している（図VI-3-1）。特に年代が上がるほど満足度が高かった（図VI-3-2）。

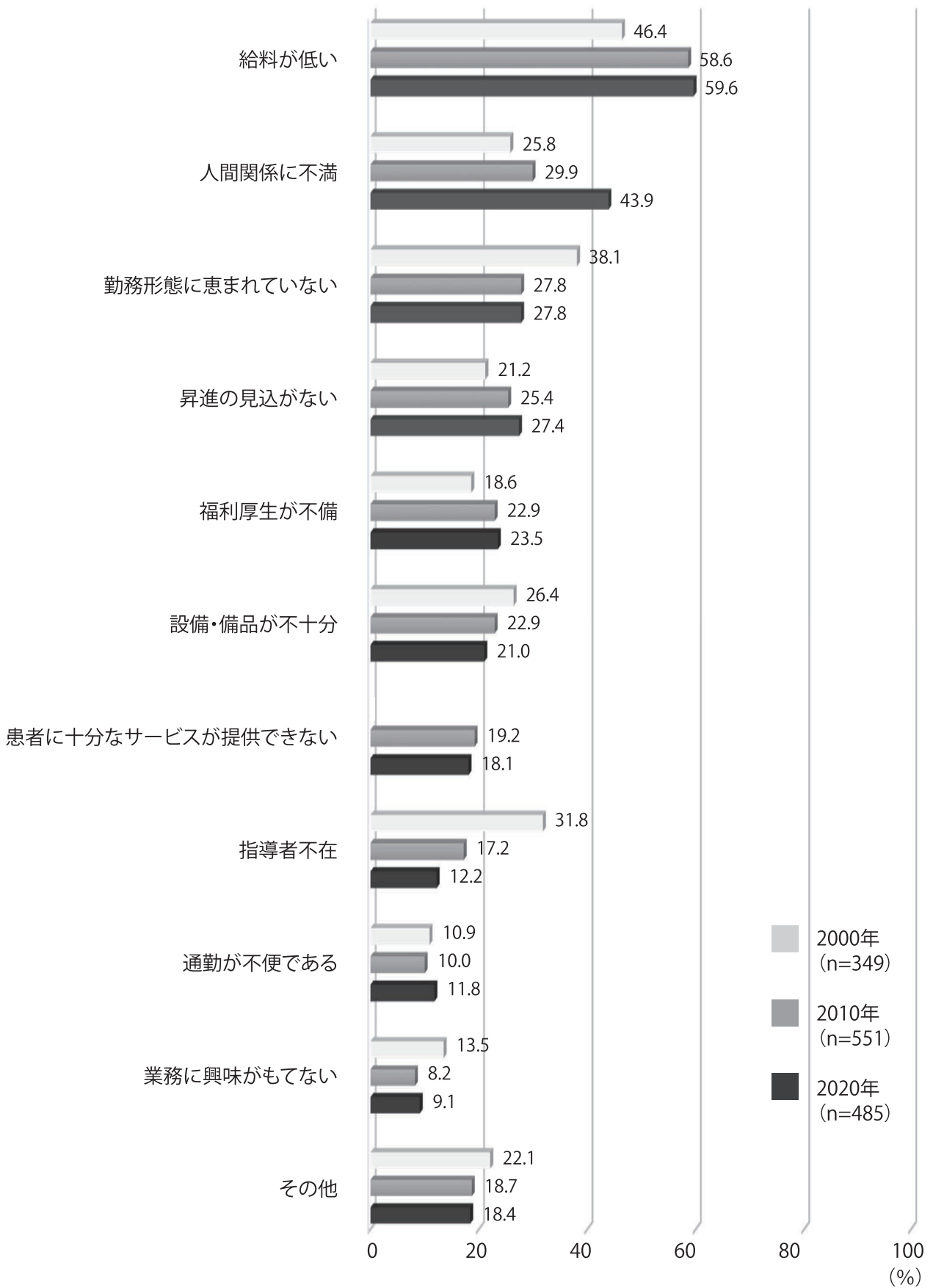
また、「不満足である」は18.6%で、その理由の上位は「給料が低い」59.6%、「人間関係に不満」43.9%、「勤務形態に恵まれていない」27.8%、「昇進の見込みがない」27.4%であった。特に「人間関係に不満」は2020年で大きく増加した。また、「その他」の回答は、仕事量が多すぎる、忙しすぎる、人員不足、医師や上司に対する不満、が多かった（図VI-3-3）。



図VI-3-1 現状に対する満足度



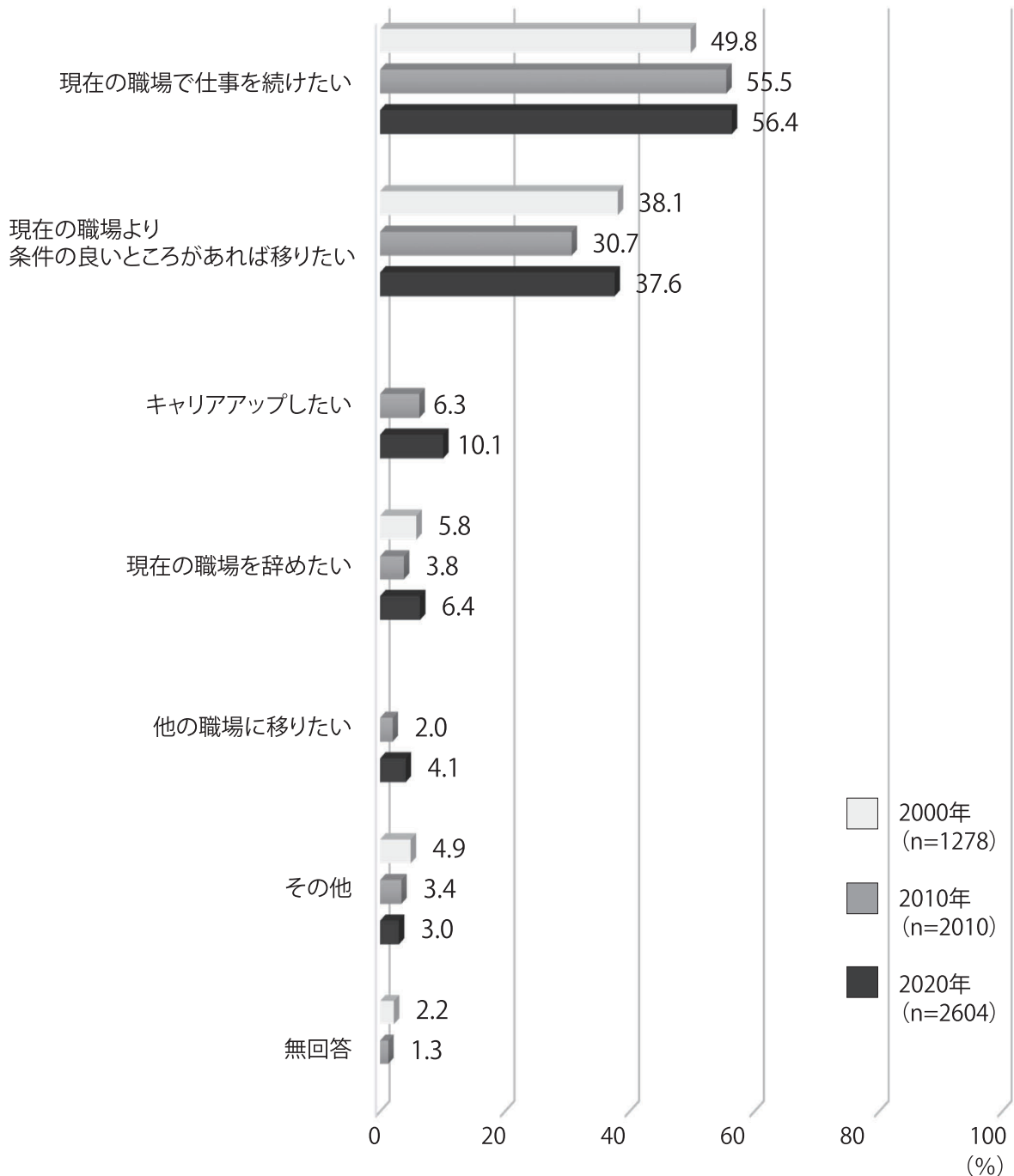
図VI-3-2 年代別の現状に対する満足度



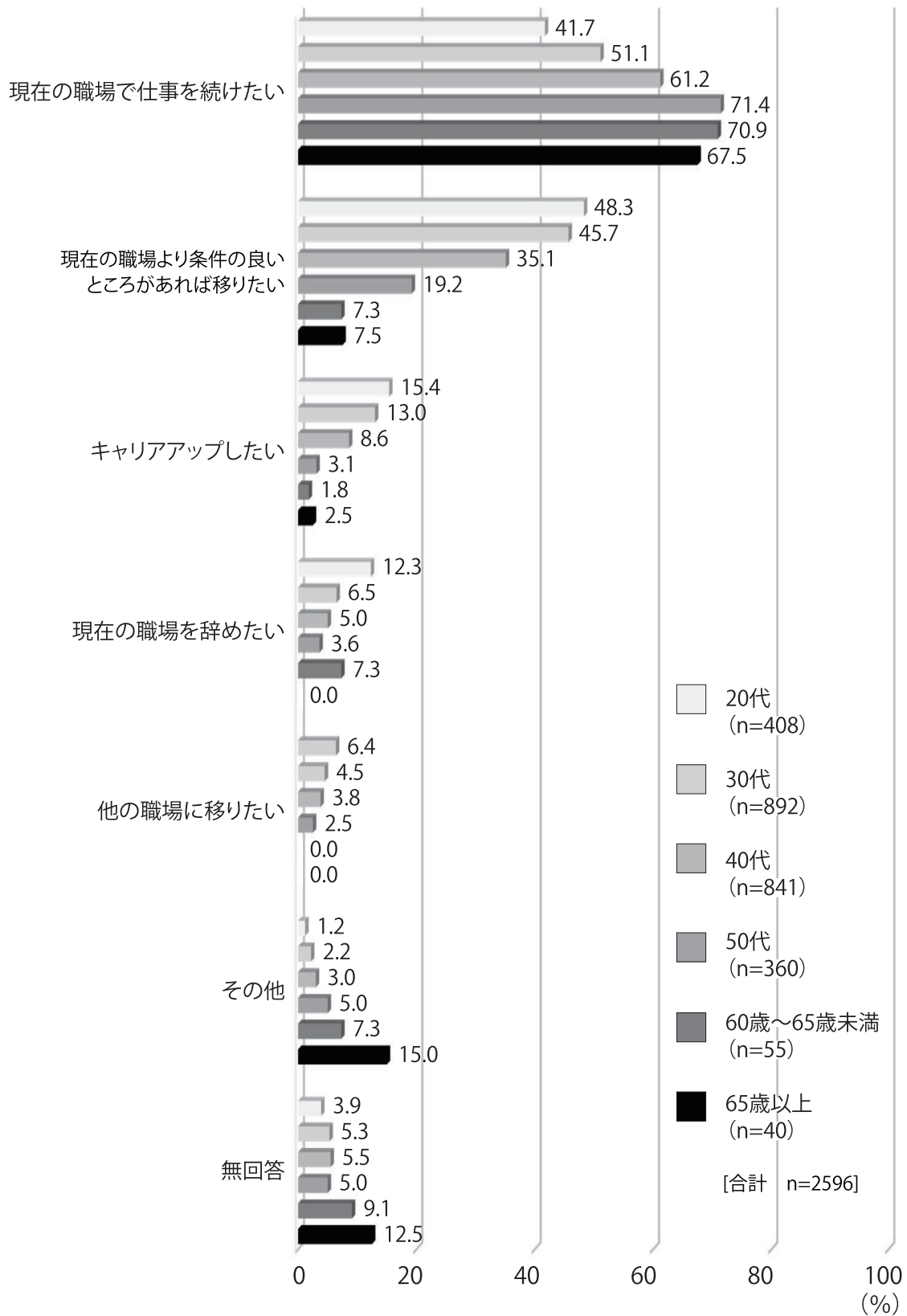
図VI-3-3 現状に対する「不満足」の理由（複数回答）

4. 現在の職場の継続

約半数が「現在の職場で仕事を続けたい」と回答した。「現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい」も37.6%と高い割合を示した（図VI-4-1）。年代が上がるほど「現在の職場で仕事を続けたい」の割合が高くなり、「条件のよいところがあれば移りたい」は若い年代に多かった（図VI-4-2）。また、「その他」では、妊娠や子どもの成長、親の介護、など今後のライフイベントのタイミングで検討したい、という意見が目立った。



図VI-4-1 現在の職場の継続（複数回答）



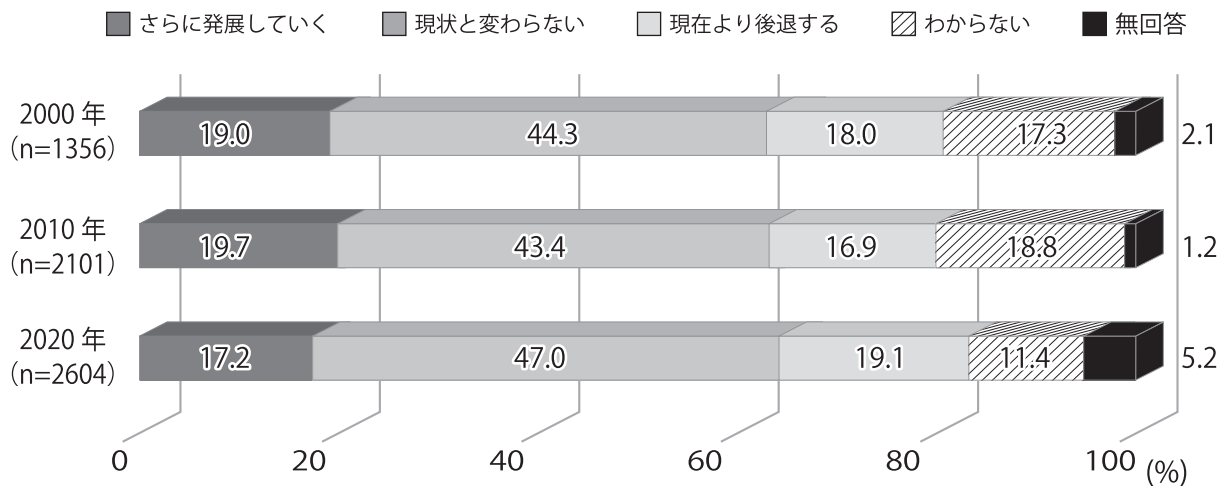
図VI-4-2 年代別の現在の職場の継続（複数回答）

5. 視能訓練士の将来性

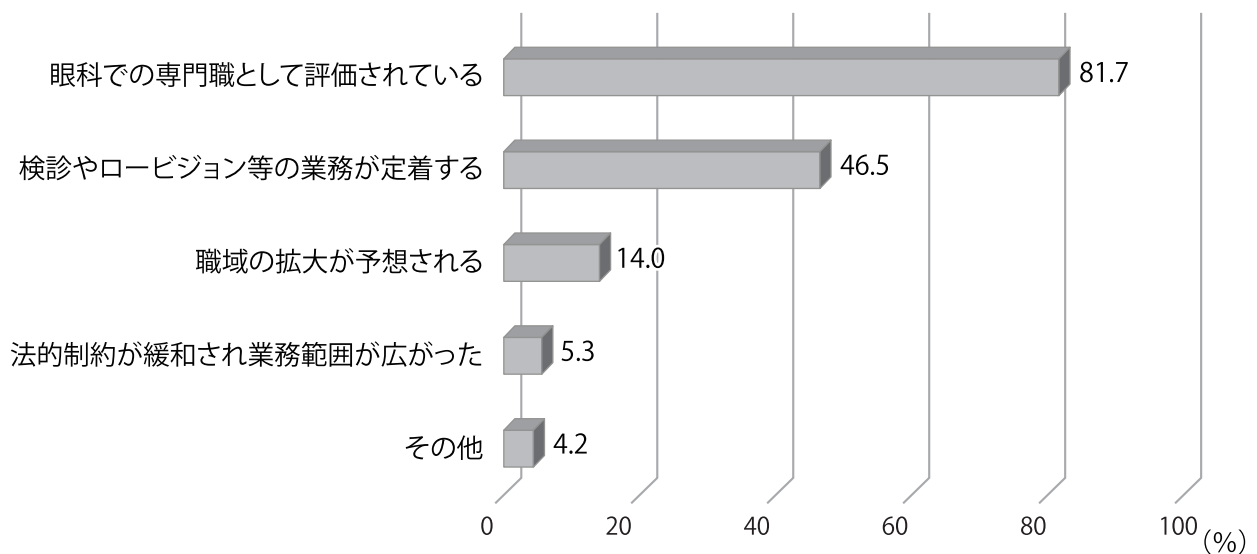
将来について2020年では「さらに発展していく」は17.2%、「現状と変わらない」47.0%、「現在より後退する」19.1%で、各調査年で大きな変化はみられなかった（図VI-5-1）。

「さらに発展していく」と回答した理由は、「眼科での専門職として評価されている」が81.7%、「検診やロービジョン等の業務が定着する」が46.5%、「職域の拡大が予想される」が14.0%であった。また、拡大が予想される職域については、再生医療からの訓練や視機能評価、発達障害児やスポーツ競技者へのビジョントレーニング、教育や福祉の領域、という回答が複数みられた（図VI-5-2）。

「現在より後退する」と回答した理由は、「知名度が低い」が52.1%、「看護師など他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない」が49.5%であった。2020年より選択肢に「視能訓練士のレベルの低下（学力の低下）」「免許取得者が少なすぎる」を加えたが、その結果はそれぞれ39.4%、4.4%であった。また、「その他」の回答の半数以上が、検査器機や人工知能（AI）の進化をあげた（図VI-5-3）。

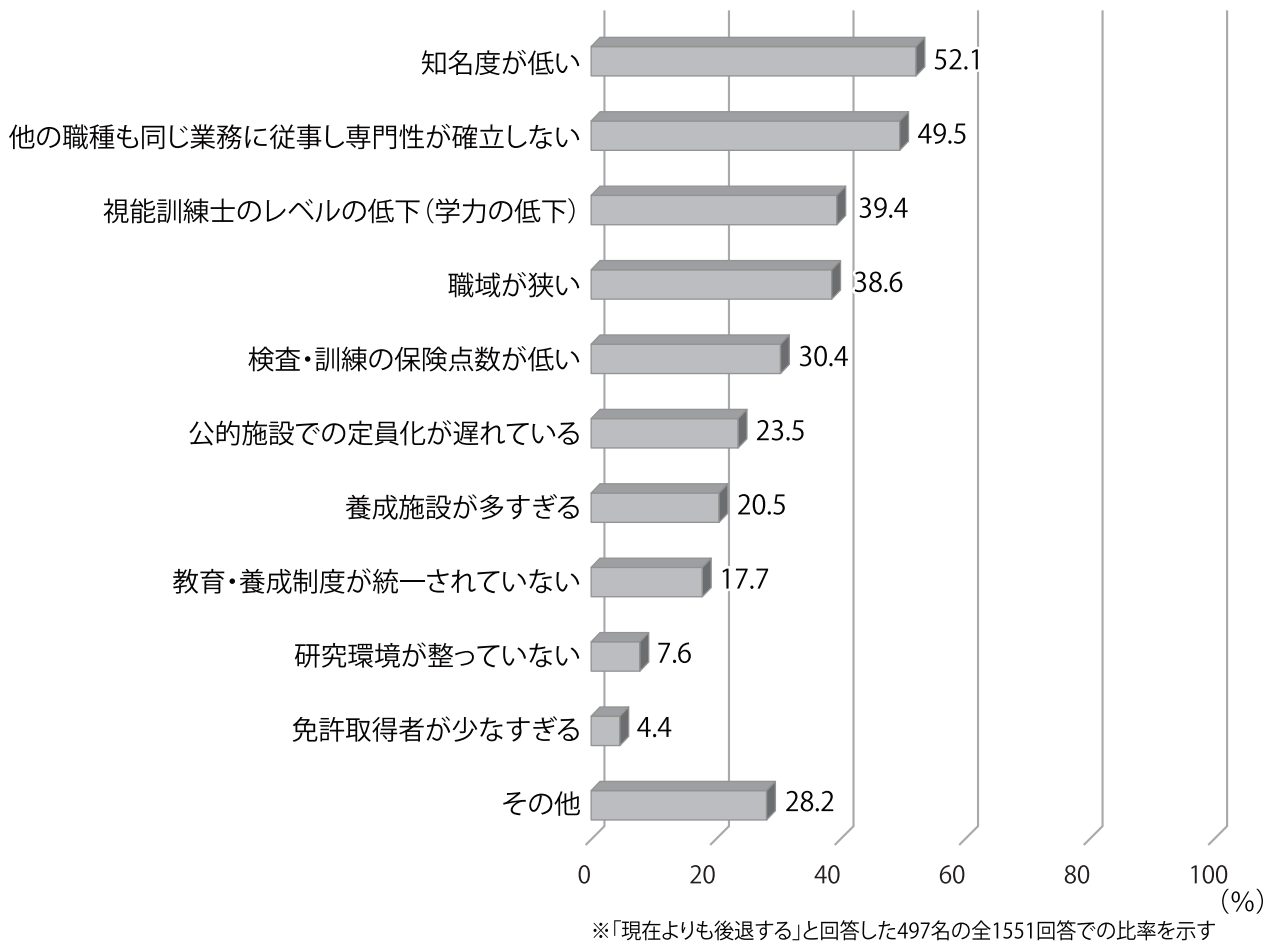


図VI-5-1 視能訓練士の将来性



※「さらに発展していく」と回答した449名の全682回答での比率を示す

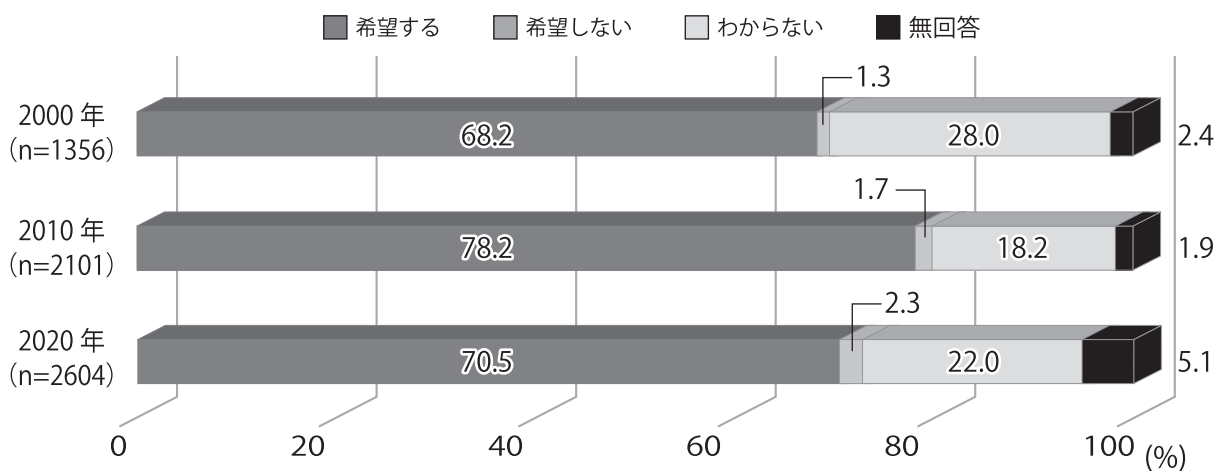
図VI-5-2 視能訓練士が「さらに発展していく」理由（複数回答）



図VI-5-3 視能訓練士が「現在よりも後退する」理由（複数回答）

6. 視能訓練士としての継続

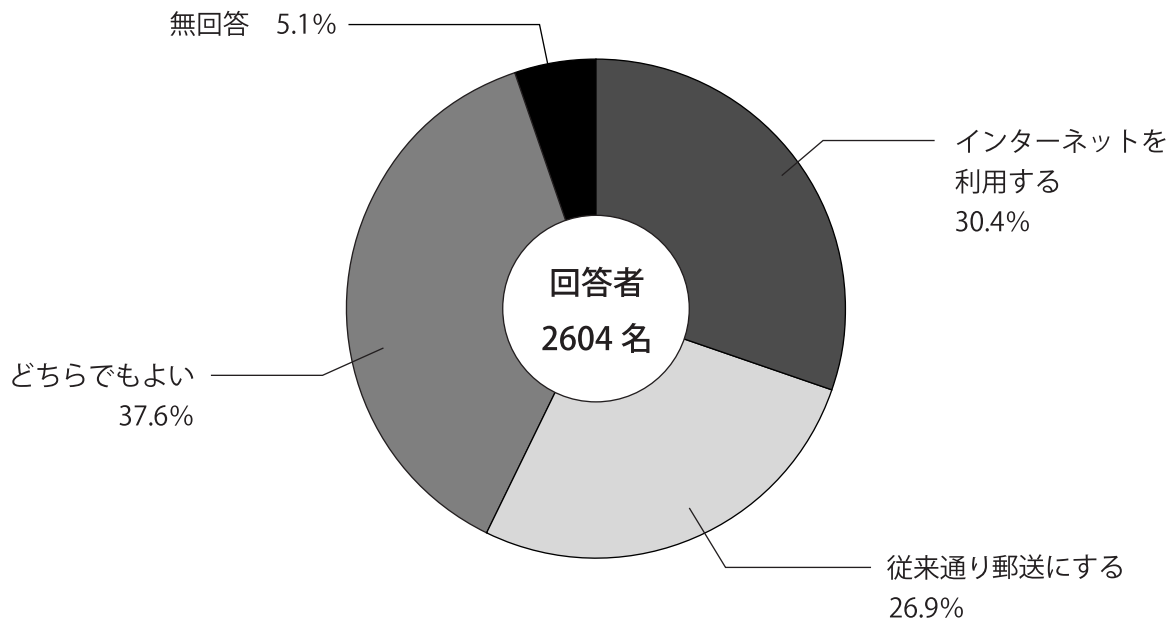
将来も視能訓練士として働くことを「希望する」が70.5%、「希望しない」が2.3%であった（図VI-6）。「希望しない」や「わからない」理由には、体力や年齢、家庭との両立、収入面などに対する不安が目立った。



図VI-6 視能訓練士としての継続

VII その他

アンケート調査の方法は、「インターネットを利用する」が30.4%と、今回 初めて「郵送にする」を上回った（図VII）。



図VII アンケート調査の方法

会員の皆さまの声

◇ 関係各所への働きかけの要望

- ・ 業務独占の獲得
- ・ 施設基準の人員要因に視能訓練士を入れる（定員化）
- ・ 視能訓練士の検査に対する診療報酬の点数加算
- ・ 手術の直接介助の合法化
- ・ 3歳児健康診査への視能訓練士の参加促進
- ・ 無資格の検査員に対する積極的な対応
- ・ 日本糖尿病療養指導士認定試験の受験資格の獲得
- ・ 他職種、他分野（教育、福祉など）との連携
- ・ 地域包括ケアシステムへの取り組み
- ・ 職域の拡大
- ・ 知名度や認知度の向上
- ・ 待遇、給与水準の改善、地位向上

◇ 教育に関する意見・要望

〈卒前教育〉

- ・ 実習生、卒業生の質の低下が気になる、一定のレベルを維持してほしい
- ・ 養成校によって、指導教員によって、学生や新人の知識が異なりすぎる
- ・ 他職種のように、臨地実習の指導者には視能訓練士実習施設指導者等養成講習会の受講を義務化しては

〈卒後教育〉

- ・ eラーニングの活用
- ・ ハラスメント講習会
- ・ ブランクがある人への再就職・復職のサポート（講習会など）
- ・ 研究機関だけでなくクリニック勤務でも活かせる情報提供を

〈生涯教育制度〉

- ・ システムが分かりにくい
- ・ 認定視能訓練士のメリットが見当たらない
- ・ 受講料、更新登録料が高すぎる
- ・ 地方や子育て世代でも受講しやすい環境整備（日程、場所、オンライン、分割受講など）
- ・ 更新を忘れた場合の救済措置
- ・ 子育て中の免除期間の延長

◇ 協会運営に関する意見・要望

- ・ 協会員としてのメリットが乏しい
- ・ 日本視能訓練士協会誌を会員以外が閲覧できるのはいかがなものか
- ・ 年会費が内容に見合っておらず高すぎる
- ・ 年会費や学会の参加費，講習会の受講料などを減額してほしい
- ・ 支払いの選択肢を増やしてほしい（クレジットカードなどのオンライン決済やコンビニでの支払いなど）
- ・ 産休，育休，その他 休職中の休会制度，もしくは年会費の減額制度を設けてほしい
- ・ 郵送書類の削減，ペーパーレスを希望
- ・ ホームページの求人情報の情報量が少ない，もっと詳細を載せてほしい
- ・ 視能訓練士に関わる悩み，質問などの相談窓口がほしい
- ・ 協会への入会率の低下に対する更なる対策を
- ・ 協会としての将来の展望が見えない，明確でない

資料1. アンケート調査票

I. 一般的事項についてお伺いします

Q1. 性別は

1. 男性 2. 女性

Q2. 年齢は

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5. 60歳～65歳未満 6. 65歳以上

Q3. 視能訓練士の免許を取得したのは、何年ですか

- 昭和・平成（ ）年

Q4. 視能訓練士としての勤務年数（通算）は、どれくらいですか

（特例の方は視能訓練士としての勤務内容の仕事始めてから）

1. 5年未満 2. 5年以上10年未満
3. 10年以上15年未満 4. 15年以上20年未満
5. 20年以上25年未満 6. 25年以上30年未満
7. 30年以上35年未満 8. 35年以上40年未満
9. 40年以上

Q5. 現在、勤務している地域はどちらですか

1. 北海道 2. 東北 3. 関東・甲信越 4. 東京
5. 東海北陸 6. 近畿 7. 中国四国 8. 九州

Q6. 視能訓練士養成所に入学する前の学歴について、該当するものに○をつけてください（海外での学歴も含む）

の○をつけてください（海外での学歴も含む）

1. 高等学校 2. 短期大学 3. 大学
4. 大学院（修士） 5. 大学院（博士） 6. 各種専門学校
7. その他（ ）

Q7. 教育を受けた視能訓練士養成所はどこですか

1. 1年課程の専門学校 2. 3年課程の専門学校
3. 4年課程の専門学校 4. 短期大学 5. 大学
6. 特別経過措置 7. その他

Q8. 免許取得後の進学について、該当するものに○をつけてください（海外での学歴も含む）

1. 大学院（修士） 2. 大学院（博士）
3. 海外留学（ ）年間 4. その他（ ）

Q9. 視能訓練士以外の資格はありますか

1. ある 2. ない

Q10. Q9で「1. ある」と答えた方に、下記の資格で持っているものを全て選んでください（複数回答可）

1. 看護師・保健師 2. 保育士 3. 幼稚園教諭
4. 教員 5. 養護教諭
6. 介護支援専門員（ケアマネージャー等） 7. 歩行訓練士
8. その他（ ）

II. 勤務体制についてお伺いします

Q11. 現在の勤務形態はどれですか

1. 正規職員 2. 契約（嘱託）職員
3. 非常勤職員（パート） 4. 事業主（経営者）
5. その他（ ）
6. 勤務していない ⇒ Q33へ移動

Q12. Q11で2. または3. と答えた方に、あなたの勤務形態をさらに詳しく教えてください。あなたの勤務形態は、どれに当てはまりますか

1. 週40時間の雇用 2. 週30時間の雇用
3. 週2～3日程度の非常勤 4. 不定期雇用
5. 複数の施設を掛け持ち 6. その他

Q13. Q11で2. または3. と答えた方に、あなたの採用形態の理由は何ですか

1. 本当は正規職員になりたいがポストがない
2. 家庭の都合で正規職員は困難
3. 扶養家族として勤務したい 4. その他（ ）

Q14. 視能訓練士として得た昨年度の年間所得（税込み）はどれくらいですか。源泉徴収票などを参考に記入してください（ ）万円

Q15. 年間所得（税込み）は一昨年度と比較していかがですか

1. 上がった 2. 下がった 3. 変わらない

Q16. 給与が時間給の人はその額も記入してください（複数力所ある場合は平均値）（ ）円/時間

Q17. 時間給は一昨年度と比較していかがですか

1. 上がった 2. 下がった 3. 変わらない

Q18. 現在、主に勤務している施設はどこですか

1. 国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）
2. 独立行政法人国立病院機構
3. 国立大学法人
4. その他国立系病院
5. 公立医療機関（都道府県市町村立の病院および診療所）
6. 公立大学病院
7. 公立に準ずる病院および診療所（労災・日本赤十字・済生会・厚生連・社会事業協会・厚生年金・共済組合・社会保険関連団体、等）
8. 私立大学病院
9. 私立病院（他科もある病院の眼科）
10. 私立眼科病院
11. 眼科診療所（医療法人および個人）
12. レーシックセンター
13. 視能訓練士の養成施設（大学、専門学校）
14. 眼鏡店、コンタクトレンズ関連会社
15. 保健所、保健センター
16. その他（ ）

Q19. あなたはどのような身分で採用されていますか

1. 病院採用（医療技術職）
2. 病院採用（事務職）
3. 眼科医局採用
4. 団体採用
5. 養成施設職員採用
6. 会社採用
7. 技官
8. その他（ ）

Q20. 病院に勤務されている方に、所属はどこですか

1. 眼科
2. 医療技術部
3. 看護部
4. 事務部
5. 眼科医局
6. その他

Q21. 同じ職場に勤務する視能訓練士はあなたを含め何人いますか

1. 正規職員（ ）人
2. 契約（嘱託）職員（ ）人
3. 非常勤職員（パート）（ ）人

Q22. 眼科医療機関に勤務されている方に、現在あなたの勤務している施設で、視能訓練士は1診療（医師1名）に対して何人ですか
平日の通常外来の診療時（ ）人/1診療

Q23. 現在あなたの勤務している施設における視能訓練士の人数についてどのように思いますか

1. 足りていない
2. ちょうどよい
3. 多すぎる

Q24. Q23で「1. 足りていない」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

1. 本業（視能訓練士としての業務）が多い
2. 本業以外の業務（雑務）が多い
3. 経験年数の短い視能訓練士の割合が多い
4. 非常勤職員（パート）の割合が多い
5. その他（ ）

Q25. Q23で「1. 足りていない」と答えた方に、現状にあと何人増員すれば適正な数になると思いますか

1. 1人
2. 2人
3. 3人以上

Q26. 視能訓練士の増員や常勤化について、病院や医師に相談したことはありますか

1. ある
2. ない

Q27. Q26で「1. ある」と答えた方に、相談した際の、回答や対応はどうか

1. すぐに改善された
2. すぐではないが改善された
3. 検討してくれたが、改善にはいたらなかった
4. 回答、対応してもらえなかった
5. その他（ ）

Q28. 1週間に平均何日勤務していますか

例) 月曜と水曜：1日勤務、火曜：半日勤務
→ $1.0+1.0+0.5=2.5$ (日)
平均（ ）日

Q29. 1年間に何日、年次有給休暇が与えられていますか

1. () 日
2. わからない

Q30. 1年間に平均何日、年次有給休暇を利用していますか

1. () 日
2. わからない

Q31. 現在、勤務している施設で、過去5年間に視能訓練士の育児休業制度利用の実績はありますか

1. 男女ともある
2. 女性のみある
3. ない
4. 対象者がいない

Q32. 現在、あなたの勤務している施設で、過去5年間に視能訓練士の介護休業制度利用の実績はありますか

1. ある
2. ない
3. 対象者がいない

Q33. Q11にて「6. 勤務していない」と答えた方に、離職・休職した理由は何ですか

1. 結婚 2. 出産 3. 子育て 4. 自分の病気療養
5. 配偶者の転勤 6. 家族の病気や介護
7. 進学、留学 8. その他 ()

Q34. Q11にて「6. 勤務していない」と答えた方に、離職・休職している期間はどれくらいですか

1. 6ヵ月未満 2. 6ヵ月以上1年未満
3. 1年以上2年未満 4. 2年以上3年未満
5. 3年以上

Q35. Q11にて「6. 勤務していない」と答えた方に、再就職・復職の意思はありますか

1. ある 2. ない

Q36. Q35にて「1. ある」と答えた方に、再就職・復職に対して不安なことはありますか(自由記述)

1. 職場の人間関係 2. 仕事の質・量
3. 労働条件(勤務時間、日数、給与、など)
4. プランクの影響 5. 年齢 6. その他 ()

Q37. 視能訓練士となって職場は何回変えましたか

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回
5. それ以上 ()回

Q38. Q37で「1. 0回」以外に答えた方に、職場を変えた理由は何ですか(複数回答可)

1. 結婚や出産を機に 2. 配偶者の転勤
3. キャリアアップ 4. 人間関係に不満
5. 業務が多忙 6. 残業が多い
7. 給料が低い 8. 通勤が不便
9. 指導者が不在 10. 福利厚生が不備
11. 設備・備品が不十分 12. ハラスメントを受けた
13. 昇進の見込みがない 14. 業務に興味がもてない
15. 勤務形態に恵まれていない
16. 患者に十分なサービスが提供できない
17. その他 ()

Ⅲ. 勤務状況についてお伺いします

Q39. 従事している業務概要について、あなたの主な業務はどれですか

1. 眼科一般検査 2. 視能矯正 3. ロービジョンケア
4. 検診業務 5. 学生の教育 6. その他 ()

Q40. 従事している業務内容に○印を付けてください(複数回答可)。

この質問は視能訓練士が臨床で実際に行っている業務を協会が把握する目的で設けています。業務内容の適法・違法を問う目的ではありませんので、従事している業務全てに○印を付けてください)

- i) 眼科一般検査
1. 問診
 2. 視力検査
 3. 自覚的・他覚的屈折検査(角膜曲率半径測定を含む)
 4. 調節検査
 5. 静的量的視野検査
 6. 動的量的視野検査
 7. 色覚検査
 8. 光覚検査
 9. 眼圧検査
 10. 涙液検査
 11. コンタクトレンズ検査・装着指導
 12. 超音波検査(Bモード法)
 13. 眼軸長計測検査(超音波Aモード法, 光学式方法)
 14. 角膜内皮検査
 15. 電気生理検査(ERG, VEP, など)
 16. 写真撮影(前眼部, 眼底, など)
 17. デジタル画像撮影(OCT, 角膜トポグラフィ, など)
 18. 瞳孔機能検査(電子瞳孔計使用)
 19. 行動観察による視力検査(PL法, 乳幼児視力測定)
 20. 斜視検査・眼球運動検査
 21. 眼鏡合わせ検査
 22. 散瞳薬の点眼
 23. 治験に関する諸検査
- ii) 視能矯正
24. 斜視視能矯正
 25. 弱視視能矯正
- iii) 斜視手術関連業務
26. 手術室間接業務(眼位検査や術式の記録)
 27. 手術室直接業務(手術器具の手渡し, など)
- iv) 白内障手術関連業務
28. IOL度数計算
 29. 手術室間接業務(術式の記録, IOL保管・管理, など)
 30. 手術室直接業務(手術器具の手渡し, 術眼への水掛け, など)
- v) その他
31. ロービジョンケアに関する諸検査・指導
 32. 3歳児(乳幼児)健診・就学時健診業務
 33. 成人検診・企業検診など業務
 34. 受付業務
 35. 医療請求事務
 36. 実験研究業務

- 37. レーシック関連業務
- 38. 洗眼
- 39. 硝子体注射の介助
- 40. 結膜等のウイルス検査
- 41. 写真等資料整理
- 42. 各種委員会業務（医療安全委員会，など）
- 43. 視能訓練士の教育（学生実習指導を含む）
- 44. その他（ ）
- 15. その他の記入・入力ミス（具体的内容： ）
- 16. コミュニケーションエラー（対 患者）
- 17. コミュニケーションエラー（対 同職種）
- 18. コミュニケーションエラー（対 他職種）
- 19. 上記以外（具体的内容： ）

Q41. Q40のi)で「23. 治験に関する諸検査」に○印を付けた方に、眼科一般検査業務と治験に関する諸検査の優先度について当てはまるものに○印を付けてください

- 1. 眼科一般検査業務を優先している
- 2. 治験に関する諸検査を優先している
- 3. 眼科一般検査と治験に関する諸検査とを均等に行っている

Q42. 今まで業務においてアクシデント、インシデント（ヒヤリ・ハット）はありましたか

- 1. アクシデントがある
- 2. インシデント（ヒヤリ・ハット）がある
- 3. アクシデント、インシデント共にある
- 4. ない

Q43. Q42で1. 2. 3. と答えた方に、インシデント、アクシデントそれぞれについて該当する番号を下記から選んで記入してください（複数回答可、またインシデントとアクシデントとで重複回答可）ただし、項目15と19の場合は、具体的内容について（ ）内に記載してください

- 1. 患者やカルテの取り違い
- 2. カルテの運搬に関するミス（別の医師に渡した、カルテを置きっぱなしにした、など）
- 3. 点眼する薬剤の選択ミス（ミドリンPとミドリンMの間違い、など）
- 4. 点眼する目（右眼、左眼、両眼）の選択ミス
- 5. 眼鏡またはコンタクトレンズの破損または紛失
- 6. 椅子やベッドからの転倒
- 7. 検査機器に顔や目をぶつける
- 8. 機器の消毒に関するミス
- 9. 感染症に罹患している患者の取扱ミス（感染症対策のレベル認識ミス、など）
- 10. 瞳孔間距離の測定・計算に関するミス
- 11. 検査時の装用レンズ度数ミス（付加度数を含めた計算ミスも含む）
- 12. 矯正レンズの＋と－の記入・入力ミス
- 13. 眼位の＋と－の記入・入力ミス
- 14. プリズム基底の記入・入力ミス

Q44. 今まで日常の仕事上、他の医療関連職種とのトラブルが起きたことがありますか

- 1. ある
- 2. ない

Q45. Q44で「1. ある」と答えた方に、その職種は何ですか（複数回答可）

- 1. 視能訓練士
- 2. 医師
- 3. 看護師・准看護師
- 4. 看護助手
- 5. 他の医療職
- 6. 眼科コ・メディカル（旧OMA）
- 7. 事務職
- 8. その他（ ）

Q46. 今まで業務においてハラスメントを受けたことはありますか

- 1. ある
- 2. ない

Q47. Q46で「1. ある」と答えた方に、その種類は何ですか（複数回答可）

- 1. パワーハラスメント
- 2. セクシャルハラスメント
- 3. アカデミックハラスメント
- 4. マタニティハラスメント
- 5. その他（ ）

IV. 視能訓練士の養成についてお伺いします（特別措置の方もご意見をお聞かせください）

Q48. 教育機関はどの機関が適していると思いますか（複数回答可）

- 1. 高校卒業後の専門学校（3年）での教育
- 2. 短期大学（2年）での教育
- 3. 大学（4年）での教育
- 4. 大学（6年）での教育
- 5. 大学卒業後の専門学校（1年）での教育
- 6. 大学院（2年）での教育
- 7. 大学院（4年）での教育

Q49. 教育期間は基礎および専門を含め何年が必要と思いますか（高卒後に換算）

- 1. 1年
- 2. 2年
- 3. 3年
- 4. 4年
- 5. 5年
- 6. 6年
- 7. その他（ ）

Q50. あなたが受けた教育内容についてどう考えていますか

- 1. 十分である
- 2. やや不足である
- 3. 不十分である
- 4. わからない

Q51. Q50で2. または3. と答えた方に、今後、充実が必要と思う科目や内容はどれですか（複数回答可）

1. 専門科目
2. 専門技術
3. 基礎医学
4. 視覚認知学（発達障害、高次脳機能障害、認知症、等）
5. 医療倫理
6. 客観的臨床能力試験（OSCE）などの臨床技能評価
7. 医療安全
8. 数学、統計学
9. 物理学、生物学、化学
10. 社会学、社会福祉学
11. 教育学、心理学
12. 経済学、法律学
13. 英語など外国語
14. コミュニケーション
15. わからない
16. その他（ ）

Q52. あなたが学生時代に受けた臨床（臨地）実習の期間はいかがでしたか

1. 十分である
2. やや不足である
3. 不十分である
4. 分からない

Q53. Q52で2. または3. と答えた方に、卒後に専門職として勤務するためにはどれくらいの臨床（臨地）実習期間が必要と考えますか

1. 6ヵ月
2. 1年
3. 1年以上

Q54. 現在、視能訓練士の教育に携わっていますか（複数回答可）

1. 養成施設の教員である
2. 養成施設の非常勤講師である
3. 臨床（臨地）実習病院の指導者である
4. 携わっていない

Q55. 臨床（臨地）実習を引き受けたことがありますか

1. ある
2. ない

Q56. 臨床（臨地）実習の依頼があった場合、どうされますか

1. 新規・継続ともに引き受ける
2. 継続のみ引き受け、新規は引き受けられない
3. 新規・継続ともに引き受けられない

Q57. Q56で2. または3. と答えた方に、最も大きな理由を選んでください（複数回答可）

1. 現在の施設状態では不相当である
2. 現在の診療内容では不相当である
3. 忙しい
4. 経験不足である
5. わずらわしい
6. 実習受け入れ許容人数を超えている
7. 院内での理解が得られない
8. その他（ ）

Q58. Q55で「1. ある」と答えた方に、臨床（臨地）実習での実習方法はどのように実施していますか

1. 見学のみ
2. 検査を実施している

Q59. Q58で「1. 見学のみ」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

1. 学生に実習させるための知識がない
2. 学生に実習させるための検査技術がない
3. 病院の許可がでない
4. 眼科医の許可がでない
5. 患者さんの承諾が得られない
6. 医療安全の面から

Q60. Q58で「2. 検査を実施している」と答えた方に、実施させている検査は何ですか（複数回答可）

1. オートレフラクトメータ・ケラトメータ
2. ノンコンタクトトノメータ
3. 静的視野検査
4. 自覚的屈折検査
5. 角膜内皮細胞検査
6. OCT
7. 眼鏡度数測定検査
8. 眼底写真撮影
9. 眼位検査
10. その他（ ）

V. 卒後教育についてお伺いします

Q61. 現在、業務上の疑問点の解決はどのようにしていますか（複数回答可）

1. 相談する
2. 書籍・雑誌で調べる
3. 電子媒体で調べる
4. 解決法なし
5. 困っていない
6. その他（ ）

Q62. Q61で「1. 相談する」と答えた方に、相談先はどこですか（複数回答可）

1. 同じ施設の視能訓練士
2. 他の施設の視能訓練士
3. 医師
4. 出身校の教員
5. その他（ ）

Q63. よく利用される雑誌はどれですか（複数回答可）

1. 日本視能訓練士協会誌
2. 日本眼科学会誌
3. あたらしい眼科
4. 眼科
5. 臨床眼科
6. 眼科臨床紀要
7. 日本弱視斜視学会誌
8. 日本の眼科
9. 眼科ケア
10. OCULISTA
11. その他（ ）
12. Am J Ophthalmol

- 13. Invest Ophth Vis Sci
- 14. JAMA Ophthalmol (旧Arch Ophthalmol)
- 15. J AAPOS
- 16. J Pediat Ophth Strab
- 17. Ophthalmology
- 18. Optometry
- 19. Prog Retin Eye Res
- 20. Strabismus
- 21. Surv Ophthalmol
- 22. 特になし

Q64. 職場内で視能訓練士が参加できる勉強会がありますか

- 1. 定期的にある
- 2. 不定期にある
- 3. ない

Q65. Q64で1. または2. と答えた方に、職場内勉強会への参加者はどなたですか（複数回答可）

- 1. 視能訓練士のみ
- 2. 視能訓練士と医師
- 3. 視能訓練士と医師と他スタッフ
- 4. その他（ ）

Q66. 職場外で視能訓練士が参加できる勉強会がありますか

- 1. 定期的にある
- 2. 不定期にある
- 3. ない

Q67. Q66で1. または2. と答えた方に、その勉強会の名称があれば記入してください

[名称 _____]

Q68. Q66で1. または2. と答えた方に、その勉強会の地域はどこですか（複数回答可）

- 1. 北海道
- 2. 東北
- 3. 関東
- 4. 甲信越
- 5. 東京
- 6. 東海
- 7. 北陸
- 8. 近畿
- 9. 中国
- 10. 四国
- 11. 九州
- 12. 沖縄
- 13. 大学関連病院
- 14. 出身校単位
- 15. 企業

Q69. Q66で1. または2. と答えた方に、その勉強会に参加していますか

- 1. いつも参加している
- 2. 時々参加している
- 3. 参加していない

Q70. Q66で「3. ない」と答えた方に、勉強会があれば参加しますか

- 1. 参加する
- 2. 参加しない
- 3. 出来れば参加したい
- 4. その他（ ）

Q71. 卒後教育として協会に希望される項目の全てに○をつけ、特に希望される項目の1つに◎を付けてください。また具体的な内容についても [] 内に記入してください

- 1. 講義 [内容 _____]
- 2. 技術研修 [内容 _____]
- 3. 情報提供 [内容 _____]
- 4. その他 (_____)
- 5. 特になし

VI. 将来展望についてお伺いします

Q72. 現在の職場の中で次の i ~ v について、あなたの考えに最も近いのはどれですか

i) 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる

- 1. そうである
- 2. どちらかといえばそうである
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそうではない
- 5. そうではない

ii) 自分の責任で行える仕事が多い

- 1. そうである
- 2. どちらかといえばそうである
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそうではない
- 5. そうではない

iii) 単純でつまらない仕事は少ない

- 1. そうである
- 2. どちらかといえばそうである
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそうではない
- 5. そうではない

iv) 自分たちの仕事は尊重されている

- 1. そうである
- 2. どちらかといえばそうである
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそうではない
- 5. そうではない

v) 自分の仕事の範囲がはっきりしている

- 1. そうである
- 2. どちらかといえばそうである
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそうではない
- 5. そうではない

Q73. 仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか。（自由記述）

(_____)

Q74. 現在の職場での業務に満足されていますか

- 1. 満足している
- 2. 普通
- 3. 不満足である

Q75. Q74で「3. 不満である」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 給料が低い | 2. 福利厚生が不備 |
| 3. 勤務形態に恵まれていない | 4. 通勤が不便である |
| 5. 人間関係に不満 | 6. 設備・備品が不十分 |
| 7. 業務に興味をもてない | 8. 指導者不在 |
| 9. 昇進の見込がない | |
| 10. 患者に十分なサービスが提供できない | |
| 11. その他（ | ） |

Q76. 現在の職場で仕事を続けたいと思いますか（複数回答可）

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 現在の職場で仕事を続けたい | |
| 2. 現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい | |
| 3. 現在の職場を辞めたい | 4. キャリアアップしたい |
| 5. 他の職種に移りたい | 6. その他（ |
| | ） |

Q77. 視能訓練士の将来性についてどのように考えていますか

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. さらに発展していく | 2. 現状と変わらない |
| 3. 現在より後退する | 4. わからない |

Q78. Q77で「1. さらに発展していく」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 眼科での専門職として評価されている | |
| 2. 検診やロービジョン等の業務が定着する | |
| 3. 職域の拡大が予想される（予想される職域： | ） |
| 4. 法的制約が緩和され業務範囲が広がった | |
| 5. その他（ | ） |

Q79. Q77で「3. 現在より後退する」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

- | |
|--------------------------------|
| 1. 看護師など他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない |
| 2. 免許取得者が少なすぎる |
| 3. 知名度が低い |
| 4. 職域が狭い |
| 5. 検査・訓練の保険点数が低い |
| 6. 公的施設での定員化が遅れている |
| 7. 研究環境が整っていない |
| 8. 養成施設が多すぎる |
| 9. 教育・養成制度が統一されていない |
| 10. 視能訓練士のレベルの低下（学力の低下） |
| 11. その他（ |
| ） |

Q80. 将来も視能訓練士として働くことを希望しますか

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1. 希望する | 2. 希望しない | 3. わからない |
|---------|----------|----------|

Q81. Q80で「2. 希望しない」「3. わからない」と答えた方に、その理由は何ですか（自由記述）

（

VII. その他

Q82. 今後のアンケート調査の回答について意向をお伺いします

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 従来通り郵送にする | 2. インターネットを利用する |
| 3. どちらでもよい | |

Q83. 協会への希望、その他ご意見などがあればお聞かせください（自由記述）

ご協力ありがとうございました。

資料2. アンケート集計結果

Q1. 性別は

男性	女性	無回答	合計
368	2232	4	2604
14.1	85.7	0.2	100.0

Q2. 年齢は

20代	30代	40代	50代	60歳以上 65歳未満	65歳以上	無回答	合計
408	892	841	360	55	40	8	2604
15.7	34.3	32.3	13.8	2.1	1.5	0.3	100.0

Q3. 視能訓練士の免許を取得したのは、何年ですか

1970～ 1974年	1975～ 1979年	1980～ 1984年	1985～ 1989年	1990～ 1994年	1995～ 1999年	2000～ 2004年	2005～ 2009年	2010～ 2014年	2015～ 2018年	無回答	合計
14	29	89	165	193	341	413	467	451	307	135	2604
0.5	1.1	3.4	6.3	7.4	13.1	15.9	17.9	17.3	11.8	5.2	100.0

Q4. 視能訓練士としての勤務年数（通算）は、どれくらいですか（特例の方は視能訓練士としての勤務内容の仕事をはじめてから）

5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上 35年未満	35年以上 40年未満	40年以上	無回答	合計
334	547	545	414	334	177	136	74	31	12	2604
12.8	21.0	20.9	15.9	12.8	6.8	5.2	2.8	1.2	0.5	100.0

Q5. 現在、勤務している地域はどちらですか

北海道	東北	関東・甲信越	東京	東海北陸	近畿	中国四国	九州	無回答	合計
84	185	724	301	330	501	178	242	59	2604
3.2	7.1	27.8	11.6	12.7	19.2	6.8	9.3	2.3	100.0

Q6. 視能訓練士養成所に入学する前の学歴について、該当するものに○をつけてください（海外での学歴も含む）

高等学校	大学	短期大学	各種専門学校	大学院（修士）	大学院（博士）	その他	無回答	合計
1368	668	321	204	21	3	12	7	2604
52.5	25.7	12.3	7.8	0.8	0.1	0.5	0.3	100.0

Q7. 教育を受けた視能訓練士養成所はどこですか

3年課程の 専門学校	1年課程の 専門学校	大学	4年課程の 専門学校	特別経過措置	短期大学	その他	無回答	合計
1069	807	599	104	9	1	10	5	2604
41.1	31.0	23.0	4.0	0.3	0.0	0.4	0.2	100.0

Q8. 免許取得後の進学について、該当するものに○をつけてください

大学院（修士）	大学院（博士）	海外留学	その他	無回答	合計
72	30	4	27	2471	2604
2.8	1.2	0.2	1.0	94.9	100.0

Q9. 視能訓練士以外の資格はありますか

ある	ない	無回答	合計
594	1960	50	2604
22.8	75.3	1.9	100.0

Q10. Q9. で「ある」と答えた方に、下記の資格で持っているものを全て選んでください（複数回答可）

教員	介護支援専門員 (ケアマネージャー等)	幼稚園教諭	保育士	看護師・保健師	養護教諭	社会福祉士	歩行訓練士	その他	回答者数
188	63	59	52	47	29	16	11	205	594
28.1	9.4	8.8	7.8	7.0	4.3	2.4	1.6	30.6	-

Q11. 現在の勤務形態はどれですか

1. 正規職員	2. 契約(嘱託)職員	3. 非常勤職員 (パート)	4. 事業主 (経営者)	5. その他	6. 勤務して いない	無回答	合計
1948	76	435	10	15	109	11	2604
74.8	2.9	16.7	0.4	0.6	4.2	0.4	100.0

Q12. Q11. で2. または3. と答えた方に、あなたの勤務形態をさらに詳しく教えてください

週2～3日程度 の非常勤	週30時間 の雇用	複数の施設を 掛け持ち	週40時間 の雇用	不定期雇用	その他	無回答	合計
180	110	95	90	21	12	3	511
35.2	21.5	18.6	17.6	4.1	2.3	0.6	100.0

Q13. Q11. で2. または3. と答えた方に、あなたの採用形態の理由は何ですか

家庭の都合で 正規職員は困難	本当は正規職員に なりたいが ポストがない	扶養家族として 勤務したい	その他	無回答	合計
193	94	62	69	93	511
37.8	18.4	12.1	13.5	18.2	100.0

Q14. 視能訓練士として得た昨年度の年間取得（税込み）はどれくらいですか。源泉徴収票などを参考に記入してください

100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上	無回答	合計
114	172	315	626	513	305	166	89	304	2604
4.4	6.6	12.1	24.0	19.7	11.7	6.4	3.4	11.7	100.0

Q15. 年間所得（税込み）は一昨年度と比較していかがですか

上がった	変わらない	下った	無回答	合計
1147	1008	247	202	2604
44.0	38.7	9.5	7.8	100.0

Q16. 給与が時間給の人はその額も記入してください（複数カ所ある場合は平均値）

1000円未満	1000円以上 1500円未満	1500円以上 2000円未満	2000円以上 2500円未満	2500円以上 3000円未満	3000円以上 4000円未満	4000円以上 5000円未満	5000円以上	合計
1	120	169	85	35	33	8	11	462
0.2	26.0	36.6	18.4	7.6	7.1	1.7	2.4	100.0

Q17. 時間給は一昨年度と比較していかがですか

上がった	変わらない	下がった	無回答	合計
184	433	37	61	715
25.7	60.6	5.2	8.5	100.0

Q18. 現在、主に勤務している施設はどこですか

国立高度専門 医療センター	独立行政法人 国立病院機構	国立大学法人	その他 国立系病院	公立医療機関	公立大学病院	公立に準ずる 病院および診療所	私立大学病院	私立病院
11	73	72	4	280	22	321	185	357
0.4	2.8	2.8	0.2	10.8	0.8	12.3	7.1	13.7
私立眼科病院	眼科診療所 (医療法人及び個人)	レーシック センター	視能訓練士 の養成施設	眼鏡店、コンタクト レンズ関連会社	保健所、保 健センター	その他	無回答	合計
87	952	1	75	2	10	26	126	2604
3.3	36.6	0.0	2.9	0.1	0.4	1.0	4.8	100.0

Q19. あなたはどのような身分で採用されていますか

病院採用 (医療技術職)	会社採用	養成施設 職員採用	団体採用	眼科医局採用	技官	病院採用 (事務職)	その他	無回答	合計
2119	106	65	28	24	11	7	73	171	2604
81.4	4.1	2.5	1.1	0.9	0.4	0.3	2.8	6.6	100.0

Q20. “病院”に勤務されている方に、所属はどこですか

眼科	医療技術部	看護部	事務部	眼科医局	その他	無回答	合計
740	345	105	47	17	137	36	1427
51.9	24.2	7.4	3.3	1.2	9.6	2.5	100.0

Q21. 同じ職場に勤務する視能訓練士はあなたを含め何人いますか

	0名	1名	2名	3名	4名	5名以上 10名未満	10名以上 15名未満	15名以上	無回答	合計
正規職員	102 3.9	412 15.8	476 18.3	416 16.0	210 8.1	442 17.0	96 3.7	112 4.3	338 13.0	2604 100.0
契約（嘱託）職員	257 9.9	126 4.8	41 1.6	28 1.1	10 0.4	32 1.2	1 0.0	1 0.0	2108 81.0	2604 100.0
非常勤職員 （パート）	188 7.2	461 17.7	210 8.1	79 3.0	54 2.1	59 2.3	3 0.1	1 0.0	1549 59.5	2604 100.0

Q22. 「眼科医療機関、に勤務されている方に、現在あなたの勤務している施設で視能訓練士は1診療（医師1名）に対して何人ですか 平日の通常外来の診療時（ ）人 / 1診療

0人以上 1人未満	1人以上 2人未満	2人以上 3人未満	3人以上 4人未満	4人以上 5人未満	5人以上	その他	無回答	合計
113 4.3	815 31.3	510 19.6	227 8.7	83 3.2	76 2.9	239 9.2	541 20.8	2604 100.0

Q23. 現在あなたの勤務している施設における視能訓練士の人数についてどのように思いますか

ちょうどよい	足りていない	多すぎる	無回答	合計
1434 55.1	955 36.7	61 2.3	154 5.9	2604 100.0

Q24. Q23. で「足りていない」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

本業（視能訓練士としての業務）が多い	本業以外の業務（雑務）が多い	経験年数の短い視能訓練士の割合が多い	非常勤職員（パート）の割合が多い	その他	回答者数
686 71.8	355 37.2	118 12.4	72 7.5	125 13.1	955 -

Q25. Q23. で「足りていない」と答えた方に、現状にあと何人増員すれば適正な数になると思いますか

1人	2人	3人以上	無回答	合計
559 58.5	267 28.0	114 11.9	15 1.6	955 100.0

Q26. 視能訓練士の増員や常勤化について、病院や医師に相談したことはありますか

ある	ない	無回答	合計
1147 44.0	1225 47.0	232 8.9	2604 100.0

Q27. Q26. で「ある」と答えた方に、相談した際の、回答や対応はどうですか

すぐに改善された	すぐではないが改善された	検討してくれたが、改善にはいたらなかった	回答、対応してもらえなかった	その他	無回答	合計
106 9.2	437 38.1	425 37.1	99 8.6	74 6.5	6 0.5	1147 100.0

Q28. 1週間に平均何日勤務していますか 例) 月曜と水曜：1日勤務，火曜：半日勤務 → 1.0 + 1.0 + 0.5 = 2.5（日）

1日以下	2日以下	3日以下	4日以下	5日以下	6日以下	7日	無回答	合計
41 1.6	101 3.9	89 3.4	107 4.1	1610 61.8	470 18.0	30 1.2	156 6.0	2604 100.0

Q29. 1年間に何日、年次有給休暇が与えられていますか

0日	1～10日	11～20日	21日以上	分からない	無回答	合計
90 3.5	380 14.6	1247 47.9	311 11.9	395 15.2	181 7.0	2604 100.0

Q30. 1年間に平均何日、年次有給休暇を利用していますか

0日	1～10日	11～20日	21日以上	分からない	無回答	合計
139 5.3	1215 46.7	648 24.9	23 0.9	378 14.5	201 7.7	2604 100.0

Q31. 現在、勤務している施設で、過去5年間に視能訓練士の育児休業制度利用の実績はありますか

男女ともある	女性のみある	ない	対象者がいない	無回答	合計
103	1081	501	763	156	2604
4.0	41.5	19.2	29.3	6.0	100.0

Q32. 現在、あなたの勤務している施設で、過去5年間に視能訓練士の介護休業制度利用の実績はありますか

ある	ない	対象者がいない	無回答	合計
119	866	1461	158	2604
4.6	33.3	56.1	6.1	100.0

Q33. Q11.にて「勤務していない」と答えた方に、離職・休職した理由は何ですか

出産	結婚	子育て	配偶者の転勤	自分の病気療養	家族の病気や介護	進学、留学	その他	無回答	合計
33	21	16	11	8	5	0	14	1	109
30.3	19.3	14.7	10.1	7.3	4.6	0.0	12.8	0.9	100.0

Q34. Q11.にて「勤務していない」と答えた方に、離職・休職している期間はどれくらいですか

6ヵ月未満	6ヵ月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上	無回答	合計
21	18	14	13	40	3	109
19.3	16.5	12.8	11.9	36.7	2.8	100.0

Q35. Q11.にて「勤務していない」と答えた方に、再就職・復職の意思はありますか

ある	ない	無回答	合計
86	21	2	109
78.9	19.3	1.8	100.0

Q36. Q35.にて「ある」と答えた方に、再就職・復職に対して不安なことはありますか（複数回答可）

労働条件（勤務時間、日数、給与、等）	ブランクの影響	職場の人間関係	仕事の質・量	年齢	その他	回答者数
65	58	47	33	22	2	86
75.6	67.4	54.7	38.4	25.6	2.3	-

Q37. 視能訓練士となって職場は何回変えましたか

0回	1回	2回	3回	それ以上	無回答	合計
973	698	372	321	213	27	2604
37.4	26.8	14.3	12.3	8.2	1.0	100.0

Q38. Q37.で「0回」以外に答えた方に、職場を変えた理由は何ですか（複数回答可）

結婚や出産を機に	人間関係に不満	キャリアアップ	給料が低い	ハラスメントを受けた	勤務形態に恵まれていない	通勤が不便	業務が多忙	配偶者の転勤	回答者数
554	385	339	239	230	203	197	184	165	165
34.5	24.0	21.1	14.9	14.3	12.7	12.3	11.5	10.3	10.3
残業が多い	昇進の見込みがない	業務に興味がもてない	指導者が不在	福利厚生が不備	患者に十分なサービスが提供できない	設備・備品が不十分	その他	回答者数	
113	112	105	100	99	53	30	308	1604	-
7.0	7.0	6.5	6.2	6.2	3.3	1.9	19.2	-	-

Q39. 従事している業務概要について、あなたの主な業務はどれですか（複数回答可）

眼科一般検査	視能矯正	検診業務	ロービジョンケア	学生の教育	その他	回答者数
2373	696	318	260	241	104	2604
91.1	26.7	12.2	10.0	9.3	4.0	-

Q40. 従事している業務内容に○印を付けてください（複数回答可）

眼科一般検査	視力検査	自覚的・他覚的屈折検査	眼圧検査	静的量的視野検査	色覚検査	眼鏡合わせ検査	斜視検査・眼球運動検査	散瞳薬の点眼	デジタル画像撮影	動的量的視野検査	角膜内皮検査
	2435	2427	2393	2372	2368	2367	2357	2334	2279	2247	2212
93.5	93.2	91.9	91.1	90.9	90.9	90.5	89.6	87.5	86.3	84.9	
写真撮影	眼軸長計測検査	問診	調節検査	電気生理検査	コンタクトレンズ検査・装着指導	涙液検査	行動観察による視力検査	治療に関する諸検査	光覚検査	超音波検査	瞳孔機能検査
2130	1931	1822	1765	1495	1428	1305	1081	802	693	636	289
81.8	74.2	70.0	67.8	57.4	54.8	50.1	41.5	30.8	26.6	24.4	11.1

視能矯正	弱視視能矯正	斜視視能矯正	関連斜視手術	手術室 間接業務	手術室 直接業務	白内障 手術	IOL度数計算	手術室 間接業務	手術室 直接業務	その他	視能訓練士の教育	ロービジョンケアに関する 諸検査・指導	成人検診・企業検診 など業務
	1746 67.1	1458 56.0		210 8.1	50 1.9		1293 49.7	543 20.9	142 5.5		916 35.2	780 30.0	683 26.2
受付業務	洗眼	3歳児（乳幼児） ・就学時健診業務	写真等 資料整理	各種委員会 業務	結膜等のウ イルス検査	医療請求事務	硝子体注射 の介助	実験研究業務	レーシック 関連業務	その他	回答者数		
637 24.5	630 24.2	499 19.2	463 17.8	443 17.0	185 7.1	117 4.5	116 4.5	97 3.7	56 2.2	117 4.5	2604 -		

Q41. Q40. で「治験に関する諸検査」に○印を付けた方に、眼科一般検査業務と治験に関する諸検査の優先度について当てはまるものに○印を付けてください

眼科一般検査業務を 優先している	眼科一般検査と治験に関する諸 検査とを均等に行っている	治験に関する諸検査を 優先している	無回答	合計
362 45.1	336 41.9	83 10.3	21 2.6	802 100.0

Q42. 今まで業務においてアクシデント、インシデント（ヒヤリ・ハット）はありましたか

1. アクシデント がある	2. インシデント（ヒヤリ ・ハット）がある	3. アクシデント、インシ デント共にある	ない	無回答	合計
127 4.9	1435 55.1	782 30.0	187 7.2	73 2.8	2604 100.0

Q43. Q42. で1, 2, 3. と答えた方に、インシデント、アクシデントそれぞれについて該当する番号を下記から選んで記入してください（複数回答可, またインシデントとアクシデントとで重複回答可）

点眼する目の 選択ミス	患者やカルテの 取り違え	点眼する薬剤の 選択ミス	矯正レンズの +と-の 記入・入力ミス	椅子やベッドから の転倒	カルテの運搬に 関するミス	検査時の装用 レンズ度数ミス
1329 56.7	1115 47.6	1040 44.4	874 37.3	802 34.2	575 24.5	484 20.6
検査機器に 顔や目をぶつける	コミュニケーション エラー (対 患者)	プリズム基底の 記入・入力ミス	眼鏡またはコンタ クトレンズの 破損または紛失	その他の 記入・入力ミス	コミュニケーション エラー (対 他職種)	眼鏡の+と-の 記入・入力ミス
453 19.3	385 16.4	213 9.1	211 9.0	175 7.5	166 7.1	157 6.7
コミュニケーション エラー (対 同職種)	感染症に罹患 している患者の 取扱ミス	瞳孔間距離の 測定・計算に 関するミス	機器の消毒に 関するミス	上記以外	回答者数	
140 6.0	119 5.1	99 4.2	38 1.6	86 3.7	2344 -	

Q44. 今まで日常の仕事上、他の医療関連職種とのトラブルが起きたことがありましたか

ある	ない	無回答	合計
556 21.4	1991 76.5	57 2.2	2604 100.0

Q45. Q44. で「ある」と答えた方に、その職種は何ですか（複数回答可）

看護師・准看護師	医師	事務職	視能訓練士	眼科コ・メディカル	他の医療職	看護助手	その他	回答者数
360 64.7	188 33.8	147 26.4	116 20.9	79 14.2	28 5.0	19 3.4	11 2.0	556 -

Q46. 今まで業務においてハラスメントを受けたことはありますか

ある	ない	無回答	合計
999 38.4	1532 58.8	73 2.8	2604 100.0

Q47. Q46. で「ある」と答えた方に、その種類は何ですか（複数回答可）

パワー ハラスメント	セクシャル ハラスメント	マタニティ ハラスメント	アカデミック ハラスメント	その他	回答者数
882 88.3	144 14.4	123 12.3	52 5.2	39 3.9	999 -

Q48. 教育機関はどの機関が適していると思いますか（複数回答可）

大学（4年） での教育	高校卒業後の専門学校 （3年）での教育	短期大学（2年） での教育	大学卒業後の専門学校 （1年）での教育	大学院（2年） での教育	大学（6年） での教育	大学院（4年） での教育	回答者数
1850	1713	438	362	94	52	35	2604
71.0	65.8	16.8	13.9	3.6	2.0	1.3	-

Q49. 教育期間は基礎および専門を含め何年が必要だと思いますか（高卒後に換算）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他	無回答	合計
13	290	1421	784	27	14	14	41	2604
0.5	11.1	54.6	30.1	1.0	0.5	0.5	1.6	100.0

Q50. あなたが受けた教育内容についてどう考えていますか

1. 十分である	2. やや不足である	3. 不十分である	4. わからない	無回答	合計
837	1241	363	143	20	2604
32.1	47.7	13.9	5.5	0.8	100.0

Q51. Q50. で2. または3. と答えた方に、今後、充実が必要と思う科目や内容はどれですか（複数回答可）

専門技術	専門科目	視覚認知学（発達障害、高次脳 機能障害、認知症、など）	基礎医学	医療安全	コミュニ ケーション	英語など 外国語	数学、 統計学	医療論理
1110	672	609	461	406	363	243	225	222
69.2	41.9	38.0	28.7	25.3	22.6	15.1	14.0	13.8
客観的臨床能力試験（OSCE） などの臨床技能評価	教育学、 心理学	社会学、 社会福祉学	物理学、 生物学、化学	経済学、 法律学	わからない	その他	回答者数	
191	108	79	47	35	13	63	1604	
11.9	6.7	4.9	2.9	2.2	0.8	3.9	-	

Q52. あなたが学生時代に受けた臨床（臨地）実習の期間はいかがでしたか

1. 十分 である	2. やや不足 である	3. 不十分 である	4. 分からない	無回答	合計
1614	630	191	117	52	2604
62.0	24.2	7.3	4.5	2.0	100.0

Q53. Q52. で2. または3. と答えた方に、卒後に専門職として勤務するためにはどれくらいの臨床（臨地）実習期間が必要と考えますか

6ヵ月	1年	1年以上	無回答	合計
507	222	74	18	821
61.8	27.0	9.0	2.2	100.0

Q54. 現在、視能訓練士の教育に携わっていますか（複数回答可）

携わっていない	臨床（臨地）実習病院 の指導者である	養成施設の 教員である	養成施設の 非常勤講師である	回答者数
1766	665	75	52	2604
67.8	25.5	2.9	2.0	-

Q55. 臨床（臨地）実習を引き受けたことがありますか

ある	ない	無回答	合計
1547	993	64	2604
59.4	38.1	2.5	100.0

Q56. 臨床（臨地）実習の依頼があった場合、どうされますか

1. 新規・継続ともに 引き受ける	2. 継続のみ引き受け、新 規は引き受けられない	3. 新規・継続ともに 引き受けられない	無回答	合計
765	391	1247	201	2604
29.4	15.0	47.9	7.7	100.0

Q57. Q56. で2. または3. と答えた方に、最も大きな理由を選んでください（複数回答可）

忙しい	現在の施設状態で は不相当である	現在の診療内容で は不相当である	経験不足 である	院内での理解が 得られない	実習受け入れ許容 人数を超えている	わずらわしい	その他	回答者数
731	620	347	317	142	134	67	147	1638
44.6	37.9	21.2	19.4	8.7	8.2	4.1	9.0	-

Q58. Q55. で「ある」と答えた方に、臨床（臨地）実習での実習方法はどのように実施していますか

検査を実施している	見学のみ	無回答	合計
1366	64	117	1547
88.3	4.1	7.6	100.0

Q59. Q58. で「見学のみ」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

医療安全の面から	学生に実習させるための検査技術がない	学生に実習させるための知識がない	眼科医の許可がない	患者さんの承諾が得られない	病院の許可がない	回答者数
42	13	11	9	9	7	64
65.6	20.3	17.2	14.1	14.1	10.9	-

Q60. Q58. で「検査を実施している」と答えた方に、実施させている検査は何ですか（複数回答可）

オートレフラクトメータ・ケラトメータ	ノンコンタクトトノメータ	静的視野検査	自覚的屈折検査	角膜内皮細胞検査	眼位検査	眼鏡度数測定検査	OCT	眼底写真撮影	その他	回答者数
1338	1244	1192	1175	974	811	801	688	603	159	1366
98.0	91.1	87.3	86.0	71.3	59.4	58.6	50.4	44.1	11.6	-

Q61. 現在、業務上の疑問点の解決はどのようにしていますか（複数回答可）

相談する	書籍・雑誌で調べる	電子媒体で調べる	解決法なし	困っていない	その他	回答者数
2306	2018	1474	33	30	36	2604
88.6	77.5	56.6	1.3	1.2	1.4	-

Q62. Q61. で「相談する」と答えた方に、相談先はどこですか（複数回答可）

同じ施設の視能訓練士	他の施設の視能訓練士	医師	出身校の教員	その他	回答者数
1694	1480	1277	112	65	2306
73.5	64.2	55.4	4.9	2.8	-

Q63. よく利用される雑誌はどれですか（複数回答可）

日本視能訓練士協会誌	眼科ケア	あたらしい眼科	日本弱視科視学会誌	臨床眼科	日本眼科学会誌	眼科臨床紀要	OCULISTA	日本の眼科	眼科	その他	回答者数
1510	1295	985	486	476	346	255	251	179	173	69	2604
58.0	49.7	37.8	18.7	18.3	13.3	9.8	9.6	6.9	6.6	2.6	-
Ophthalmology	Am J Ophthalmol	Invest Ophth Vis	J AAPOS	JAMA Ophthalmol	Strabismus	J Pediat Ophth Strab	Optometry	Surv Ophthalmol	Prog Retin Eye Res	特になし	回答者数
105	81	48	44	30	24	13	12	4	2	211	2604
4.0	3.1	1.8	1.7	1.2	0.9	0.5	0.5	0.2	0.1	8.1	-

Q64. 職場内で視能訓練士が参加できる勉強会がありますか

定期的にある	不定期にある	ない	無回答	合計
744	813	946	101	2604
28.6	31.2	36.3	3.9	100.0

Q65. Q64. で1. または2. と答えた方に、職場内勉強会への参加者はどなたですか（複数回答可）

視能訓練士と医師と他スタッフ	視能訓練士と医師	視能訓練士のみ	その他	回答者数
1014	371	314	59	1557
65.1	23.8	20.2	3.8	-

Q66. 職場外で視能訓練士が参加できる勉強会がありますか

1. 定期的にある	2. 不定期にある	3. ない	無回答	合計
1102	804	592	106	2604
42.3	30.9	22.7	4.1	100.0

Q68. Q66. で1. または2. と答えた方に、その勉強会の地域はどちらですか（複数回答可）

北海道	東北	関東	甲信越	東京	東海	北陸	近畿
81	167	347	114	230	218	45	351
4.2	8.8	18.2	6.0	12.1	11.4	2.4	18.4
中国	四国	九州	沖縄	大学関連病院	出身校単位	企業	回答者数
124	59	205	10	18	18	30	1906
6.5	3.1	10.8	0.5	0.9	0.9	1.6	-

Q69. Q66. で1. または2. と答えた方に、その勉強会に参加していますか

いつも参加していない	時々参加していない	参加していない	無回答	合計
463	1138	285	20	1906
24.3	59.7	15.0	1.0	100.0

Q70. Q66. で「ない」と答えた方に、勉強会があれば参加しますか

参加する	出来れば参加したい	参加しない	その他	無回答	合計
65	333	106	32	56	592
11.0	56.3	17.9	5.4	9.5	100.0

Q71. 卒後教育として協会に希望される項目の全てに○をつけ（複数回答可）、

技術研修	情報提供	講義	その他	特になし	回答者数
915	832	797	82	610	2604
35.1	32.0	30.6	3.1	23.4	-

そのうち特に希望される項目の1つに◎を付けてください

技術研修	情報提供	講義	その他	特になし	無回答	合計
312	200	141	23	5	1923	2604
12.0	7.7	5.4	0.9	0.2	73.8	100.0

Q72. 現在の職場の中で次の i ~ v について、あなたの考えに最も近いのはどれですか

i) 仕事の中に自分の創意や工夫を活かすことができる

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	無回答	合計
551	1229	481	126	103	114	2604
21.2	47.2	18.5	4.8	4.0	4.4	100.0

ii) 自分の責任で行える仕事が多い

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	無回答	合計
845	1208	318	84	39	110	2604
32.5	46.4	12.2	3.2	1.5	4.2	100.0

iii) 単純でつまらない仕事は少ない

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	無回答	合計
784	617	772	248	72	111	2604
30.1	23.7	29.6	9.5	2.8	4.3	100.0

iv) 自分たちの仕事は尊重されている

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	無回答	合計
633	1130	482	157	94	108	2604
24.3	43.4	18.5	6.0	3.6	4.1	100.0

v) 自分の仕事の範囲がはっきりしている

そうである	どちらかといえばそうである	どちらともいえない	どちらかといえばそうではない	そうではない	無回答	合計
605	1056	454	195	183	111	2604
23.2	40.6	17.4	7.5	7.0	4.3	100.0

Q74. 現在の職場での業務に満足されていますか

満足している	普通	不満足である	無回答	合計
730	1267	485	122	2604
28.0	48.7	18.6	4.7	100.0

Q75. Q74. で「不満足である」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

給料が低い	人間関係に不満	勤務形態に恵まれていない	昇進の見込がない	福利厚生が不備	設備・備品が不十分	患者に十分なサービスが提供できない	指導者不在	通勤が不便である	業務に興味がない	その他	回答者数
289	213	135	133	114	102	88	59	57	44	89	485
59.6	43.9	27.8	27.4	23.5	21.0	18.1	12.2	11.8	9.1	18.4	-

Q76. 現在の職場で仕事を続けたいと思いますか（複数回答可）

現在の職場で仕事を続けたい	現在の職場より条件のよいところがあれば移りたい	キャリアアップしたい	現在の職場を辞めたい	他の職種に移りたい	その他	回答者数
1469	978	264	167	107	78	2604
56.4	37.6	10.1	6.4	4.1	3.0	-

Q77. 視能訓練士の将来についてどのように考えていますか

さらに発展していく	現状と変わらない	現在より後退する	わからない	無回答	合計
449	1225	497	298	135	2604
17.2	47.0	19.1	11.4	5.2	100.0

Q78. Q77. で「さらに発展していく」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

眼科での専門職として評価されている	検診やロービジョン等の業務が定着する	職域の拡大が予想される	法的制約が緩和され業務範囲が広がった	その他	回答者数
367	209	63	24	19	449
81.7	46.5	14.0	5.3	4.2	-

Q79. Q77. で「現在より後退する」と答えた方に、その理由は何ですか（複数回答可）

知名度が低い	他の職種も同じ業務に従事し専門性が確立しない	視能訓練士のレベルの低下（学力の低下）	職域が狭い	検査・訓練の保険点数が低い	公的施設での定員化が遅れている	養成施設が多すぎる	教育・養成制度が統一されていない
259	246	196	192	151	117	102	88
52.1	49.5	39.4	38.6	30.4	23.5	20.5	17.7
研究環境が整っていない	免許取得者が少なすぎる	その他	回答者数				
38	22	140	497				
7.6	4.4	28.2	0.0				

Q80. 将来も視能訓練士として働くことを希望しますか

希望する	希望しない	わからない	無回答	合計
1836	61	573	134	2604
70.5	2.3	22.0	5.1	100.0

Q82. 今後のアンケート調査の回答について意向をお伺いします

インターネットを利用する	従来通り郵送にする	どちらでもよい	無回答	合計
791	700	979	134	2604
30.4	26.9	37.6	5.1	100.0

視能訓練士実態調査報告書 2020 年

発 行 公益社団法人 日本視能訓練士協会

代表者 南雲 幹

編 集 田野上 恭子（白書委員会）

事務局 〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町 1-8-5

新神田ビル2F

TEL 03-5209-5251

印 刷 株式会社リューブ

発行日 令和3年3月1日
